

技術的条件集別表 4.1

## **I S U P 仕様（網内信号部）**

技術的条件集別表 4.1 ( I S U P仕様 網内信号部) の記述に関する留意事項

1. 本別表は、当社網と特定端末系事業者及び特定中継事業者網間に適用します。当社網と他の事業者網との間では、適用できない場合があります。
2. 本別表では、技別 4 の規定と差分がある場合についてのみ、その具体的内容を記述している。以下に技別 4 の規定に準拠した事項及び、技別 4 の規定との間に差分がある事項の表記方法を示す。

- 1) 本別表の規定が技別 4 の規定に準拠している事項

【技別 4 に準拠する】

- 2) 本別表では規定していないが、技別 4 では規定している事項

【技別 4 では▽△を規定している】

▽            ~技別 4 の規定の記述~            △

- 3) 本別表で規定しているが、技別 4 では規定していない事項

▼            ~本別表規定の記述~            ▲

【技別 4 では▼▲を規定していない】

- 4) 本別表の規定と技別 4 の規定が異なる事項

▼            ~本別表規定の記述~            ▲

【技別 4 では▼▲の規定が異なる】

- 5) 本別表でも技別 4 でも規定していない事項

【規定しない】

3. 本別表で用いられる用語・語句の意味は、技別 4 の内容に準拠している。
4. 本別表のセクション番号は、基本的には T T C 標準のセクション番号に対応している。
5. 本別表は形態、分類にまたがる共通的な事項について記述しており、各形態・分類に閉じて特記する必要がある事項については、その旨を技術的条件集本文中に記述している。

## NTT-Q 761-1 No.7 信号方式 ISDNユーザ部の機能

### 1.概説

#### 1.1 本標準の範囲

ISDNユーザ部は、サービス統合デジタル網（ISDN）において音声・非音声アプリケーションに対する基本的なベアラサービスと付加サービスを提供するのに必要な信号機能を備えるNo.7 信号方式プロトコルである。

ISDNユーザ部は、ISDNユーザ部相互間の情報転送のために、メッセージ転送部（MTP）▼及びある場合には信号接続制御部（SCCP）▲が提供するサービスを利用する。

【技別4では▼▲を規定していない】

当社との相互接続における基本的なベアラサービスを提供するISDNユーザ部プロトコルは、▼NTT-Q 761-1からNTT-Q 764-1▲に説明してある。ISDNユーザ部の信号およびメッセージの概要は、▼NTT-Q 762-1▲で規定される。メッセージフォーマットおよびメッセージフィールドのコードは▼NTT-Q 763-1▲に規定されている。ISDN接続の設定および切断のための信号手順は、▼NTT-Q 764-1▲に規定されている。

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

#### 1.2 参考文献 【技別4に準拠する】

#### 1.3 用語と定義 【技別4に準拠する】

#### 1.4 略語 【技別4に準拠する】

### 2. ISDNユーザ部信号手順の概論

#### 2.1 アドレス信号 【技別4に準拠する】

#### 2.2 基本手順 【技別4に準拠する】

#### 2.3 信号方式

以下の信号方式が本標準で使用される。

－ リンクバイリンク

▼－ エンド・エンド▲

リンクバイリンク方式は、各交換機で検証されることが必要なメッセージに対して主に使用される（5章参照）。

▼エンド・エンド方式は、エンドポイントで意味を持つメッセージが使用される。▲

リンクバイリンク方式は、エンドポイントで意味を持つメッセージに対して使用してもよい。

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.4 インタワーキング 【規定しない】

### 3. ISDNユーザ部によってサポートされる能力

表3-1/NTT-Q 761-1はISDNユーザ部によって提供される信号能力の一覧である。

▼表3-1/NTT-Q 761-1

機能/サービス	本約款
付加サービスのための汎用信号手順	
エンド・エンド信号－SCCP コネクションオリエント <sup>o</sup>	○
エンド・エンド信号－SCCP コネクションレス	○

汎用番号転送	○
汎用通知手順	
簡易サービス活性化手順	○
遠隔オペレーション手順	○
網特有ファシリティ手順	
付加サービス	
DD I	○
MSN	○
CLIP/CLIR	○
COLP/COLR	○
サブアドレス	○
通信中機器移動	○
着信転送	○
呼毎着信転送	○
コールウェイティング	○
保留	○
会議電話	○
三者通話	○
CUG	○
UUS、サービス1（暗黙）	○
凡例：（○）本約款提供を示す。	



【技別4では▼▲を規定していない】

#### 4. メッセージ転送部（MTP）が提供するサービス

##### 4.1 総論【技別4に準拠する】

##### 4.2 プリミティブの説明【技別4に準拠する】

###### 4.2.1 転送【技別4に準拠する】

###### 4.2.2 休止【技別4に準拠する】

###### 4.2.3 再開【技別4に準拠する】

###### 4.2.4 状態表示

MTP-状態表示プリミティブは、MTPが特定の目的地への信号ルートが輻輳していること、▼または、目的地のISDNユーザ部が使用できないこと▲を示すために送る。

【技別4では、▼▲を規定していない】

影響される対地と理由は、プリミティブ中にパラメータ（表4-1/NTT-Q761-1参照）として運ばれる。

表4-1/NTT-Q. 761-1 メッセージ転送部サービスプリミティブ

プリミティブ	パラメータ
--------	-------

ジェネリック名	特定名称	
MT P - 転送	要求 表示	OPC DPC SLS SIO ユーザデータ
MT P - 休止	表示	影響されるDPC
MT P - 再開	表示	影響されるDPC
MT P - 状態表示	表示	影響されるDPC + 理由 (注参照)

凡例：

- OPC 発信号局コード
- DPC 着信号局コード
- SLS 信号リンク選択番号
- SIO サービス情報オクテット

注) 理由パラメータは、以下の▼2つの▲値が想定される。

【JT-Q761 では▼▲を規定していない】

一輻轉した信号網 (レベル)、レベルは輻轉優先順位を持った国内オプションと輻轉優先順位のない複数信号状態 (NTT-Q. 704 参照) が実装された場合にのみ含まれる。

▼

一相手ユーザ使用不可

▲【JT-Q761 では▼▲を規定していない】

## ▼5. エンド・エンド信号方式

### 5.1 概説

エンド・エンド信号は、要求ユーザに基本又は付加サービスを提供するため、信号エンド局間で直接エンド局で意味のある信号情報を転送するための能力として定義される。

通常、エンド・エンド信号は、付加的な呼に関連する情報に対する要求、その要求に対する応答、付加サービスの起動、又は網を通してトランスペアレントにユーザ・ユーザ情報を転送するため、発ローカル交換機と着ローカル交換機間で使用される。

エンド・エンド信号手順は、NTT-Q 764-1、付属資料Hに規定されている。

### 5.2 エンド・エンド信号SCCP法

エンド・エンド信号情報のコネクションオリエンテッド又はコネクションレス転送が、No. 7 信号方式の信号接続制御部 (SCCP) で提供されているサービスを用いることによりなし遂げられる。関連する手順は、NTT-Q 764-1、付属資料Hに規定されている。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

## 6. 将来の拡張とコンパチビリティ手順

新しい付加サービスを提供する際のプロトコル追加要求を満たすため必要に応じ、既存のプロトコル要素に追加変更を行うことによって、新しいプロトコル版を作成することが必要である。

十分なサービスの継続性を確保するためには、新しいプロトコル版を網の一部に挿入する場合に、その網の他

の部分に影響を及ぼさないようにしなくてはならない。新しい版を規定する際、次のガイドラインに従えばプロトコル版相互の互換性は、最適化されるであろう。

- (1) 既存のプロトコルの要素、即ち手順、メッセージ、パラメータ、およびコードは、プロトコルエラーを修正する場合、または当該プロトコルが支援しているサービスの運用を変更することが必要になった場合を除いて、変更すべきではない。
- (2) メッセージ、パラメータ、またはパラメータ内のフィールドの意味は、変更すべきではない。
- (3) メッセージのフォーマット、符号化のために設定されているルートは、変更すべきではない。
  
- (4) 既存メッセージの必須部分へのパラメータ追加は許容してはならない。▼必要な場合は、新しいメッセージが既存と新しい必須パラメータの必要なものを含み規定されるべきである。▲  
【技別4では▼▲を規定していない】
- (5) 既存メッセージへのパラメータの追加は、それがメッセージの付加部分に追加される場合に限って許される。
- (6) 既存の固定長必須部のパラメータへ新しいオクテットの追加は避けるべきである。▼必要な場合、新しいオプションパラメータが、既存及び新しい情報フィールドの必要なものを含み規定されるべきである。▲  
【技別4では▼▲を規定していない】
- (7) 既存の可変長パラメータ内のフィールドの順序は、変更せず維持すべきである。新しいフィールドは既存のパラメータフィールドの最後に追加される。パラメータフィールドの順序に変更が必要となった場合は、新しいパラメータを規定すべきである。
- (8) オールゼロコードポイントは、パラメータフィールドの未使用（予備）または無効値を示すために使用すべきである。これによって、あるプロトコル版で、予備値として送られたオールゼロコードを他の版で有効値として解釈するケースを避けることができる。
- (9) 【規定しない】

6.1 バージョンのコンパチビリティ 【規定しない】

6.2 ISDNユーザ部のコンパチビリティのための補足的なコーディングのガイドライン 【規定しない】

付録I (勧告 ITU-T Q.761) 動作指示表示使用方法のガイドライン 【規定しない】

1. 概 説

1.1 本標準の範囲 【技別4に準拠する】

1.2 参考文献 【技別4に準拠する】

1.3 用語と定義 【技別4に準拠する】

1.4 略語

表1/NTT-Q762-1にISDNユーザ部のメッセージ名の略語を定義する。

▼表1/NTT-Q762-1 ISDNユーザ部略語リスト

略 語	メッセージ
ACM	アドレス完了メッセージ
ANM	応答メッセージ
BLA	閉塞確認メッセージ
BLO	閉塞メッセージ
CPG	呼経過メッセージ
CHG	課金メッセージ
CQM	回線群状態要求メッセージ
CQR	回線群状態応答メッセージ
GRA	回線群リセット確認メッセージ
GRS	回線群リセットメッセージ
IAM	アドレスメッセージ
REL	切断メッセージ
RES	再開メッセージ
RLC	復旧完了メッセージ
RSC	回線リセットメッセージ
SGM	分割メッセージ
SUS	中断メッセージ
UBL	閉塞解除メッセージ
UBA	閉塞解除確認メッセージ
▼ COT	導通試験メッセージ
ALT	呼出中メッセージ
PRG	経過表示メッセージ
RGB	回線群閉塞メッセージ
RGB A	回線群閉塞確認メッセージ
CGU	回線群閉塞解除メッセージ
CGUA	回線群閉塞解除確認メッセージ
FAC	ファシリティメッセージ
PAM	パスアロングメッセージ
USR	ユーザ・ユーザ情報メッセージ ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

## 2. 信号メッセージ-

2.1 アドレス完了メッセージ (ACM) 【技別4に準拠する】

2.2 応答メッセージ (ANM) 【技別4に準拠する】

2.3 アプリケーション転送メッセージ (APM) 【規定しない】

2.4 閉塞メッセージ (BLO) 【技別4に準拠する】

2.5 閉塞確認メッセージ (BLA) 【技別4に準拠する】

2.6 呼経過メッセージ (CPG) 【技別4に準拠する】

▼2.6.1 呼出中メッセージ (ALT)

着ユーザの呼び出しが開始されたことを示すために、逆方向に送信されるメッセージ。

2.6.2 経過表示メッセージ (PRG)

呼の接続処理状態を通知するために、逆方向に送信されるメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.8 回線群閉塞メッセージ (CGB)

▼回線群の他方端の交換機から発信される後続呼に対し、その回線群を閉塞中の状態にするため、当該交換機に送信されるメッセージ。回線群閉塞メッセージを受信した交換機は、その交換機も閉塞メッセージを送信していない限り、当該回線に着信呼を受け入れることができることとする。特定の条件のもとでは、回線群閉塞メッセージが、回線リセットメッセージへの適切な応答になることもある。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.9 回線群閉塞確認メッセージ (CGBA)

▼回線群閉塞メッセージに応じて送信され、回線群が閉塞されたことを示すメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.10 回線群リセットメッセージ (GRS) 【技別4に準拠する】

2.11 回線群リセット確認メッセージ (GRA) 【技別4に準拠する】

2.12 回線群閉塞解除メッセージ (CGU)

▼先に閉塞メッセージ、または回線群閉塞メッセージにて閉塞中の状態した回線群の閉塞状態を解除するために回線群の他方端の交換機へ送信されるメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.13 回線群閉塞解除確認メッセージ (CGUA)

▼回線群閉塞解除メッセージに応じて送信され、回線群が閉塞解除されたことを示すメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.14 回線群状態要求メッセージ (CQM) 【技別4に準拠する】

2.15 回線群状態応答メッセージ (CQR) 【技別4に準拠する】

2.16 コンフュージョンメッセージ (CFN) 【規定しない】

2.17 接続メッセージ (CON) 【規定しない】

2.18 導通試験メッセージ (COT)

▼前位局より回線、及び選択された後位局への回線の導通しているとともに、交換機内の通話路が所定の信頼性を有していることを示す順方向に送信される信号。▲



【技別4では▼▲を規定していない】

▼2.21 ファシリティメッセージ (FAC)

他方の交換機の動作を要求する場合に、呼の任意のフェーズで両方向に送信されるメッセージ。前に要求された動作の結果、エラー、拒否を通知するためにも本メッセージは転送される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.28 アドレスメッセージ (IAM) 【技別4に準拠する】

2.30 ループ抑止表示メッセージ (LOP) 【規定しない】

▼2.34 パスアロングメッセージ (PAM)

2つの信号局間で、物理コネクションを確立するために使用されたのと同じ信号パスに沿って2信号局間で情報を転送するために、両方向に送信されうるメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.35 先行切断情報メッセージ (PRI) 【規定しない】

2.36 切断メッセージ (REL) 【技別4に準拠する】

2.37 復旧完了メッセージ (RLC) 【技別4に準拠する】

2.38 回線リセットメッセージ (RSC) 【技別4に準拠する】

2.39 再開メッセージ (RES) 【技別4に準拠する】

2.40 分割メッセージ (SGM) 【技別4に準拠する】

2.43 中断メッセージ (SUS) 【技別4に準拠する】

2.44 閉塞解除メッセージ (UBL) 【技別4に準拠する】

2.45 閉塞解除確認メッセージ (UBA) 【技別4に準拠する】

▼2.49 ユーザ・ユーザ情報メッセージ (USR)

呼制御メッセージと独立したユーザ・ユーザ情報の転送のために使用されるメッセージ。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.50 課金メッセージ (CHG) 【技別4に準拠する】

3. 信号パラメータ

3.1 アクセス配送情報 【規定しない】

3.2 アクセス転送 【技別4に準拠する】

3.3 アプリケーション転送パラメータ (APP) 【規定しない】

3.4 自動輻輳レベル 【規定しない】

3.5 逆方向呼表示 【技別4に準拠する】

▼3.11 呼番号

特定の呼の確認をするための回線に依存しない情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.13 コールトランスファ参照 【規定しない】

3.14 着ディレクトリ番号 【技別4に準拠する】

3.15 着IN番号 【技別4に準拠する】

3.16 着番号 【技別4に準拠する】

3.17 発測地位置 【規定しない】

3.18 発番号

発ユーザを識別するために順方向に送信される情報である。

▼公衆網の加入者に付与された番号の中で、その加入者を識別するための番号(注1)もしくはそれが付与さ

れていない場合には、サービス用番号（注2）がマッピングされるパラメータである。

（注1）公衆網への加入者に付与された番号のうち、1XY系サービス番号、0A0系番号（移動系サービス番号）、0AB0系番号（付加サービス用に付与されたもの）を除いた番号（+81 35359 5727など）

（注2）各種サービスを利用するため、当該サービス『1XY系サービス番号、0A0系番号（移動系サービス番号）、0AB0系番号（付加サービス用に付与されたもの）』を一意に識別するための番号（120-…, 990-…, 30-…, 50-…, 161-…など）▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.19 発ユーザ種別 【技別4に準拠する】

3.20 理由表示 【技別4に準拠する】

3.22 CCSS 【規定しない】

3.25 回線群監視メッセージ種別

▼回線群閉塞または回線群閉塞解除メッセージに含まれて送信され、その閉塞または閉塞解除が、保守によるものか、ハードウェアによるものかを示す情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.26 回線状態表示 【技別4に準拠する】

3.27 閉域接続インタロックコード

▼網内において閉域ユーザグループを一元的に識別する情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.30 接続先番号 【規定しない】

▼3.31 接続要求

エンド・エンド接続の確立を要求するために、信号接続制御部（SCCP）に代わって順方向に送信される情報。

3.31.1 クレジット

信号接続制御部（SCCP）によって要求されるエンド・エンド接続のウィンドサイズを表示するため、接続要求パラメータの中に含まれて送信される情報。

3.31.2 ローカル参照番号

エンド・エンド接続に対して、SCCPによって割り当てられるローカル参照番号を示すために、接続要求パラメータに含まれて送信される情報である。

3.31.3 局番号

呼番号に割り当てられた呼識別番号に関する信号局のコードを示すために、呼番号パラメータに含んで送信される情報である。

3.31.4 プロトコルクラス

エンド・エンド接続のため、信号接続制御部（SCCP）によって要求されるプロトコルクラスを示すために、接続要求パラメータに含まれて送信される情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.32 導通表示

▼出回線において導通試験が成功したかどうかを表示するため、順方向に送信される情報。導通試験成功表示は、前位回線が導通し交換機を通る経路が規定の信頼度に達したことも意味する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.33 相関id 【技別4に準拠する】

3.36 オプションパラメータ終了表示 【技別4に準拠する】

3.37 イベント情報 【技別4に準拠する】

- 3.39 順方向呼表示 【技別4に準拠する】
- 3.41 汎用ディジット 【技別4に準拠する】
- 3.42 汎用通知識別子 【規定しない】
- 3.43 汎用番号 【技別4に準拠する】
- 3.50 ループ抑止表示 【規定しない】
- 3.53 メッセージコンパチビリティ情報パラメータ 【規定しない】
- 3.55 接続特性表示 【技別4に準拠する】
- 3.58 網特有ファシリティ 【規定しない】
- 3.60 オプション逆方向呼表示 【技別4に準拠する】
- 3.61 オプション順方向呼表示 【技別4に準拠する】
- 3.62 第一着番号 【技別4に準拠する】
- 3.63 第一着IN番号 【技別4に準拠する】
- 3.65 パラメータコンパチビリティ情報パラメータ 【規定しない】
- 3.74 範囲と状態 【技別4に準拠する】
- 3.75 リダイレクション逆方向情報 【技別4に準拠する】
- 3.76 リダイレクション能力 【技別4に準拠する】
- 3.77 リダイレクション回数 【技別4に準拠する】
- 3.78 リダイレクション順方向情報 【技別4に準拠する】
- 3.80 転送元番号【技別4に準拠する】
- 3.81 着信転送情報 【技別4に準拠する】
- 3.82 転送先番号【技別4に準拠する】
- ▼3.84 リモートオペレーション（国内用）
  - リモートオペレーションパラメータは、オペレーション値によって示される付加サービスの起動を表すために使用される。またそのオペレーションに対する応答、エラー表示の転送にも使用される。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 3.85 S C F i d 【技別4に準拠する】
- 3.86 サービス活性化 【技別4に準拠する】
- 3.87 信号局コード
  - ▼切断メッセージに含まれて送信され、呼が失敗した信号局を識別する情報。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 3.89 中断／再開表示 【技別4に準拠する】
- 3.90 中継網選択 【技別4に準拠する】
- 3.91 通信路要求表示 【技別4に準拠する】
- ▼3.91.1 付加情報転送
  - 個々のサービスで必要となる情報を送信するために、順方向に送信される情報である。
- 3.91.2 マルチスロット表示
  - 呼に使用される複数の64kbit/s回線を示すために送信される情報である。
- 3.91.3 試験呼情報
  - 試験呼に対して、試験機能要求、試験情報等を転送するための情報。
- 3.91.4 保守運用情報
  - 保守運用上の情報を転送するための情報である。例えば、迂回ルート上で呼損があった場合に、ダイナミックに迂回ルートの変更を可能とするため、迂回ルート上で呼損があったことを表示するのに用いる。
- 3.91.5 グローバル情報

当社特有の情報で、且つリンクバイリンクに必要となる情報である。

### 3.91.6 エンド情報転送

当社特有の情報で、且つサービス制御終端局にて処理に必要となる情報である。

### 3.91.7 従属パラメータ

#### 3.91.7.1 機能レベル表示

機能レベルを識別するための情報である。

#### 3.91.7.6 CUG接続制御

閉域接続における有効化チェック、PNPとの競合可否を通知するための情報。

#### 3.91.7.7 第2網機能種別

任意の交換機間で、呼に対して特定の網機能を実行するために、送信される情報。

#### 3.91.7.8 第1衛星チャネル表示

第1番目の衛星回線チャネル番号を転送するための情報。

#### 3.91.7.9 第2衛星チャネル表示

第2番目の衛星回線チャネル番号を転送するための情報。

#### 3.91.7.10 通信中発信呼表示

当該呼が他の呼の通信中に発信されたことを示すために、順方向に送信される情報。

#### 3.91.7.11 発ユーザ番号

発側ユーザの論理番号を転送するための情報。

#### 3.91.7.12 着ユーザ番号

着側ユーザの論理番号を転送するための情報。

#### 3.91.7.13 オプション転送情報

転送サービスに付随する情報。

#### 3.91.7.14 転送元ユーザ番号

転送元ユーザの論理番号を転送するための情報。

#### 3.91.7.15 着信指示用音源種別

着信指示時の音源種別を転送するための情報。

#### 3.91.7.16 閉番号区域内呼表示

閉番号区域内呼であることを示すために転送される情報。

#### 3.91.7.17 網状態

メッセージを送信・中継する際、網の状態を通知するために、両方向に送信される情報。

#### 3.91.7.18 詳細理由

メッセージを送信する詳細な理由を示すために、両方向に送信される情報。

#### 3.91.7.20 第1着ユーザ番号

呼が一回以上転送され、最初の着側ユーザの論理番号を識別する時に、順方向に送信される情報。

#### 3.91.7.21 着信拒否遭遇呼

呼が着信拒否に遭遇したことを識別するために、逆方向に送信される情報。

#### 3.91.7.23 ガイダンス通知拒否表示

発側でガイダンス通知をする際、着側からガイダンス通知の拒否条件を通知するために、逆方向に送信される情報。

#### 3.91.7.24 クラス符号

案内台接続特有の発ユーザのクラスを識別するために、順方向に送信される情報。

#### 3.91.7.25 NSP設定情報

呼情報送出時に必要なNSP情報を逆方向に通知するための情報。

### 3.91.7.26 番号変換履歴

番号変換履歴を逆方向に通知するための情報。

### 3.91.7.27 I AM情報

アドレス信号の内容を保証するために、逆方向に送信される情報。

### 3.91.7.28 網特有ロケーション番号

ユーザの位置をE.164の形式で識別する情報である。具体的には、エンド交換機が収容するアクセスラインを識別する情報がマッピングされる。

### 3.91.7.29 回線優先クラス

呼種等の条件により発ユーザ種別では回線優先度を決定できない場合に順方向に送信される情報。

### 3.91.7.30 着ユーザ付加サービス情報

着側ユーザの付加サービス条件を発側に通知するために、逆方向に送信される情報。

### 3.91.7.31 網特有汎用通知識別子

ユーザ（またはエンド交換機）に付加サービス通知をおこなうために両方向に送信される情報。

### 3.91.7.32 ポータビリティ番号

番号ポータビリティのポータビリティ番号を転送するための情報。

### 3.91.7.33 隣接網形態識別

隣接網の網形態を識別するために順方向に転送される情報。

（注）なお、具体的に設定する情報としては、ノードにおける処理が同一である網形態種別毎にコードを付与することとする。

### 3.91.7.34 網特有事業者情報

事業者間の情報を表示するために両方向に送信される情報。

### 3.91.7.36 オペレータサービス特有情報

新NPS間で呼を転送する際、転送元から転送先コミュニケータへの、コミュニケータ取り扱い情報を示す。

### 3.91.7.37 削除

### 3.91.9 呼情報

呼情報生成に必要な情報を転送するために両方向に送信される情報。

### 3.91.10 リダイレクション理由

リダイレクションが起動された理由を通知するために両方向に送信される情報。

### 3.91.11 試験情報転送

No.7共通線信号網とそのエンド交換機の呼接続試験に関連しない試験に関する情報を送信する情報。たとえば、加入者線試験に関する情報を転送する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.94 UID動作表示 【規定しない】

3.95 UID能力表示 【規定しない】

3.96 ユーザサービス情報 【技別4に準拠する】

3.98 ユーザテレサービス情報 【規定しない】

3.99 ユーザ・ユーザ表示 【技別4に準拠する】

3.100 ユーザ・ユーザ情報 【技別4に準拠する】

3.101 網機能種別

▼個々の網で、独自に任意の交換機間で、呼に対して特定の網機能を実行するために、両方向に送信される情報。

▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.102 料金区域情報 【技別4に準拠する】

- 3.103 課金情報 【技別4に準拠する】
- 3.104 課金情報種別 【技別4に準拠する】
- ▼3.104.1 I S D Nユーザ表示
  - S点インターフェースがD S S 1 インタフェースでないことを示すため、両方向に送信される情報。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
  - 3.105 契約者番号 【技別4に準拠する】
  - 3.106 移動通信用エンド情報転送 【規定しない】
  - 3.107 移動通信用呼番号 【規定しない】
  - 3.108 P H S 端末識別番号 【規定しない】
  - 3.109 発信者番号非通知理由 【技別4に準拠する】
  - 3.110 国内用リダイレクション理由 【規定しない】
  - 3.111 付加ユーザ種別 【技別4に準拠する】
  - 3.112 課金情報遅延 【技別4に準拠する】
  - 3.113 事業者情報転送 【技別4に準拠する】
  - 3.114 輻輳制御済み通知情報
    - ▼ある交換機での輻輳に対し、前位の交換機での当該輻輳に対しての制御を実施したことを通知するために順方向に送信される情報▲
    - 【技別4では▼▲を規定していない】
  - 3.115 発測地速度情報 【規定しない】
  - 3.116 緊急通報呼表示 【技別4に準拠する】
- 4. パラメータ情報
  - 4.1 アクセス配送表示 【規定しない】
  - 4.2 表示識別 【技別4に準拠する】
  - 4.3 アドレス情報 【技別4に準拠する】
  - 4.4 高度 【規定しない】
  - 4.5 高度符号 【規定しない】
  - 4.6 高度誤差符号 【規定しない】
  - 4.7 A P M 分割表示 【規定しない】
  - 4.8 アプリケーションコンテキスト識別子 【規定しない】
  - 4.9 アプリケーション転送動作指示表示 (A T I I) 【規定しない】
  - 4.10 バイナリコード
    - ▼特定の I S D N やデータ網によって管理される閉域ユーザグループに割り当てられるコード。▲
    - 【技別4では▼▲を規定していない】
  - 4.11 着信転送可能性表示 【技別4に準拠する】
- ▼4.12 呼識別番号
  - 信号局での呼の識別を示すために呼番号パラメータに含んで送信される情報。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
  - 4.15 着ユーザ種別表示 【技別4に準拠する】
  - 4.16 着ユーザ状態表示 【技別4に準拠する】
  - 4.21 理由表示値 【技別4に準拠する】

- 4.22 CCSS 呼表示 【規定しない】
- 4.24 課金表示 【技別4に準拠する】
- 4.27 回線番号 【技別4に準拠する】
- 4.28 閉域接続呼表示

▼関連する呼が、閉域接続呼として呼設定されたか否か、及び閉域接続呼であれば、発信アクセスが許容されるか否かを示す情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 4.29 コーディング標準 【技別4に準拠する】

▼4.31 コンポーネント種別（国内用）

リモートオペレーションパラメータには、4種類のコンポーネント種別が含まれる。勧告X.2 29で定義される4つのプロトコルデータユニット（PDU）が使用される。すなわち：

コンポーネント	X. 2 2 9 PDU
起動	ROIV
結果応答	ROIS
エラー応答	ROER
拒否	RORJ

コンポーネント種別は以下のように定義される：

- a) 起動  
起動コンポーネントはオペレーションの実行を要求する。それは、予め他方より送信された他のオペレーション起動と関連づけられているかもしれない。この場合、“関連起動”と呼ばれる。
- b) 結果応答  
結果応答コンポーネントはオペレーションの正常完了を報告する。
- c) エラー応答  
エラー応答コンポーネントはオペレーションが正常に終了していない事を報告する。
- d) 拒否  
拒否コンポーネントは拒否コンポーネント以外の不正コンポーネントの受信と拒否を報告する。コンポーネント拒否の可能な理由は、問題コード要素に定義されている。

4.32 コンポーネント種別タグ

リモートオペレーションで使用されるコンポーネントの種別を識別するための情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 4.33 信頼度 【規定しない】
- 4.35 接続先番号要求表示 【規定しない】
- 4.36 導通試験表示 【技別4に準拠する】
- 4.38 緯度 【規定しない】
- 4.39 経度 【規定しない】
- 4.40 診断情報 【技別4に準拠する】
- 4.41 メッセージ廃棄表示 【規定しない】
- 4.42 パラメータ廃棄表示 【規定しない】
- 4.43 エコー制御装置表示 【技別4に準拠する】
- 4.44 楕円体表面上の楕円の形状記述 【規定しない】
- 4.44a 楕円体弧 【規定しない】
- 4.45 楕円体扇形状記述 【規定しない】
- 4.46 楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 4.47 誤差を含む楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 4.48 包含アプリケーション情報 【規定しない】
- 4.49 コード化法 【技別4に準拠する】
- 4.50 エンド・エンド情報表示 【技別4に準拠する】
- 4.51 エンド・エンド法表示 【技別4に準拠する】

- 4.53 イベント表示 【技別4に準拠する】
- 4.54 イベント提示制限表示 【技別4に準拠する】
- 4.55 拡張表示 【技別4に準拠する】
- ▼4.57 フィーチャコード（国内用）
  - 付加サービスのための特定の動作を起動、受信、拒否するために両方向に送信される情報。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 4.58 フィラー 【技別4に準拠する】
- ▼4.59 保留表示（国内用）
  - 接続の保留が要求されていることを示すために、逆方向に送信される情報。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 4.61 インバンド情報表示 【技別4に準拠する】
- 4.62 内角 【規定しない】
- 4.65 動作指示 【規定しない】
- 4.66 網内番号表示 【技別4に準拠する】
- 4.67 相互接続表示 【技別4に準拠する】
- ▼4.69 起動ID（国内用）
  - 起動IDはオペレーションの起動をユニークに識別するために参照番号として使用される。起動コンポーネント及び起動コンポーネントへの応答（結果応答、エラー応答又は拒否）に含まれ、応答を起動に関連づけている。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 4.71 リダイレクション起動理由 【技別4に準拠する】
- 4.72 ISDNアクセス表示 【技別4に準拠する】
- 4.73 ISUP1リンク表示 【技別4に準拠する】
- 4.74 ISUP1リンク希望表示 【技別4に準拠する】
- 4.75 情報長（各コンポーネントや情報要素に関する）
  - ▼コンポーネントまたは情報要素のオクテット数を示すバイナリコードの情報。値は、パラメータ名、パラメータ長、オプションパラメータ終了表示のオクテット数を含まない。▲
  - 【技別4では▼▲を規定していない】
- 4.78 緯度符号 【規定しない】
- 4.79 生成源 【技別4に準拠する】
- 4.80 位置情報表示制限指示 【規定しない】
- 4.82 長半径 【規定しない】
- 4.83 短半径 【規定しない】
- 4.86 拡張動作指示表示 【規定しない】
- 4.87 国内／国際呼表示 【技別4に準拠する】
- 4.88 番号種別 【技別4に準拠する】
- 4.89 網廃棄表示 【規定しない】
- 4.90 網識別計画 【規定しない】
- 4.91 網識別子 【規定しない】
- 4.92 網識別 【規定しない】
- 4.93 網特有ファシリティ識別子 【規定しない】
- 4.94 通知識別子 【規定しない】
- 4.96 第N新規パラメータ名 【規定しない】



- 4.97 番号不完全表示 【技別4に準拠する】
- 4.99 番号情報識別子 【技別4に準拠する】
- 4.100 番号計画表示 【技別4に準拠する】
- 4.101 奇数／偶数表示 【技別4に準拠する】
- 4.102 オフセット 【規定しない】

▼4.103 オペレーションコード (国内用)

オペレーションコード要素は、まさしく起動されるオペレーションを示し起動コンポーネント種別に含まれる。もし結果がパラメータを含むならば、オペレーションコード要素は結果応答コンポーネントにも含まれる。

オペレーションはローカルオペレーション又はグローバルオペレーションでありうる。ローカルオペレーションは1つのASEのみで使用されうる。また同一のグローバルオペレーションが複数の異なるASEで使用されうる。

実際のオペレーションコード、オペレーションとそれに関連するパラメータの定義は適当な付加サービスの仕様書に定義される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 4.104 方位 【規定しない】
- 4.105 第一転送理由 【技別4に準拠する】
- 4.110 通過不可表示 【規定しない】
- 4.112 リダイレクション実行表示 【技別4に準拠する】
- 4.114 高度情報と誤差を含む点の形状記述 【規定しない】
- 4.115 多角形状記述 【規定しない】

▼4.117 問題コード (国内用)

問題コード要素はコンポーネント拒否の理由を含み、1つの要素が拒否コンポーネントに含まれる。4つの問題コード要素が定義される。すなわち

a) 一般問題

この要素は、一般にISUPのリモートオペレーション能力にあてはまりどの特定のコンポーネント種別にも関連がない問題コードのひとつを含む。これらはすべてISUPのリモートオペレーション能力によって生成される。すなわち

ー 未定義コンポーネント

コンポーネント種別が、コンポーネント種別を記述している2.27A節で定義されているもののひとつとして認識されない。

ー 誤りコンポーネント

コンポーネントの要素構成がNTT-Q763-1で定義されている当該コンポーネントの構成と一致しない。

ー 構成誤りコンポーネント

コンポーネントの内容がNTT-Q763-1で定義されている符号化則と一致しない。

表1/NTT-Q762-1

一般問題拒否種別に対応する一般問題拒否シナリオのマッピング例

一般問題	理由例
未定義コンポーネント (コンポーネント種別が、2.27A節で定義されているもののひとつとして認識されない)	コンポーネント種別タグが起動、結果応答、エラー応答もしくは拒否のいずれとしても認識されない。

<p>誤りコンポーネント (コンポーネントの要素構成がNTT-Q763-1で定義されている当該コンポーネントの構成と一致しない)</p>	<p>起動ID要素が欠けている 期待したオペレーションコード要素が存在しない エラー応答コンポーネントがエラーコード要素なしで受信された コンポーネント中の受信した情報要素の順番がそのコンポーネント種別についてNTT-Q763-1と一致しない</p>
<p>構成誤りコンポーネント (コンポーネントの内容がNTT-Q763-1で定義されている符号化則と一致しない)</p>	<p>長さ表示値が128オクテットより小さいが短形式でコード化されていない</p>

b) 起動問題

この要素は起動コンポーネント種別にのみ関連する問題コードのひとつを含む。すなわち

— 二重定義起動ID

起動IDが以前に起動されたオペレーションですでに使用されている。

— 未定義オペレーション

オペレーションコード値がASEで使用されているものではない。

— 未定義パラメータ

起動パラメータの種別がユーザ間で合意されたものでないことを意味する。

— リソース限界

要求されたオペレーションを遂行するために十分なリソースを利用できない。

— 解放起動

アソシエーションを解放しようとしているため要求されたオペレーションを起動できない。

— 未定義関連ID

関連IDが以前に起動されたオペレーションに対応していない。

— 期待されない関連応答

関連IDによって参照されたオペレーションは関連起動を認められたオペレーションではない。

— 期待されない関連オペレーション

関連IDによって参照されたオペレーションはこの関連オペレーションを認めていない。

c) 結果応答問題

この要素は結果応答コンポーネント種別にのみ関連する問題コードのひとつを含む。すなわち

— 未定義起動ID

指定された起動IDに対応するオペレーションが実行中でない。

— 期待されない結果応答

起動されたオペレーションが成功を報告しない。

— 未定義パラメータ

結果応答パラメータの種別がユーザ間で合意されたものでないことを意味する。

d) エラー応答問題

この要素はエラー応答コンポーネント種別にのみ関連する問題コードのひとつを含む。すなわち

— 未定義起動 I D

指定された起動 I D に対応するオペレーションが実行中でない。

— 期待されないエラー応答

起動されたオペレーションが失敗を報告しない。

— 未定義エラー

通知されたエラーは起動されたオペレーションのために定義されたものではない。

— 期待されないエラー

受信したエラーは起動されたオペレーションが報告しうるものの 1 つではない。

— 未定義パラメータ

エラーパラメータの種別がユーザ間で合意されたものではないことを意味する。

4.119 プロトコルプロファイル (国内用)

遠隔オペレーションパラメータで使用されるプロトコルを示すために両方向に送信される情報。▲

【技別 4 では▼▲を規定していない】

4.120 プロトコル制御表示 【技別 4 に準拠する】

4.121 半径 【規定しない】

4.122 範囲 【技別 4 に準拠する】

4.123 リダイレクション可能表示 【技別 4 に準拠する】

4.124 転送表示 【技別 4 に準拠する】

4.125 転送理由 【技別 4 に準拠する】

4.126 転送回数 【技別 4 に準拠する】

4.127 呼解放表示 【規定しない】

4.131 ルーチングラベル 【技別 4 に準拠する】

4.132 衛星回線表示 【技別 4 に準拠する】

4.133 S C C P 法表示 【技別 4 に準拠する】

4.134 網検証識別 【技別 4 に準拠する】

4.135 分割ローカル参照 (S L R) 【規定しない】

4.136 通知送信表示 【規定しない】

▼4.137 シーケンス (国内用)

シーケンスは順序づけられたセットである。▲

【技別 4 では▼▲を規定していない】

4.138 シーケンス表示 【規定しない】

▼4.139 セット (国内用)

セットはコンポーネントに付随する情報要素の組を含むために使用される。これはコンポーネントに 1 つより

多くの情報要素が含まれる場合に要求される。情報要素そのものは関連する付加サービスの仕様書に定義される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

4.140 形状記述 【規定しない】

4.141 信号局コード

▼信号局を識別する情報。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

4.142 簡易分割表示 【技別4に準拠する】

4.144 状態 【技別4に準拠する】

4.145 タイマT9表示 【規定しない】

4.146 タイマT9指示表示 【規定しない】

4.150 スループス接続表示 【規定しない】

4.151 スループス接続指示表示 【規定しない】

4.152 中継交換機転送表示 【規定しない】

4.153 種別 【規定しない】

4.154 デジタル種別（国内用） 【技別4に準拠する】

4.155 網識別種別 【技別4に準拠する】

4.156 形状種別 【規定しない】

4.157 誤差符号 【規定しない】

4.158 APM分割表示 【規定しない】

4.159 着アドレス 【規定しない】

4.160 着アドレス長 【規定しない】

4.161 発アドレス 【規定しない】

4.162 発アドレス長 【規定しない】

4.163 経由情報転送表示 【技別4に準拠する】

4.164 事業者情報 【技別4に準拠する】

4.165 発事業者情報 【技別4に準拠する】

4.166 着事業者情報 【技別4に準拠する】

4.167 選択中継事業者情報 【技別4に準拠する】

4.168 経由事業者情報 【技別4に準拠する】

4.169 SCP事業者情報 【技別4に準拠する】

4.170 事業者情報従属 【技別4に準拠する】

4.171 事業者識別コード 【技別4に準拠する】

4.172 POI-料金区域情報 【技別4に準拠する】

4.173 POI-階梯情報 【技別4に準拠する】

4.174 輻輳制御対象外桁数

▼輻輳制御を実施した番号情報に対する輻輳制御対象外桁数。着番号パラメータに含まれるアドレス情報（輻輳制御交換機からの発信時は、着番号パラメータに設定するアドレス情報）の全桁数から、制御対象番号の桁数を引いた値を示す情報▲

【技別4では▼▲を規定していない】

4.175 移転元SCP事業者情報 【技別4に準拠する】

4.176 移転先SCP事業者情報 【技別4に準拠する】

- 4.177 高度情報を含む楕円体状の点 【規定しない】
- 4.178 高度情報と楕円体誤差を含む楕円体上の点 【規定しない】
- 4.179 水平速度 【規定しない】
- 4.180 水平垂直速度 【規定しない】
- 4.181 誤差を含む水平速度 【規定しない】
- 4.182 誤差を含む水平垂直速度 【規定しない】
- 4.183 緊急通報呼種別 【技別4に準拠する】

1. 概説

- 1.0 本標準の範囲、参考文献、定義、略語 【技別4に準拠する】
- 1.01 本標準の範囲 【技別4に準拠する】
- 1.02 参考文献 【技別4に準拠する】
- 1.03 定義 【技別4に準拠する】
- 1.04 略語 【技別4に準拠する】
- 1.05 コーディング原則の概要 【技別4に準拠する】
- 1.1 ルーチングラベル 【技別4に準拠する】
- 1.2 回線番号 【技別4に準拠する】
- 1.3 メッセージ種別

メッセージ種別は、1オクテットからなり、全てのメッセージに必須である。メッセージ種別によりISDNユーザ部のメッセージの機能とフォーマットが一義的に決まる。

この標準に記述された章は表1-4/NTT-Q763-1にまとめてある。

表1-4/NTT-Q763-1

メッセージ種別	略称	参照(表)	コード	記事
アドレス完了	ACM	4-1/NTT-Q763-1	00000110	
応答	ANM	4-2/NTT-Q763-1	00001001	
閉塞	BLO	4-19/NTT-Q763-1	00010011	
閉塞確認	BLA	4-19/NTT-Q763-1	00010101	
呼経過	CPG	4-3/NTT-Q763-1	00101100	
回線状態要求	CQM	4-21/NTT-Q763-1	00101010	
回線状態応答	CQR	4-4/NTT-Q763-1	00101011	
回線群リセット	GRS	4-21/NTT-Q763-1	00010111	
回線群リセット確認	GRA	4-5/NTT-Q763-1	00101001	
アドレス	IAM	4-12/NTT-Q763-1	00000001	
切断	REL	4-13/NTT-Q763-1	00001100	
復旧完了	RLC	4-14/NTT-Q763-1	00010000	
回線リセット	RSC	4-19/NTT-Q763-1	00010010	
再開	RES	4-18/NTT-Q763-1	00001110	
分割	SGM	4-29/NTT-Q763-1	00111000	
中断	SUS	4-18/NTT-Q763-1	00001101	
閉塞解除	UBL	4-19/NTT-Q763-1	00010100	
閉塞解除確認	UBA	4-19/NTT-Q763-1	00010110	
課金	CHG	4-34/NTT-Q763-1	11111110	
▼回線群閉塞	CGB	4-20/NTT-Q763-1	00011000	
回線群閉塞確認	CGBA	4-20/NTT-Q763-1	00011010	
回線群閉塞解除	CGU	4-20/NTT-Q763-1	00011001	
回線群閉塞解除確認	CGUA	4-20/NTT-Q763-1	00011011	
導通試験	COT	4-8/NTT-Q763-1	00000101	
ファシリティ	FAC	4-25/NTT-Q763-1	00110011	
パスアロング	PAM	4-23/NTT-Q763-1	00101000	
ユーザ・ユーザ情報	USR	4-16/NTT-Q763-1	00101101	
経過表示	PRG	4-34-1/NTT-Q763-1	11111101	
呼出中	ALT	4-34-2/NTT-Q763-1	11111100▲	

【技別4では▼▲を規定していない】

- 1.4 フォーマッティングの原則 【技別4に準拠する】
- 1.5 固定長必須部 【技別4に準拠する】
- 1.6 可変長必須部 【技別4に準拠する】
- 1.7 オプション部 【技別4に準拠する】
- 1.8 オプションパラメータの終了表示オクテット 【技別4に準拠する】
- 1.9 送出順序 【技別4に準拠する】
- 1.10 予備ビットのコーディング 【技別4に準拠する】
- 1.11 国内用信号種別とパラメータ 【技別4に準拠する】
- 1.12 メッセージ種別とパラメータコードの割当て 【技別4に準拠する】
- 1.13 「予備」コードと「留保」コードの意味 【技別4に準拠する】

2. パラメータのコード

2.1 メッセージ種別のコード

メッセージ種別パラメータのコーディング法を表 1-4/NTT-Q763-1 に示す

2.2 長さ表示のコーディング 【技別 4 に準拠する】

2.3 ポインタのコーディング 【技別 4 に準拠する】

### 3. ISDNユーザ部のパラメータ

#### 3.1 パラメータ名

パラメータ名のコードを、パラメータの内容を規定している章番号と併せて、表3-1/NTT-Q763-1に示す。

表3-1/NTT-Q763-1

パラメータ名	節番号	コード	記事
アクセス転送	3.3	00000011	
逆方向呼表示	3.5	00010001	
▼呼番号	3.8	00000001▲	
着番号	3.9	00000100	
発番号	3.10	00001010	
発ユーザ種別	3.11	00001001	
理由表示	3.12	00010010	
▼回線群監視メッセージ種別表示	3.13	00010101▲	
回線状態表示 (国内用)	3.14	00100110	
▼閉域接続インタロックコード	3.15	00011010	
接続要求	3.17	00001101	
導通表示	3.18	00010000▲	
オプションパラメータ終了表示	3.20	00000000	
イベント情報	3.21	00100100	
順方向呼表示	3.23	00000111	
汎用ディジット (国内用)	3.24	11000001	
汎用番号	3.26	11000000	
接続特性表示	3.35	00000110	
オプション逆方向呼表示	3.37	00101001	
オプション順方向呼表示	3.38	00001000	
第一着番号	3.39	00101000	
範囲と状態	3.43	00010110	
転送元番号	3.44	00001011	
着信転送情報	3.45	00010011	
転送先番号	3.46	00001100	
▼リモートオペレーション	3.48	00110010▲	
サービス活性化	3.49	00110011	
▼信号局コード (国内用)	3.50	00011110▲	
中断/再開表示	3.52	00100010	
中継網選択 (国内用)	3.53	00100011	
通信路要求表示	3.54	00000010	
ユーザサービス情報	3.57	00011101	
ユーザ・ユーザ表示	3.60	00101010	
ユーザ・ユーザ情報	3.61	00100000	
相関id	3.70	01100101	
SCFid	3.71	01100110	
着IN番号	3.73	01101111	
▼網機能種別	3.102	11111110▲	
料金区域情報	3.103	11111101	
▼ISDNユーザ表示	3.103.1	11111100▲	
課金情報	3.104	11111011	
課金情報種別	3.105	11111010	
契約者番号	3.106	11111001	
発信者番号非通知理由	3.110	11110101	
▼付加情報転送	3.91.1	11011110	
マルチスロット表示	3.91.2	00100101	
試験呼情報	3.91.3	11101110	
保守運用情報	3.91.4	11100001	
グローバル情報	3.91.5	11101101	
エンド情報転送	3.91.6	11101100	
呼情報	3.91.9	11101010▲	



▼試験情報転送	3.111.1	1 1 1 0 1 0 0 0	
リダイレクション理由	3.111.2	1 1 1 0 1 0 0 1▲	
付加ユーザ種別	3.112	1 1 1 1 0 0 1 1	
課金情報遅延	3.113	1 1 1 1 0 0 1 0	
事業者情報転送	3.114	1 1 1 1 0 0 0 1	
▼輻輳制御済み通知情報	3.115	1 1 1 1 0 0 0 0▲	
第一着 I N 番号	3.87	0 1 1 1 1 1 1 1	
リダイレクション逆方向情報 (国内用)	3.100	1 0 0 0 1 1 0 0	
リダイレクション順方向情報 (国内用)	3.99	1 0 0 0 1 0 1 1	
リダイレクション能力 (国内用)	3.96	0 1 0 0 1 1 1 0	
リダイレクション回数 (国内用)	3.97	0 1 1 1 0 1 1 1	
緊急通報呼表示	3.117	1 1 0 1 0 1 1 1	
着ディレクトリ番号 (国内用)	3.86	0 1 1 1 1 1 0 1	
▼ (グローバル情報、エンド情報転送パラメータの従属パラメータ)			
機能レベル表示	3.91.7.1	0 0 0 0 0 0 1 0	
CUG接続制御	3.91.7.6	0 0 0 0 0 1 1 1	
第2網機能種別	3.91.7.7	0 0 0 0 1 0 0 0	
第1衛星チャネル表示	3.91.7.8	0 0 0 0 1 0 0 1	
第2衛星チャネル表示	3.91.7.9	0 0 0 0 1 0 1 0	
通信中発信呼表示	3.91.7.10	0 0 0 0 1 0 1 1	
発ユーザ番号	3.91.7.11	0 0 0 0 1 1 0 0	
着ユーザ番号	3.91.7.12	0 0 0 0 1 1 0 1	
オプション転送情報	3.91.7.13	0 0 0 0 1 1 1 0	
転送元ユーザ番号	3.91.7.14	0 0 0 0 1 1 1 1	
着信指示用音源種別	3.91.7.15	0 0 0 1 0 0 0 0	
閉番号区域内呼情報	3.91.7.16	0 0 0 1 0 0 0 1	
網状態	3.91.7.17	0 0 0 1 0 0 1 0	
詳細理由	3.91.7.18	0 0 0 1 0 0 1 1	
第1着ユーザ番号	3.91.7.20	0 0 0 1 0 1 0 1	
着信拒否遭遇呼	3.91.7.21	0 0 0 1 0 1 1 0	
ガイダンス通知拒否表示	3.91.7.23	0 0 0 1 1 0 0 0	
クラス符号	3.91.7.24	0 0 0 1 1 0 0 1	
N S P 設定情報	3.91.7.25	0 0 0 1 1 0 1 0	
番号変換履歴	3.91.7.26	0 0 0 1 1 0 1 1	
I A M 情報	3.91.7.27	0 0 0 1 1 1 0 0	
網特有ロケーション番号	3.91.7.28	0 0 0 1 1 1 0 1	
回線優先クラス	3.91.7.29	0 0 0 1 1 1 1 0	
着ユーザ付加サービス情報	3.91.7.30	0 0 0 1 1 1 1 1	
網特有汎用通知識別子	3.91.7.31	0 0 1 0 0 0 0 0	
ポータビリティ番号	3.91.7.32	0 0 1 0 0 0 0 1	
隣接網形態識別	3.91.7.33	0 0 1 0 0 0 1 0	
網特有事業者情報	3.91.7.34	0 0 1 0 0 0 1 1	
オペレータサービス特有情報	3.91.7.36	0 0 1 0 0 1 0 1▲	

【技別4では▼▲を規定していない】

- 3.2 アクセス配送情報 【規定しない】
- 3.3 アクセス転送 【技別4に準拠する】
- 3.4 自動輻輳レベル 【規定しない】
- 3.5 逆方向呼表示 【技別4に準拠する】

▼3.8 呼番号

呼番号パラメータフィールドのフォーマットは、図3-6/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	呼識別番号							—
2	—							—
3	—							—
4	局番号							—
5	—							—

図3-6/NTT-Q763-1 呼番号パラメータフィールド

以下のコードが、呼番号パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

- a) 呼番号識別  
呼に割り当てられた識別番号を、2進数で表現したコード
- b) 局番号  
呼番号識別に関連した信号局番号▲  
【技別4では▼▲を規定していない】

3.9 着番号 【技別4に準拠する】

3.10 発番号

発番号パラメータフィールドのフォーマットは、図3-8/NTT-Q763-1で示される。

図3-8/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

次のコードが発番号パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

- a) 奇数/偶数表示 【技別4に準拠する】
- b) 番号種別表示 【技別4に準拠する】
- c) 発番号不完全表示 (NI) 【技別4に準拠する】
- d) 番号計画表示 【技別4に準拠する】
- e) 表示識別 【技別4に準拠する】
- f) 網検証識別 【技別4に準拠する】
- g) アドレス情報

0000	ディジット	0
0001	”	1
0010	”	2
0011	”	3
0100	”	4
0101	”	5
0110	”	6
0111	”	7
1000	”	8
1001	”	9
1010	予備	
▼1011	*	
1100	#	▲

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

1101	予備
1110	予備
1111	予備

- h) フィラー 【技別4に準拠する】

3.11 発ユーザ種別

発ユーザ種別パラメータフィールドのフォーマットは、図3-9/NTT-Q763-1で示される。

図3-9/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

次のコードが発ユーザ種別表示パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

▼00000000 発ユーザ種別不明▲

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

```

0 0 0 0 0 0 0 1 }
      |             } 予備
0 0 0 0 1 0 0 0 }
0 0 0 0 1 0 0 1 国内台 (ITU-T 勧告 Q. 1 0 4 参照) (注)
0 0 0 0 1 0 1 0 一般発ユーザ
0 0 0 0 1 0 1 1 優先発ユーザ
0 0 0 0 1 1 0 0 予備
0 0 0 0 1 1 0 1 試 験 呼
0 0 0 0 1 1 1 0 予備
0 0 0 0 1 1 1 1 公 衆 (街頭)
0 0 0 1 0 0 0 0 }
      |             } 予備
1 1 0 1 1 1 1 1 }
1 1 1 0 0 0 0 0 }
      |             } 国内用のための留保
1 1 1 0 1 1 1 1 }
▼ 1 1 1 1 0 0 0 0 最優先
  1 1 1 1 0 0 0 1 ピンク
  1 1 1 1 0 0 1 0 公衆 (店頭) ▲

```

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

```

1 1 1 1 0 0 1 1 }
      |             } 国内用のための留保
1 1 1 1 1 1 1 0 }
1 1 1 1 1 1 1 1 予 備

```

注) 国内網では、コード“00001001”は発ユーザが国内台であることを表示するために使用してもよい。

3.12 理由表示 【技別4に準拠する】

3.13 回線群監視メッセージ種別表示

▼回線群監視メッセージ種別表示パラメータフィールドのフォーマットは、図3-11/NTT-Q763-1に示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
H	G	F	E	D	C	B	A

図3-11/NTT-Q763-1 回線群監視メッセージ種別表示パラメータフィールド

以下のコードが回線群監視メッセージ種別表示パラメータフィールドで使用される。

種別表示

ビットBA

- 00 保守オリエンテッド
- 01 ハードウェア障害オリエンテッド
- 10 国内用のための留保 (ITU-T勧告1984版で使用)
- 11 予備

ビットC-H 予備 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.14 回線状態表示 (国内用) 【技別4に準拠する】

3.15 閉域接続インタロックコード

▼ 閉域接続インタロックコードパラメータフィールドのフォーマットは、図3-13/NTT-Q763-1

に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	第1 N I デ ィ ジ ッ ト				第2 N I デ ィ ジ ッ ト			
2	第3 N I デ ィ ジ ッ ト				第4 N I デ ィ ジ ッ ト			
3	バイナリコード							
4								

図3-13 / NTT-Q763-1 閉域接続インタロックコードパラメータフィールド

以下のコードが閉域接続インタロックコードパラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

a) 網番号 (オクテット1及び2)

それぞれのディジットは、0～9までBCDでコード化される。

本フィールド第1ディジットが‘0’又は‘9’にコード化される場合は、TCC (電話国番号) が第2 N I デ ィ ジ ッ ト～第4 N I デ ィ ジ ッ トに続く (最上位のTCCディジットが、第2 N I デ ィ ジ ッ トにある)。TCCが1又は2ディジットの場合は、超過ディジットは、必要に応じてRPOA又は網識別番号に対するコードが挿入される。オクテット2が要求されなければ、オール0でコーディングされる。第1ディジットの1又は8のコード化は、禁止される。

第1ディジットが0, 9, 1, 8でない場合は、本フィールドは勧告X. 121で規定されるDNIC (データ網識別コード) を含む。

b) バイナリコード (オクテット3及び4)

特定のISDN又はデータ網によって管理される閉域接続に割り当てられるコードである。

オクテット3のビット8が最上位であり、オクテット4のビット1が最下位である。 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

3.16 接続先番号 【規定しない】

▼3.17 接続要求

接続要求パラメータフィールドのフォーマットは、図3-15 / NTT-Q763-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1								
2	ローカル参照番号							
3								
4	局番号							
5								
6	プロトコルクラス							
7	クレジット							

(注) 要求されたプロトコルクラスが2の場合、オクテット6と7は省略してよい

図3-15 / NTT-Q763-1 接続要求パラメータフィールド

以下のコードが接続要求パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

a) ローカル参照番号

エンドエンドコネクションに対しSCCPで割り当てられるローカル参照番号を示すコード

b) 局番号

接続要求を起動した信号局番号

c) プロトコルクラス

エンドエンドコネクションに対して要求されるプロトコルクラスを2進数で表現するコード

d) クレジット

エンドエンドコネクションに対して要求されるウィンドサイズを2進数で表現するコード ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.18 導通表示

▼導通表示パラメータフィールドのフォーマットは、図3-16/NTT-Q763-1に示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
H	G	F	E	D	C	B	A

図3-16/NTT-Q763-1 導通表示パラメータフィールド

次のコードが導通表示パラメータフィールドで使用される。

導通表示

ビット A

0 導通不良

1 導通良好

ビット B~H 予 備 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.20 オプションパラメータ終了表示 【技別4に準拠する】

### 3.21 イベント情報 【技別4に準拠する】

### 3.23 順方向呼表示

順方向呼表示パラメータフィールドのフォーマットは、図3-20/NTT-Q763-1に示される。

図3-20/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

次のコードが順方向呼表示パラメータフィールドで使用される。

a) 国内/国際呼表示 【技別4に準拠する】

b) エンド・エンド法表示 【技別4に準拠する】

c) 相互接続表示

ビット D

0 相互接続なし (No.7信号方式1リンクである)

1 相互接続あり (No.7信号方式1リンクでない)

▼ (相互接続ありは、No.7信号方式1リンクでないことを意味する。当社網内において、TUP、IUP、MFとの相互接続時も相互接続ありを設定する。) ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

d) エンド・エンド情報表示 【技別4に準拠する】

e) ISUP1リンク表示 【技別4に準拠する】

f) ISUP1リンク希望表示 【技別4に準拠する】

g) ISDNアクセス表示 【技別4に準拠する】

h) SCCP法表示 【技別4に準拠する】

### 3.24 汎用ディジット (国内用) 【技別4に準拠する】

### 3.25 汎用通知識別子 【規定しない】

### 3.26 汎用番号

汎用番号パラメータのフォーマットは、図3-23/NTT-Q763-1で示される。

- a) 番号情報識別子 【技別4に準拠する】
- b) 奇数/偶数表示 【技別4に準拠する】
- c) 番号種別表示 【技別4に準拠する】
- d) 番号不完全表示 【技別4に準拠する】
- e) 番号計画表示 【技別4に準拠する】
- f) 表示識別 【技別4に準拠する】
- g) 網検証識別 【技別4に準拠する】
- h) アドレス情報

0000	ディジット0
0001	ディジット1
0010	ディジット2
0011	ディジット3
0100	ディジット4
0101	ディジット5
0110	ディジット6
0111	ディジット7
1000	ディジット8
1001	ディジット9
1010	予備
▼1011	*
1100	# ▲

【技別4では▼▲の規定が異なる】

その他 予備

- i) フィラー 【技別4に準拠する】
- 3.33 メッセージコンパチビリティ情報 【規定しない】
- 3.35 接続特性表示 【技別4に準拠する】
- 3.36 網特有ファシリティ (国内用) 【規定しない】
- 3.37 オプション逆方向呼表示 【技別4に準拠する】
- 3.38 オプション順方向呼表示 【技別4に準拠する】
- 3.39 第一着番号 【技別4に準拠する】
- 3.41 パラメータコンパチビリティ情報 【規定しない】
- 3.43 範囲と状態 【技別4に準拠する】
- 3.44 転送元番号 【技別4に準拠する】
- 3.45 着信転送情報 【技別4に準拠する】
- 3.46 転送先番号 【技別4に準拠する】

▼3.48 リモートオペレーション

リモートオペレーションパラメータのフォーマットは、図3-42/NTT-Q763-1で示される。コンポーネント内の要素のフォーマットとコードはこの節に記述される。

8	7	6	5	4	3	2	1
拡張	予備		プロトコルプロファイル				
コンポーネント							

注) コンポーネントはリモートオペレーションパラメータ内で複数回繰り返される。複数サービスの要求の場合、受信するエンティティは、1つのメッセージに複数のリモートオペレーションパラメータが設定されると等しい起動コンポーネントの繰り返しとして扱われる。

以下のコードがリモートオペレーションパラメータフィールドで使用される。

- a) 拡張表示
  - 0 次オクテットに続く
  - 1 最終オクテット
- b) プロトコルプロファイル
  - 00000
    - | 予備
  - 10000
  - 10001 リモートオペレーションプロトコル
  - 10010
    - | 予備
  - 11111

以下で使用されるコードに関しては、基本的に未使用コードは予備である。但し、他の仕様で用いられているケースも想定されるため、今後の予備の扱いについては留意する。

- c) コンポーネント
  - 2) コンポーネント種別識別子
    - 10100001 起動
    - 10100010 結果応答
    - 10100011 エラー応答
    - 10100100 拒否

起動コンポーネント	必須/オプション	オクテット数
コンポーネント種別識別子	必須	1
コンポーネント長		1
起動ID識別子	必須	1
起動ID長		1
起動ID		1
オペレーションコード識別子	必須	1
オペレーションコード長		1
オペレーションコード		7
セット/シーケンス識別子	オプション	1
セット/シーケンス長		1
パラメータ (注1)	オプション	(注1)

(注1) 付加サービスに応じて設定されるパラメータの数、及びそのオクテット長は異なる。

表3-2/NTT-Q763-1 起動コンポーネント

拒否コンポーネント	必須/オプション	オクテット数
コンポーネント種別識別子	必須	1
コンポーネント長 (注)		1
起動ID識別子	必須	1
起動ID長		1
起動ID		1
問題コード識別子	必須	1
問題コード長		1
問題コード		1

表3-5/NTT-Q763-1 拒否コンポーネント

- 3) コンポーネント長

H	G	F	E	D	C	B	A
長さフォ	MSB						LSB
内容長							

図3-43/NTT-Q763-1 長さフィールドのフォーマット

- 長さフォーマット
  - 0 コンポーネント長は1オクテット
  - 1 予約済み
- 内容長
 

コンポーネント種別識別子及びコンポーネント長のオクテットを除く、コンポーネント部の長さを表す。コンポーネント部は、コンポーネント種別識別子以降の全てのオクテットである。
- 4) 起動ID
  - 起動ID識別子
 

起動ID識別子	00000010
ヌル (Null) 識別子	00000101

なお、「拒否」コンポーネントは、起動IDとして拒否されるコンポーネント中にある起動IDを用いるが、例えば、下位レイヤによって見逃されるメッセージの異常等により、起動IDが使用出来ない場合は、起動ID識別子としてヌル (Null) 識別子 (常に長さ=0) が含まれる。
  - 起動ID長
 

起動ID長フィールドは、起動IDフィールドの長さを示す。これは、1オクテットである。
  - 起動ID
 

起動IDフィールドは、起動IDを示す。
- 5) オペレーションコード
  - オペレーションコード識別子
 

ローカルオペレーションコード識別子	00000010
グローバルオペレーションコード識別子	00000110

グローバルオペレーションコードは、勧告X. 209に記述されるオブジェクト識別子でコーディングされる。
  - オペレーションコード
 

勧告X. 209に記述されるオブジェクト識別子でコーディングされる。
- 6) セット/シーケンス
  - セット/シーケンス識別子
 

シーケンス識別子	00110000
セット識別子	00110001

セット識別子は、ROにおいて、コンポーネントを伴ったパラメータの組を含む場合に使用される。

コンポーネント内に1つ以上のパラメータを適用する場合に要求される。
- 8) 問題コード
  - 問題コード識別子
 

コンポーネント拒否の理由を含む。4つの要素、一般問題、起動問題、結果応答あるいはエラー応答問題が規定されている。これらの要素に対する識別子は、以下のようにコーディングされる。

一般問題	10000000
起動問題	10000001
結果応答問題	10000010
エラー応答問題	10000011
  - 問題コード長
 

問題コード長フィールドは問題コードフィールドの長さを示す。これは、1オクテットである。



・問題コード

問題コードフィールドは問題コードを示す。問題コードは、以下のようにコーディングされる。

(問題コード識別子が一般問題の場合)

未定義コンポーネント	0 0 0 0 0 0 0 0
誤りコンポーネント	0 0 0 0 0 0 0 1
構成誤りコンポーネント	0 0 0 0 0 0 1 0

(問題コード識別子が起動問題の場合)

二重定義起動 I D	0 0 0 0 0 0 0 0
未定義オペレーション	0 0 0 0 0 0 0 1
未定義パラメータ	0 0 0 0 0 0 1 0
リソース限界	0 0 0 0 0 0 1 1
解放起動	0 0 0 0 0 1 0 0
未定義関連 I D	0 0 0 0 0 1 0 1
期待されない関連応答	0 0 0 0 0 1 1 0
期待されない関連オペレーション	0 0 0 0 0 1 1 1

(問題コード識別子が結果応答問題の場合)

未定義起動 I D	0 0 0 0 0 0 0 0
期待されない結果応答	0 0 0 0 0 0 0 1
未定義パラメータ	0 0 0 0 0 0 1 0

(問題コード識別子がエラー応答問題の場合)

未定義起動 I D	0 0 0 0 0 0 0 0
期待されないエラー応答	0 0 0 0 0 0 0 1
未定義エラー	0 0 0 0 0 0 1 0
期待されないエラー	0 0 0 0 0 0 1 1
未定義パラメータ	0 0 0 0 0 1 0 0

9) パラメータ

・パラメータ識別子

パラメータ識別子は、使用されるパラメータによって決まる。

・パラメータ長

パラメータ長フィールドは、パラメータフィールドの長さを示す。

・パラメータ

パラメータフィールドは、パラメータを示す。

ii) コンポーネントの A S N. 1 での仕様

A S N. 1 表記より箱型規定を優先する。

```
ISUPRemoteOperations{CCITT Recommendation Q 7 6 3 - 1 moduleA(0)}
DEFINITIONS ::=
BEGIN
EXPORTS OPERATION, ERROR
Component ::=CHOICE{ invoke          [1] IMPLICIT Invoke,
                      returnResult    [2] IMPLICIT ReturnResult,
                      returnError      [3] IMPLICIT ReturnError,
                      reject           [4] IMPLICIT Reject}
-- The Components are sequences of data elements.
Invoke ::= SEQUENCE{ invokeID, InvokeID Type,
                    operationCode OPERATION,
                    parameter ANY DEFINED BY operationCode OPTIONAL}
-- ANY is filled by the single ASN.1 data
-- type following the key word PARAMETER in
-- the type definition of a particular
-- operation.

ReturnResult ::= SEQUENCE{ invokeID, InvokeID Type,
                          SEQUENCE{operationCode OPERATION,
```

```

parameters ANY DEFINED BY operationCode
}OPTIONAL}
-- ANY is filled by the single ASN.1 data
-- type following the key word RESULT in
-- the type definition of a particular
-- operation.
ReturnERROR ::= SEQUENCE{ invokeID, InvokeID Type,
errorCode ERROR,
parameter ANY DEFINED BY errorCode
OPTIONAL}
-- ANY is filled by the single ASN.1 data
-- type following the key word PARAMETER in
-- the type definition of a particular
-- error.
Reject ::= SEQUENCE{ InvokeID CHOICE{InvokeIDType, NULL},
problem CHOICE{
generalProblem [0] IMPLICIT GeneralProblem,
invokeProblem [1] IMPLICIT InvokeProblem,
returnResultProblem [2] IMPLICIT ReturnResultProblem,
returnErrorProblem [3] IMPLICIT ReturnErrorProblem}}
InvokeIDType ::= INTEGER(-128..127).

--OPERATIONS
-- Operations are specified with the OPERATION MACRO. When an operation is specified, the
-- valid parameter set, results and errors for that operation are indicated. Default values and
-- optional parameters are permitted.
OPERATION MACRO
BEGIN ::=
TYPE NOTATION ::= parameter Result Errors LinkedOperations
VALUE NOTATION ::= value(VALUE CHOICE{
localValue INTEGER,
globalValue OBJECT IDENTIFIER})
Parameter ::= "PARAMETER" NamedType | empty
Result ::= "RESULT" ResultType | empty
Errors ::= "ERRORS" "{ "ErrorNames" }" | empty
LinkedOperations ::= "LINKED" "{ "LinkedOperationNames" }" | empty
ResultType ::= NamedTyped | empty
ErrorNames ::= ErrorList | empty
ErrorList ::= Error | ErrorList" ," Error
Error ::= value(ERROR)
-- shall reference an error value
| type
-- shall reference an error type if no error value is
-- specified
LinkedOperationNames ::= OperationList | empty
OperationList ::= Operation | OperationList" ," Operation
Operation ::= value(OPERATION)
-- shall reference an Operation value
| type
-- shall reference an Operation type if no Operation
-- value is specified
NamedType ::= identifiertype | type
END --end of Operation Macro

-- ERRORS
-- Errors are specified with the ERROR MACRO. When an error is specified, the valid parameters for
-- that error are indicated. Default values and optional parameters are permitted.
ERROR MACRO ::=
BEGIN
TYPE NOTATION ::= Parameter
VALUE NOTATION ::= value(VALUE CHOICE{
localValue INTEGER,

```

```

                                globalValue OBJECT IDENTIFIER})
Parameter ::= "PARAMETER" NamedType | empty
NamedType ::= identifier type | type
End -- end of Error Macro

-- PROBLEMS
GeneralProblem ::= INTEGER{unrecognizedComponent(0)
                             mistypedComponent(1)
                             badlyStructuredComponent(2)}

InvokeProblem ::= INTEGER{duplicateInvokeID(0)
                             unrecognizedOperation(1)
                             mistypedparameter(2)
                             resourceLimitation(3)
                             initiatingRelease(4)
                             unrecognizedLinkedID(5)
                             linkedResponseUnexpected(6)
                             unexpectedLinkedOperation(7)}

ReturnResultProblem ::= INTEGER{unrecognizedInvokedID(0)
                                 returnResultUnexpected(1)
                                 mistypedParameter(2)}

ReturnErrorProblem ::= INTEGER{ unrecognizedInvokedID(0)
                                 returnErrorUnexpected(1)
                                 unrecognizedError(2)
                                 unexpectedError(3)
                                 mistypedParameter(4)}

END -- end of ISUPRemoteOperation Module ▲

```

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.49 サービス活性化

サービス活性化パラメータフィールドのフォーマットを、図3-45/NTT-Q763-1に示す。

図3-45/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

以下のコードがサービス活性化パラメータフィールドで使用される。

#### a) フィーチャコード (1~n)

```

0 0 0 0 0 0 0 0 } 予備
      §
0 1 1 1 1 0 1 1 }
0 1 1 1 1 0 0   留保 (網特有ASEではホットライン要求で使用)
▼0 1 1 1 1 0 1   緊急受付台再呼出し要求
0 1 1 1 1 1 0   オンネット着信識別要求
0 1 1 1 1 1 1   番号案内接続呼 ▲

```

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

```

1 0 0 0 0 0 0 0 } 国内使用のため留保
      §
1 1 1 1 1 1 0 0 }
1 1 1 1 1 0 1   リルーチング要求
1 1 1 1 1 1 0   VPN呼
1 1 1 1 1 1 1   予備

```

### 3.50 信号局コード (国内用)

▼信号局番号パラメータフィールドのフォーマットは、図3-46/NTT-Q763-1で示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
---	---	---	---	---	---	---	---

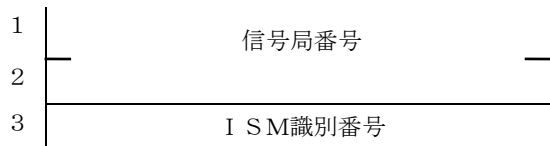


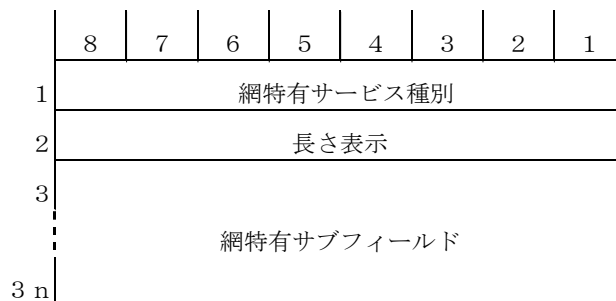
図3-46 / NTT-Q763-1 信号局番号パラメータフィールド

信号局番号は、信号網のノードに割りつけられた番号をバイナリ表現で示す。ISM識別番号は、信号局番号で示されたD70に収容される複数個存在するISMのうち1つを識別するために用いられる。ただし、ISMがRELを生成する時のみ設定する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 3.52 中断/再開表示 【技別4に準拠する】
- 3.53 中継網選択 (国内用) 【技別4に準拠する】
- 3.54 通信路要求表示 【技別4に準拠する】
- 3.57 ユーザサービス情報 【技別4に準拠する】
- 3.59 ユーザテレサービス情報 【規定しない】
- 3.60 ユーザ・ユーザ表示 【技別4に準拠する】
- 3.61 ユーザ・ユーザ情報 【技別4に準拠する】
- 3.63 CCSS 【規定しない】
- 3.65 コールトランスファ参照 【規定しない】
- 3.67 ループ抑止表示 【規定しない】
- 3.70 相関id 【技別4に準拠する】
- 3.71 SCFid 【技別4に準拠する】
- 3.73 着IN番号 【技別4に準拠する】
- 3.78 UID動作表示 【規定しない】
- 3.79 UID能力表示 【規定しない】
- 3.82 アプリケーション転送 【規定しない】
- 3.86 着ディレクトリ番号 (国内用) 【技別4に準拠する】
- 3.87 第一着IN番号 【技別4に準拠する】
- 3.88 発測地位置 【規定しない】
- 3.88.1 楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 3.88.2 誤差を含む楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 3.88.3 高度情報と誤差を含む点の形状記述 【規定しない】
- 3.88.4 楕円体表面上の楕円の形状記述 【規定しない】
- 3.88.5 楕円体扇形状記述 【規定しない】
- 3.88.6 多角形状記述 【規定しない】
- 3.88.7 高度情報を含む楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 3.88.8 高度情報と楕円体誤差を含む楕円体上の点の形状記述 【規定しない】
- 3.88.9 楕円体弧 【規定しない】
- ▼3.91.1 付加情報転送

付加情報転送パラメータのフォーマットは、図3-81-1 / NTT-Q763-1 で示される。



注 オクテット1から3nまでは繰り返して設定することができる

図3-81-1 / NTT-Q763-1 付加情報転送パラメータフィールド

次のコードが付加情報転送パラメータフィールドで使用される。

- a) 網特有サービス種別

00000000 付加ダイヤル情報  
 00000001 メンバーズネットサービス

- b) 長さ表示  
 本フィールドは、網特有サブフィールドのオクテット数を2進数で示す。
- c) 網特有サブフィールド  
 本フィールドは、網特有サービス種別で特定化されるサービスで固有に規定する。

- (1) 網特有サービス種別が付加ダイヤル情報(00000000)の時  
 網特有サブフィールドは図3-81-1A/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	第1アドレス情報							
4	第2アドレス情報							
⋮	アドレス情報							
n	第Nアドレス情報							

図3-81-1A/NTT-Q763-1 網特有サービス種別が付加ダイヤル情報(00000000)の時の網特有サブフィールドのフォーマット

次のコードが網特有サブフィールドで使用される。

- a) アドレス情報  
 アドレス情報はIA5でコーディングされる。
- (2) 網特有サービス種別がメンバーズネットサービス(00000001)の時  
 網特有サブフィールドは図3-81-1B/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	情報識別コード (通信形態)							
4	通信形態内容長							
5	通信形態							
6	情報識別コード (回線選択情報)							
7	回線選択情報内容長							
8	回線選択情報							
9	情報識別コード (ポート情報)							
10	ポート情報内容長							
11	予 備				ポート番号桁数			
12	第2数字				第1数字			
	アドレス情報							
n	フィルア				第N数字			
n+1	情報識別コード (着加入者論理番号)							
n+2	着加入者論理番号内容長							
	着加入者論理番号							
	第1数字							
	アドレス情報							
m	第M数字							

図3-8 1-1 B/NTT-Q 7 6 3-1 網特有サービス種別がメンバーズネットサービス (000000001) の時の網特有サブフィールドのフォーマット

次のコードが網特有サブフィールドで使用される。

a) 情報識別コード

HGFEDCBA	
00000000	予備
00000001	通信形態
00000010	回線選択情報
00000011	ポート情報
00000100	着加入者論理番号
00000101	予備
11111111	

b) 通信形態内容長

通信形態情報のオクテット長を2進数で表す。

c) 通信形態

HGFEDCBA	
00000000	予備
00000001	オンネット接続
00000010	オフネット接続
00000011	リモート接続
00000100	インタネット接続
00000101	予備
11111111	

d) 回線選択情報内容長  
回線選択情報のオクテット長を2進数で表す。

e) 回線選択情報

H	G	F	E	D	C	B	A	
0	0	0	0	0	0	0	0	予備
0	0	0	0	0	0	0	1	16Kb/s変換
0	0	0	0	0	0	1	0	32Kb/s変換
0	0	0	0	0	0	1	1	予備
1	1	1	1	1	1	1	1	

f) 着加入者論理番号内容長  
着加入者論理番号のオクテット長を2進数で表す。

g) 着加入者論理番号  
IA5でコーディングする。

### 3.91.2 マルチスロット表示

マルチスロット表示パラメータのフォーマットは、図3-8 1-2/NTT-Q 7 6 3-1に示される。

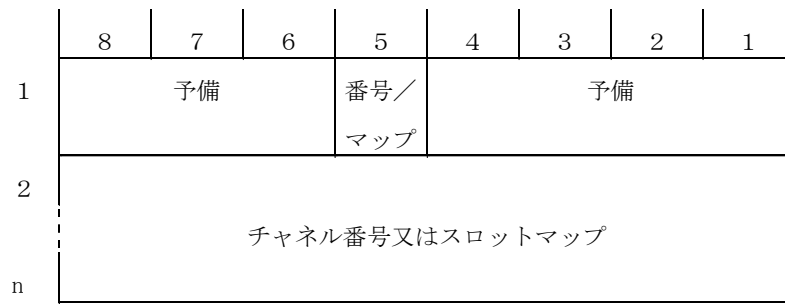


図3-8 1-2/NTT-Q 7 6 3-1 マルチスロット表示パラメータフィールド

次のコードがマルチスロット表示パラメータフィールドで使われる

- a) 番号/マップ表示
  - 0 チャンネルは回線番号で示される
  - 1 チャンネルはスロットマップで示される
- b) チャンネル番号  
番号/マップ表示が0である場合、オクテット2からnは、1. 2節で述べられた2オクテットの繰り返しとなる。各々の2オクテットはそれぞれ多元接続の1つの64kbit/s回線を示す。チャンネル番号は多元接続の2番目以降の回線から番号順に表示する。多元接続の1番目の回線番号はC I Cに表示される。
- c) スロットマップ  
番号/マップ表示が1である場合、オクテット2からnは0からPまで番号のついたスロットマップビットを含む。ここでPは $8n-9$ に等しい。スロットマップビット0はスロットマップサブフィールドの第1オクテットの1ビット目である。他のスロットマップビットは番号順に続く。  
スロットマップビットと回線との対応は次のとおりである。“1”の立っているスロットマップビットのうちで最も番号の小さいビット(例えばビットS)は回線Mと対応する。ここでMはC I Cに含まれる回線番号である。他の全てのスロットマップビット(例えばビットK)はC I Cが $M+K-S$ である回線と対応する。“1”の立っているスロットマップビットの各々は、対応する回線が多元接続回線の1つであることを示す。

### 3.91.3 試験呼情報

試験呼情報パラメータのフォーマットは、図3-8 1-3/NTT-Q 7 6 3-1で示される。

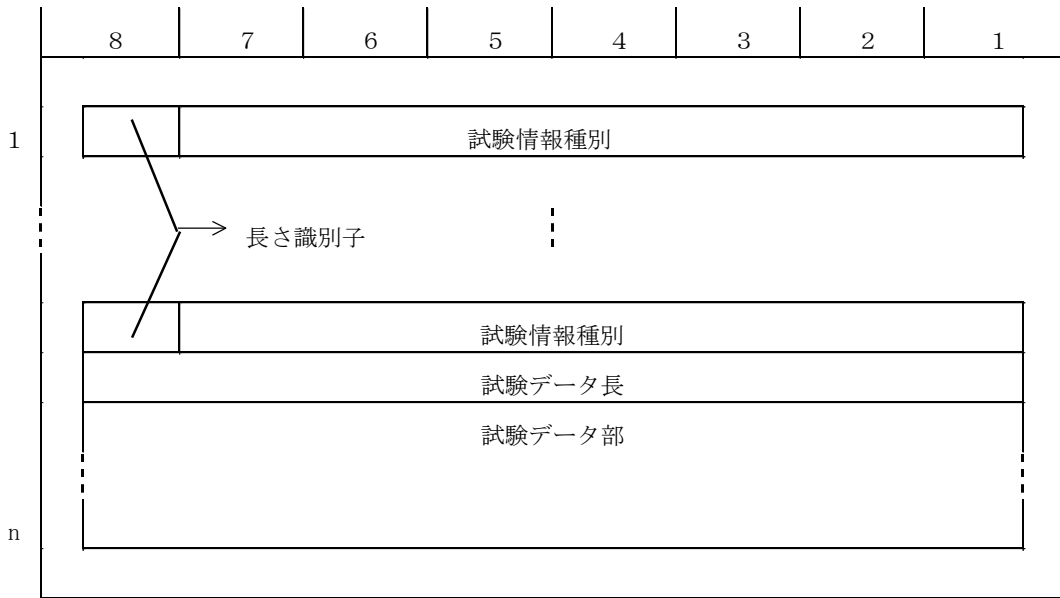


図3-8 1-3 / NTT-Q 7 6 3 - 1 試験呼情報パラメータフィールド

次のコードが、試験呼情報パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

a) 試験情報種別 (注1)

G	F	E	D	C	B	A	
0	0	0	0	0	0	0	予備
0	0	0	0	0	0	1	通過ルー(注2)表示要求
0	0	0	0	0	1	0	出ト(注3)(注4)
0	0	0	0	0	1	1	網内エンド試験(注4)
0	0	0	0	1	0	0	通過ルートデータ
0	0	0	0	1	0	1	接(注4)許容
0	0	0	0	1	1	0	試験呼発ユーザ種別
0	0	0	0	1	1	1	加入者注4)発信
0	0	0	1	0	0	0	非接続試験データ
0	0	0	1	0	0	1	S I R(呼出)試験
0	0	0	1	0	1	0	自動回線試験
0	0	0	1	0	1	1	自動話(中)試験要求
0	0	0	1	1	0	0	自動話中試験データ
0	0	0	1	1	0	1	非接続試験番号データ
0	0	0	1	1	1	0	M R S ル(注4)グ試験
0	0	0	1	1	1	1	機能メニ(注4)続試験
0	0	1	0	0	0	0	予備
0	0	1	0	0	0	1	
1	1	1	1	1	1	1	

b) 長さ識別子

H	
0	下部にデータあり
1	下部にデータなし

(注1) 試験情報種別が同一パラメータ内に繰り返し使用されることがある。(例：通過ルート表示要求と網内エンド・エンド試験) 試験情報種別が繰り返し使用された場合、そのコードの順序は特に規定しない。

(注2) 通過ルート表示要求は、ANMでの通過ルートデータの設定を指示する。本指示を受けた交換機は、ANMの中継時に通過ルートを通過ルートデータのデータ部に設定する。

(注3) ISMからD70の予閉塞されたトランクを指定する時に使用される。このコードによる情報はISM～D70間のみで使用されるローカルな情報である。従って、本コードを使用して処理を行ったD70は本コードを廃棄する。

(注4) 長さ識別子には1(下部にデータなし)が設定される。



- c) 試験データ長  
試験データ部のオクテット長を2進数で表す

- (1) 試験情報種別が0000100（通過ルートデータ）の時

試験情報種別が0000100（通過ルートデータ）の時の試験データ部のフォーマットは、  
図3-81-3A/NTT-Q763-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	長さ識 別子	試験情報種別（注4）						
2	試験データ長（注5）							
3	1局目が設定したDPC（注6）							
4								
5	1局目が設定したCIC							
6	予備							
7	2局目が設定したDPC							
8								
9	2局目が設定したCIC							
10	予備							
n	⋮							

（注4）試験情報種別は0000100（通過ルートデータ）

長さ識別子は0（下部にデータあり）

（注5）試験データ長は試験データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

（注6）ISMまでの折り返し試験実施時、前位局（D70）で設定するDPC番号はISMのサブユニット番号とし、そのデータ長は2オクテットとする。

図3-81-3A/NTT-Q763-1 試験情報種別が0000100（通過ルートデータ）の時の試験データ部のフォーマット

- (2) 試験情報種別が0000110（試験呼発ユーザ種別）の時

試験情報種別が0000110（試験呼発ユーザ種別）の時の試験データ部のフォーマットは、  
図3-81-3B/NTT-Q763-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	長さ識 別子	試験情報種別（注7）						
2	試験データ長（注8）							
3	試験呼発ユーザ種別表示							

（注7）試験情報種別は0000110（試験呼発ユーザ種別）

長さ識別子は0（下部にデータあり）

（注8）試験データ長は試験データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

図3-8 1-3 B/NTT-Q 7 6 3-1 試験情報種別が0 0 0 0 1 1 0 (試験呼発ユーザ種別)の時の試験データ部のフォーマット

a) 試験呼発ユーザ種別表示

0 0 0 0 0 0 0 0	発ユーザ種別不
0 0 0 0 0 0 0 1	予備
0 0 0 0 1 0 0 0	
0 0 0 0 1 0 0 1	国内台
0 0 0 0 1 0 1 0	一般発ユーザ
0 0 0 0 1 0 1 1	優先発ユーザ
0 0 0 0 1 1 0 0	予備
0 0 0 0 1 1 1 0	
0 0 0 0 1 1 1 1	公衆 (街頭)
0 0 0 1 0 0 0 0	予備
1 1 0 1 1 1 1 1	
1 1 1 0 0 0 0 0	国内用のための留保
1 1 1 0 1 1 1 1	
1 1 1 1 0 0 0 0	最優先
1 1 1 1 0 0 0 1	ピンク
1 1 1 1 0 0 1 0	公衆 (店頭)
1 1 1 1 0 0 1 1	国内用のための留保
1 1 1 1 1 1 1 0	
1 1 1 1 1 1 1 1	予備

(3) 試験情報種別が0 0 0 1 0 0 0 (非接続試験データ) の時

試験情報種別が0 0 0 1 0 0 0 (非接続試験データ) の時の試験データ部のフォーマットは、図3-8 1-3 C/NTT-Q 7 6 3-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	長さ 識別子	試験情報種別 (注9)						
2	試験データ長 (注10)							
3	A/I 種別	着信サービス条件						

(注9) 試験情報種別は0 0 0 1 0 0 0 (非接続試験データ)

長さ識別子は0 (下部にデータあり)

(注10) 試験データ長は試験データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

図3-8 1-3 C/NTT-Q 7 6 3-1 試験情報種別が0 0 0 1 0 0 0 (非接続試験データ) の時の試験データ部のフォーマット

a) 着信サービス条件

0 0 0 0 0 0 0	予備
0 0 0 0 0 0 1	特殊条件なし
0 0 0 0 0 1 0	P B Xダイヤルイン許容
0 0 0 0 0 1 1	高度C W開始中
0 0 0 0 1 0 0	着信転送開始中
0 0 0 0 1 0 1	予備
0 0 0 0 1 1 0	特殊条件不明 (他網収容)
0 0 0 0 1 1 1	予備
1 1 1 1 1 1 1	

b) A/I種別

0	着側アナログ (非 I S D N) 端末
1	着側 I S D N 端末

(4) 試験情報種別が 0 0 0 1 0 1 0 (自動回線試験) の時

試験情報種別が 0 0 0 1 0 1 0 (自動回線試験) の時の試験データ部のフォーマットは、図 3-8 1-3 D / N T T - Q 7 6 3 - 1 に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	長さ識別子	試験情報種別 (注11)						
2	試験データ長 (注12)							
3	予備	自動回線試験情報						
4	予備	自動回線試験情報						

(注11) 試験情報種別は 0 0 0 1 0 1 0 (自動回線試験)  
長さ識別子は 0 (下部にデータあり)

(注12) 試験データ長は試験データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

図 3-8 1-3 D / N T T - Q 7 6 3 - 1 試験情報種別が 0 0 0 1 0 1 0 (自動回線試験) の時の試験データ部のフォーマット

a) 自動回線試験情報

0 0 0 0 0 0 0	予備
0 0 0 0 0 0 1	導通試験要求
0 0 0 0 0 1 0	品質試験要求
0 0 0 0 0 1 1	導通試験準備完了
0 0 0 0 1 0 0	品質試験準備完了
その他	予備

(5) 試験情報種別が 0 0 0 1 1 0 0 (自動話中試験データ) の時

試験情報種別が 0 0 0 1 1 0 0 (自動話中試験データ) の時の試験データ部のフォーマットは、図 3-8 1-3 E / N T T - Q 7 6 3 - 1 に示される。



0 0 0 0 0	未収容
0 0 0 0 1	D70直接収容
0 0 0 1 0	I S M収容、M H N - S 収容 ( I S D N 加入者)
0 0 0 1 1	D70のR C S 収容
0 0 1 0 0	D70のR T ( A I L - R T ( 6 M ) ) 収容
0 0 1 0 1	D70のR T ( A I L - R T ( 6 M ) 以外) 収容
0 0 1 1 0	D70のL X M ( R T ) 収容
0 0 1 1 1	D70のL X M ( O N U / S L T , R S B M - U ) 収容
0 1 0 0 0	D70のL X M ( R S B M - F ) 収容
0 1 0 0 1	留保
0 1 0 1 0	D M S - 10 直接収容
0 1 0 1 1	D M S - 10 の R L C M 収容
0 1 1 0 0	他網収容
0 1 1 0 1	M H N - S の 直接収容 ( アナログ加入者)
0 1 1 1 0	M H N - S の R T ( L X M 収容) 収容 ( アナログ加入者)
0 1 1 1 1	M H N - S の O N U / S L T または R S B M - U ( L X M 収容含む) 収容 ( アナログ加入者)
1 0 0 0 0	M H N - S の R S B M - F ( L X M 収容含む) 収容 ( アナログ加入者)
1 0 0 0 1	予備
1 1 1 1 1	

b) 加入者状態

0 0 0 0 0 0 0 0	空
0 0 0 0 0 0 0 1	ロックアウト
0 0 0 0 0 0 1 0	H&D
0 0 0 0 0 0 1 1	話中
0 0 0 0 0 1 0 0	NU (欠番) トーキ
0 0 0 0 0 1 0 1	大口改番トーキ
0 0 0 0 0 1 1 0	利用停止トーキ
0 0 0 0 0 1 1 1	A I S トーキ
0 0 0 0 1 0 0 0	T B T A トーキ
0 0 0 0 1 0 0 1	台 ( C E S )
0 0 0 0 1 0 1 0	閉塞中
0 0 0 0 1 0 1 1	加入者試験中
0 0 0 0 1 1 0 0	輻輳トーキ
0 0 0 0 1 1 0 1	夜間閉塞中 ( 代表 ・ P B X 加入者)
0 0 0 0 1 1 1 0	ブロック
0 0 0 0 1 1 1 1	試験非対象者
0 0 0 1 0 0 0 0	サイレント
0 0 0 1 0 0 0 1	故障中
0 0 0 1 0 0 1 0	予備
1 1 1 1 1 1 1 1	

c) 着信サービス条件

0 0 0 0 0 0 0	特殊条件不明
0 0 0 0 0 0 1	特殊条件なし
0 0 0 0 0 1 0	P B X ダイアルイン許容
0 0 0 0 0 1 1	高度C W 開始中
0 0 0 0 1 0 0	着信転送開始中
0 0 0 0 1 0 1	接続非許容
0 0 0 0 1 1 0	特殊条件不明 ( 他網収容)
0 0 0 0 1 1 1	予備
1 1 1 1 1 1 1	

2. 自動話中試験データ種別が0 0 0 0 0 0 1 0 (被試験電話番号) の時

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	自動話中試験データ種別							
4	自動話中試験データ長							
5	奇数/ 偶数	番号種別						
6	I N N	番号計画識別子			予備			
7	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
...	...				...			
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-3G/NTT-Q763-1 自動話中試験データ種別が00000010 (被試験電話番号)の時のデータフォーマット

- a) 番号種別
- |         |           |
|---------|-----------|
| 0000000 | 予備        |
| 0000001 | 加入者番号     |
| 0000010 | 不定        |
| 0000011 | 国内番号      |
| 0000100 | 国際番号      |
| 0000101 | 予備        |
| 1101111 |           |
| 1110000 | 国内使用のため留保 |
| 1111110 |           |
| 1111111 | 予備        |
- b) 網内番号表示 (I N N)
- |   |                 |
|---|-----------------|
| 0 | 許された網内番号へのルーチング |
| 1 | 予備              |
- c) 番号計画識別子
- |     |                                       |
|-----|---------------------------------------|
| 000 | 予備                                    |
| 001 | I S D N (電話) 番号計画 (勧告E. 164 (E. 163)) |
| 010 | 予備                                    |
| 111 |                                       |
- d) 奇数/偶数表示
- |   |               |
|---|---------------|
| 0 | 番号ディジットの桁数が偶数 |
| 1 | 番号ディジットの桁数が奇数 |
- e) アドレス情報
- |      |        |
|------|--------|
| 0000 | ディジット0 |
| 0001 | 1      |
| 0010 | 2      |
| 0011 | 3      |
| 0100 | 4      |
| 0101 | 5      |
| 0110 | 6      |
| 0111 | 7      |
| 1000 | 8      |
| 1001 | 9      |
| 1010 | 予備     |
| 1011 | *      |
| 1100 | #      |
| その他  | 予備     |
- f) フィラー
- アドレス情報の桁数が奇数桁の場合、フィラーコード“0000”が最後のアドレス情報の後に挿入される。

3. 自動話中試験データ種別が00000011（切り戻し先番号）の時

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	自動話中試験データ種別							
4	自動話中試験データ長							
5	奇数/ 偶数	番号種別						
6	INN	番号計画識別子			予備			
7	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
	.....				.....			
n	フィラー（必要な場合）				第Nアドレス情報			

図3-8 1-3 H/NTT-Q 7 6 3-1 自動話中試験データ種別が00000011（切り戻し先番号）の時のデータフォーマット

各情報要素は、自動話中試験データ種別が被試験電話番号の時と同様。

(6) 試験情報種別が0001101の時

試験情報種別が0001101（非接続試験番号データ）の時の試験データ部のフォーマットは、図3-8 1-3 I/NTT-Q 7 6 3-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	長さ識別子	試験情報種別（注16）						
2	試験データ長（注17）							
3	非接続試験番号データ種別							
4	非接続試験番号データ長							
5	奇数/ 偶数	番号種別						
6	INN	番号計画識別子			予備			
7	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
	.....				.....			
n	フィラー（必要な場合）				第Nアドレス情報			

(注16) 試験情報種別は0001101（非接続試験番号データ）

長さ識別子は0（下部にデータあり）

(注17) 試験データ長は試験データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

(注18) 3オクテット目以降、繰り返し使用されることがある。

図3-8 1-3 I/NTT-Q 7 6 3-1 試験情報種別が0001101（非接続試験番号データ）の時の試験データ部のフォーマット

- a) 非接続試験番号データ種別  
 00000000 予備  
 00000001 移行先番号  
 00000010 着番号（翻訳後）  
 その他 予備

1. 非接続試験番号データ種別が00000001（移行先番号）の時

非接続試験番号データ種別が00000001（移行先番号）の時の非接続試験番号データ部の

フォーマットは、図3-81-3J/NTT-Q763-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	非接続試験番号データ種別 (注19)							
4	非接続試験番号データ長 (注20)							
5	奇数/ 偶数	番号種別						
6	INN	番号計画識別子			予備			
7	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
	...				...			
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

(注19) 非接続試験番号データ種別は00000001 (移行先番号)

(注20) 非接続試験番号データ長は非接続試験番号データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

図3-81-3J/NTT-Q763-1 非接続試験番号データ種別が00000001 (移行先番号) の時の非接続試験番号データ部のフォーマット

- a) 奇数/偶数表示: 3.9a) 参照
- b) 番号種別: 3.9b) 参照
- c) 網内番号表示 (INN): 3.9c) 参照
- d) 番号計画識別子: 3.9d) 参照
- e) アドレス情報: 3.9e) 参照
- f) フィラー: 3.9f) 参照

2. 非接続試験番号データ種別が00000010 (着番号 (翻訳後)) の時

非接続試験番号データ種別が00000010 (着番号 (翻訳後)) の時の非接続試験番号データ部のフォーマットは、図3-81-3K/NTT-Q763-1に示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
3	非接続試験番号データ種別 (注21)							
4	非接続試験番号データ長 (注22)							
5	奇数/ 偶数	番号種別						
6	INN	番号計画識別子			予備			
7	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
	...				...			
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

(注21) 非接続試験番号データ種別は00000010 (着番号 (翻訳後))

(注22) 非接続試験番号データ長は非接続試験番号データ部のオクテット長をバイナリで設定する。

図3-81-3K/NTT-Q763-1 非接続試験番号データ種別が00000010 (着番号 (翻訳後)) の時の非接続試験番号データ部のフォーマット

各情報要素は、非接続試験番号データ種別が00000001 (移行先番号) の時と同様。

3.91.4 保守運用情報

保守運用情報パラメータのフォーマットは、図3-81-4/NTT-Q763-1に示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
H	G	F	E	D	C	B	A

図3-81-4/NTT-Q763-1 保守運用情報パラメータフィールド

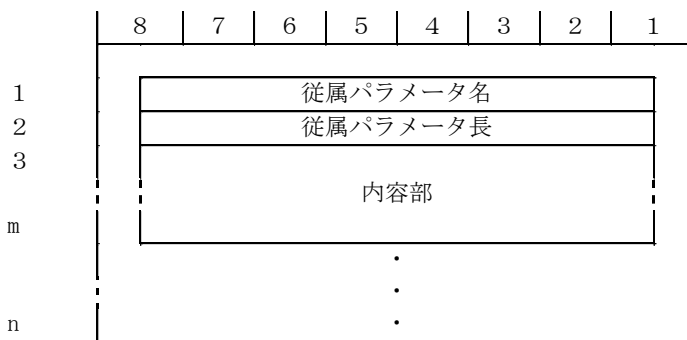


次のコードが保守運用情報パラメータフィールドで使われる

- 迂回ルート呼損表示  
 ビットA  
 0 予備  
 1 迂回ルート呼損  
 その他 : 予備

### 3.91.5 グローバル情報

グローバル情報パラメータのフォーマットは、図3-81-5/NTT-Q763-1で示される。



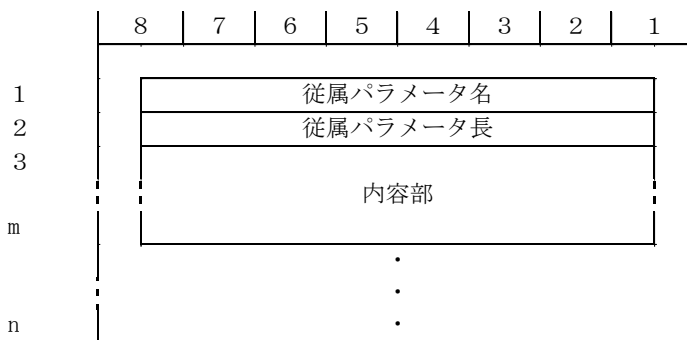
注1 オクテット1からmまでは繰り返して設定することができる

図3-81-5/NTT-Q763-1 グローバル情報パラメータフィールド

グローバル情報パラメータのサブフィールドで使用される従属パラメータは、3.91.7項に示される。

### 3.91.6 エンド情報転送

エンド情報転送パラメータのフォーマットは、図3-81-6/NTT-Q763-1で示される。



注 オクテット1からmまでは繰り返して設定することができる

図3-81-6/NTT-Q763-1 エンド情報転送パラメータフィールド

エンド情報転送パラメータのサブフィールドで使用される従属パラメータは、3.91.7項に示される。

### 3.91.7 従属パラメータ

グローバル情報パラメータ、エンド情報転送パラメータのサブフィールドで使用される従属パラメータは表Xに示される。

表X 従属パラメータ一覧

従属パラメータコード	従属パラメータ	設定されるパラメータ	参 照
00000000	予備	—	—
00000001	予備	—	—
00000010	機能レベル表示	エンド情報転送	3.91.7.1

00000111	CUG接続制御	エンド情報転送	3.91.7.6
00001000	第2網機能種別	グローバル情報	3.91.7.7
00001001	第1衛星チャネル表示	グローバル情報	3.91.7.8
00001010	第2衛星チャネル表示	グローバル情報	3.91.7.9
00001011	通信中発信呼表示	エンド情報転送	3.91.7.10
00001100	発ユーザ番号	エンド情報転送	3.91.7.11
00001101	着ユーザ番号	エンド情報転送	3.91.7.12
00001110	オプション転送情報	エンド情報転送	3.91.7.13
00001111	転送元ユーザ番号	エンド情報転送	3.91.7.14
00010000	着信指示用音源種別	エンド情報転送	3.91.7.15
00010001	閉番号区域内呼表示	グローバル情報	3.91.7.16
00010010	網状態	グローバル情報	3.91.7.17
00010011	詳細理由	グローバル情報	3.91.7.18
00010100	着信拒否制御	エンド情報転送	3.91.7.19
00010101	第1着ユーザ番号	エンド情報転送	3.91.7.20
00010110	着信拒否遭遇呼	グローバル情報	3.91.7.21
00010111	着信拒否契約者番号	エンド情報転送	3.91.7.22
00011000	ガイダンス通知拒否表示	エンド情報転送	3.91.7.23
00011001	クラス符号	エンド情報転送	3.91.7.24
00011010	NSP設定情報	エンド情報転送	3.91.7.25
00011011	番号変換履歴	エンド情報転送	3.91.7.26
00011100	IAM情報	グローバル情報	3.91.7.27
00011101	網特有ロケーション番号	グローバル情報	3.91.7.28
00011110	回線優先クラス	グローバル情報	3.91.7.29
00011111	着ユーザ付加サービス情報	エンド情報転送	3.91.7.30
00100000	網特有汎用通知識別子	エンド情報転送	3.91.7.31
00100001	ポータビリティ番号	グローバル情報	3.91.7.32
00100010	隣接網形態識別	エンド情報転送	3.91.7.33
00100011	網特有事業者情報	エンド情報転送	3.91.7.34
00100101	オペレータサービス特有情報	エンド情報転送	3.91.7.36

### 3.91.7.1 機能レベル表示

機能レベル表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.1/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00000010)							
2	従属パラメータ長							
3	予備	F	E	D	C	B	A	

図3-81-7.1/NTT-Q763-1 機能レベル表示従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
機能レベル表示 (00000010) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが機能レベル表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- NW基盤機能レベル表示  
ビットA
  - 0 予備
  - 1 ステップ2
- NSP設定情報要求表示  
ビットB
  - 0 非要求
  - 1 要求

UUI機能レベル表示

ビットC

0 停止

1 開始

サービス別呼情報移行状態表示

ビットD

0 予備

1 移行済み

呼情報生成要求表示

ビットE

0 予備

1 要求

ビットF 留保（網特有ASEではMRS要求表示で使用）

その他 予備

3.91.7.6 CUG接続制御

CUG接続制御従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 6/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00000111)							
2	従属パラメータ長							
3	予 備						B	A

図3-81-7. 6/NTT-Q763-1 CUG接続制御従属パラメータフィールド

a) 従属パラメータ名

CUG接続制御 (00000111) が設定される。

b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードがCUG接続制御従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

CUG接続表示

ビットA

0 非CUG呼

1 CUG呼

CUG接続禁止表示

ビットB

0 CUG内接続可

1 CUG内接続禁止

その他 予備

3.91.7.7 第2網機能種別

第2網機能種別従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 7/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001000)							
2	従属パラメータ長							
3	H	G	F	E	D	C	B	A
4	P	O	N	M	L	K	J	I

図3-81-7. 7/NTT-Q763-1 第2網機能種別従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
第2網機能種別(00001000)が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが第2網機能種別従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

マルチ接続要求表示

ビットA

- 0 表示なし
- 1 マルチ接続要求

割込み要求表示

ビットB

- 0 表示なし
- 1 割込み要求あり

ネットワークオフトーク接続要求表示

ビットC

- 0 表示なし
- 1 ネットワークオフトーク接続要求あり

緊急通報番号変換接続表示

ビットD

- 0 表示なし
- 1 表示あり

アナログACM必須呼表示

ビットE

- 0 表示なし
- 1 ACM必須呼

MRS接続要求

ビットF

- 0 表示なし
- 1 MRS接続要求

ビットG 留保(網特有ASEでは番号ポータビリティ接続要求表示で使用)

認証スキップ要求表示

ビットH

- 0 表示なし
- 1 認証スキップ要求

SGM消滅表示

ビットI

- 0 表示なし
- 1 SGM消滅

ISDN基本呼制御手順要求表示

ビットJ

- 0 表示なし
- 1 ISDN基本呼制御手順要求

その他 予備

### 3.91.7.8 第1衛星チャンネル表示

第1衛星チャンネル表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.8/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001001)							
2	従属パラメータ長							
3	予 備			A	TDMA種別			
4	TDMA番号							
5								
6	PORT番号							
7	正規化TS番号							
	⋮							
n	正規化TS番号							

図3-81-7. 8/NTT-Q763-1 第1衛星チャンネル表示従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
第1衛星チャンネル表示 (00001001) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが第1衛星チャンネル表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) TDMA種別  
- 未定 -
- d) SCU送信マップ種別  
ビットA  
0 : 2M (3オクテット) マップ  
1 : 8M (15オクテット) マップ
- e) TDMA番号  
TDMA装置の番号を2進数で表す。
- f) PORT番号  
PORTを示す番号が2進数で表される。
- g) 正規化TS番号  
TS番号が2進数で表される。

### 3.91.7.9 第2衛星チャンネル表示

第2衛星チャンネル表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 9/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001010)							
2	従属パラメータ長							
3	予 備			A	TDMA種別			
4	TDMA番号							
5								
6	PORT番号							
7	正規化TS番号							
	⋮							
n	正規化TS番号							

図3-81-7. 9/NTT-Q763-1 第2衛星チャンネル表示従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
第2衛星チャンネル表示 (00001010) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが第2衛星チャネル表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) TDMA種別
  - 未定-
- d) SCU送信マップ種別
  - ビットA
    - 0 : 2M (3オクテット) マップ
    - 1 : 8M (15オクテット) マップ
- e) TDMA番号
  - TDMA装置の番号を2進数で表す。
- f) PORT番号
  - PORTを示す番号が2進数で表される。
- g) 正規化TS番号
  - TS番号が2進数で表される。

### 3.91.7.10 通信中発信呼表示

通信中発信呼表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 10/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001011)							
2	従属パラメータ長							
3	予 備							A

図3-81-7. 10/NTT-Q763-1 通信中発信呼表示従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名
  - 通信中発信呼表示 (00001011) が設定される。
- b) 従属パラメータ長
  - 従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが通信中発信呼表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- 通信中発信呼表示
- ビットA
    - 0 : 表示なし
    - 1 : 通信中発信呼
- その他 予備

### 3.91.7.11 発ユーザ番号

発ユーザ番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 11/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001100)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/遇	番号種別表示						
4	NI	番号計画表示			表示識別		網検証識別	
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
⋮	⋮							
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

注) 表示識別が、「アドレス使用不可」の場合は、オクテット5～nは省略される。

図3-81-7. 11/NTT-Q763-1 発ユーザ番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名

発ユーザ番号（00001100）が設定される。

- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが発ユーザ番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示  
3.9 a) 参照
- d) 番号種別表示  
3.9 b) 参照
- e) 番号不完全表示 (NI)  
0 完全  
1 予備
- f) 番号計画表示  
000 予備  
001 I SDN (電話) 番号計画 (勧告E. 164 (E. 163))  
010   予備  
011   予備  
100   予備  
101 PNP 番号計画  
110 予備  
111 予備
- g) 表示識別  
00 表示可  
01 表示不可  
10 アドレス使用不可  
11 予備
- h) 網検証識別  
00 予備  
01 ユーザ投入、網検証あり、成功  
10 予備  
11 網投入
- i) アドレス情報  
3.9 e) 参照
- j) フィラー  
3.9 f) 参照

### 3.91.7.12 着ユーザ番号

着ユーザ番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 12/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001101)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/遇	番号種別表示						
4	INN表示	番号計画表示			予 備		通知判定 表示	
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-7. 12/NTT-Q763-1 着ユーザ番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
着ユーザ番号（00001101）が設定される。
- b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが着ユーザ番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示
  - 0 アドレス情報の桁数が偶数
  - 1 アドレス情報の桁数が奇数
- d) 番号種別表示
  - 0000000 予備
  - 0000001 加入者番号
  - 0000010 不定
  - 0000011 国内番号
  - 0000100 国際番号
  - 0000101 予備
  - 1111101 予備
  - 1111110 網特有番号
  - 1111111 予備
- e) 網内番号表示 (INN表示)
  - 0 網内へのルーチング可
  - 1 予備
- f) 番号計画表示
  - 000 予備
  - 001 ISDN (電話) 番号計画 (勧告E. 164 (E. 163))
  - 010 予備
  - 011 予備
  - 100 予備
  - 101 PNP番号計画
  - 110 予備
  - 111 予備
- g) 通知判定表示
  - 0 通知可
  - 1 通知不可
- h) アドレス情報
  - 0000 デジット0
  - 0001 デジット1
  - 0010 デジット2
  - 0011 デジット3
  - 0100 デジット4
  - 0101 デジット5
  - 0110 デジット6
  - 0111 デジット7
  - 1000 デジット8
  - 1001 デジット9
  - 1010 予備
  - 1011 \*
  - 1100 #
  - 1101 予備
  - 1110 予備
  - 1111 予備
- i) フィラー
  - アドレス情報の桁数が奇数の場合、フィラーコード“0000”が最後のアドレス情報の後に挿入される。

### 3.91.7.13 オプション転送情報

オプション転送情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 13/NTT-Q763-1で示される。



	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001110)							
2	従属パラメータ長							
3	H	G	F	E	D	C	B	A

図3-81-7. 13/NTT-Q763-1 オプション転送情報従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
オプション転送情報 (00001110) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードがオプション転送情報従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

転送元アクセス表示

ビットA

- 0 転送元ユーザ・網インタフェースが非ISDN
- 1 転送元ユーザ・網インタフェースがISDN

その他 予備

### 3.91.7.14 転送元ユーザ番号

転送元ユーザ番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 14/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00001111)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/遇	番号種別表示						
4	NI	番号計画表示			表示識別		網検証識別	
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
⋮	⋮							
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

注) 表示識別が、「アドレス使用不可」の場合は、オクテット3～nは省略される。

図3-81-7. 14/NTT-Q763-1 転送元ユーザ番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
転送元ユーザ番号 (00001111) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが転送元ユーザ番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示  
3.9 a) 参照
- d) 番号種別表示  
3.9 b) 参照
- e) 番号不完全表示 (NI)  
0 完全  
1 予備
- f) 番号計画表示

- 0 0 0 予備
- 0 0 1 I S D N (電話) 番号計画 (勧告 E. 1 6 4 (E. 1 6 3))
- 0 1 0 予備
- 0 1 1 予備
- 1 0 0 予備
- 1 0 1 P N P 番号計画
- 1 1 0 予備
- 1 1 1 予備

- g) 表示識別
  - 0 0 表示可
  - 0 1 表示不可
  - 1 0 アドレス使用不可
  - 1 1 予備
- h) 網検証識別
  - 0 0 予備
  - 0 1 ユーザ投入、網検証あり、成功
  - 1 0 予備
  - 1 1 網投入
- i) アドレス情報
  - 3. 9 e) 参照
- j) フィルター
  - 3. 9 f) 参照

3.91.7.15 着信指示用音源種別

着信指示用音源種別従属パラメータのフォーマットは、図 3-8 1-7. 1 5 / N T T - Q 7 6 3 - 1 で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (0 0 0 1 0 0 0 0)							
2	従属パラメータ長							
3	拡張	予備			着信サービス識別子			
4	ユーザ設定情報							
5	ユーザ設定情報							

図 3-8 1-7. 1 5 / N T T - Q 7 6 3 - 1 着信指示用音源種別従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
着信指示用音源種別 (0 0 0 1 0 0 0 0) が設定される。
  - b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を 2 進数で表す。
- 次のコードが着信指示用音源種別パラメータの内容部のフィールドで使用される。
- c) 着信サービス識別子  
ビット D C B A (オクテット 3)
    - 0 0 0 0 特定周波数 (1 3 0 0 H z) 使用無鳴動着信
    - 0 0 0 1 留保 (特定周波数 (2 0 8 0 H z) 使用無鳴動着信)
    - 0 0 1 0 留保 (ユーザ指定周波数 (P B 信号) 使用無鳴動着信)
    - 0 0 1 1 内線番号呼出信号 (S I R) 着信
    - その他 予備
  - d) 拡張  
ビット H
    - 0 : 次オクテットに続く
    - 1 : 終了
  - e) ユーザ設定情報 (オクテット 4 及び 5)  
本フィールドはユーザが指定する P B 信号 (0 ~ 9、A ~ D) が I A 5 キャラクタでコード化される。ただし、

コード化されるオクテット数は、従属パラメータ長により判断する。

### 3.91.7.16 閉番号区域内呼表示

閉番号区域内呼表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 16/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00010001)							
2	従属パラメータ長							
3	H	G	F	E	D	C	B	A

図3-81-7. 16/NTT-Q763-1 閉番号区域内呼表示従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
閉番号区域内呼表示 (00010001) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが閉番号区域内呼表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

閉番号区域内呼表示

ビットA

- 0 閉番号区域外呼
- 1 閉番号区域内呼

その他 予備

### 3.91.7.17 網状態

網状態従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 17/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00010010)							
2	従属パラメータ長							
3	信号局番号							
4								
5	ISM識別番号							
6	拡張	網状態種別						
7	付随情報							
7 n								

図3-81-7. 17/NTT-Q763-1 網状態従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
網状態 (00010010) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが網状態従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 信号局番号  
信号局番号は、信号網のノードに割りつけられた番号をバイナリ表現で示す。
- d) ISM識別番号  
ISM識別番号は、信号局番号で示されたD70に収容される複数個存在するISMのうち1つを識別するために用いられる。ISM以外のノードは本フィールドに「00000000」を設定する。
- e) 網状態識別

```

0 0 0 0 0 0 0 0 予備
0 0 0 0 0 0 0 1 クロック異常
0 0 0 0 0 1 0 0 S P系チェックオフ
0 0 0 0 0 1 1 0 課金許可信号受信不能
0 0 0 0 1 0 0 0 課金レジスタなし
0 0 0 0 1 0 1 0 予備
      |
1 1 1 1 1 1 1 1 予備

```

f) 拡張

```

0 次オクテットに続く
1 最終オクテット

```

g) 付随情報

網状態種別に付随する情報が設定される。本フィールドのフォーマットは今後の課題とする。

(注) 本従属パラメータは繰り返し使用可能である。

### 3.91.7.18 詳細理由

詳細理由従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 18/NTT-Q763-1で示される。

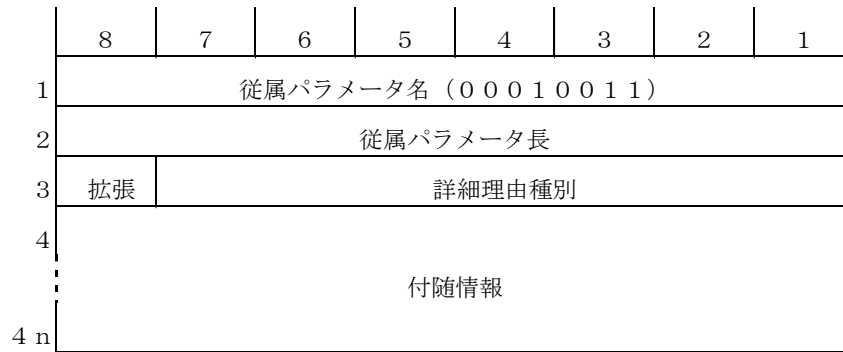


図3-81-7. 18/NTT-Q763-1 詳細理由従属パラメータフィールド

a) 従属パラメータ名

詳細理由 (00010011) が設定される。

b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが詳細理由従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

c) 詳細理由種別

```

0 0 0 0 0 0 0 0 予備
0 0 0 0 0 0 0 1 課金許可信号待ちタイミングアウト
0 0 0 0 0 1 0 0 H&D状態
0 0 0 0 0 1 1 0 予備
      |
1 1 1 1 1 1 1 1 予備

```

d) 拡張

```

0 次オクテットに続く
1 最終オクテット

```

e) 付随情報

詳細理由種別に付随する情報が設定される。本フィールドのフォーマットは今後の課題とする。

(注) 本従属パラメータは繰り返し使用可能である。

### 3.91.7.20 第1着ユーザ番号

第1着ユーザ番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 20/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00010101)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/偶	番号種別表示						
4	INN表示	番号計画表示			予備		通知判定表示	
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
:								
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-7. 20/NTT-Q763-1 第1着ユーザ番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
第1着ユーザ番号 (00010101) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが第1着ユーザ番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示
  - 0 アドレス情報の桁数が偶数
  - 1 アドレス情報の桁数が奇数
- d) 番号種別表示
 

0000000	予備
0000001	加入者番号
0000010	不定
0000011	国内番号
0000100	国際番号
0000101	予備
1111101	
1111110	網特有番号
1111111	予備
- e) 網内番号表示 (INN表示)
  - 0 網内へのルーティング可
  - 1 予備
- f) 番号計画表示
 

000	予備
001	ISDN (電話) 番号計画 (勧告E. 164 (E. 163))
010	予備
011	
100	
101	PNP番号計画
110	予備
111	予備
- g) 通知判定表示
  - 0 通知可
  - 1 通知不可
- h) アドレス情報
  - 0000 デジタル0
  - 0001 デジタル1
  - 0010 デジタル2
  - 0011 デジタル3
  - 0100 デジタル4
  - 0101 デジタル5
  - 0110 デジタル6
  - 0111 デジタル7

1 0 0 0    デジット 8  
 1 0 0 1    デジット 9  
 1 0 1 0    予備  
 1 0 1 1    \*  
 1 1 0 0    #  
 1 1 0 1    ]  
 1 1 1 0    予備  
 1 1 1 1    ]

i) フィラー

アドレス情報の桁数が奇数の場合、フィラーコード“0000”が最後のアドレス情報の後に挿入される。

### 3.91.7.21 着信拒否遭遇呼

着信拒否遭遇呼従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 21/Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00010110)							
2	従属パラメータ長							
3	拒否契約種別							

図3-81-7. 21/NTT-Q763-1 着信拒否遭遇呼従属パラメータフィールド

a) 従属パラメータ名

着信拒否遭遇呼 (00010110) が設定される。

b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが着信拒否遭遇呼従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

c) 拒否契約種別

0 0 0 0 0 0 0 0    予備  
 0 0 0 0 0 0 0 1    一般着信契約  
 0 0 0 0 0 0 1 0    フリーダイヤル拒否契約  
 0 0 0 0 0 0 1 1    一般ACR契約  
 0 0 0 0 0 1 0 0    ]  
                   |    予備  
 1 1 1 1 1 1 1 1    ]

### 3.91.7.23 ガイダンス通知拒否表示

ガイダンス通知拒否表示従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 23/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011000)							
2	従属パラメータ長							
3	H	G	F	E	D	C	B	A
4	P	O	N	M	L	K	J	I

図3-81-7. 23/NTT-Q763-1 ガイダンス通知拒否表示従属パラメータフィールド

a) 従属パラメータ名

ガイダンス通知拒否表示 (00011000) が設定される。

b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードがガイダンス通知拒否表示従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

着ユニット発信規制実行中表示

ビットA

0 予備

1 発信規制実行中

着ユーザ通知不可サービス契約表示

ビットB

0 予備

1 通知不可サービス契約

着ユーザ通知拒否表示

ビットC

0 予備

1 通知拒否

着ユニット通知停止表示

ビットD

0 予備

1 通知停止

その他 予備

注：本パラメータはガイダンス通知拒否条件がなければ設定されない。

(本パラメータが設定されない場合のデフォルト解釈は「ガイダンス通知可」とする。)

### 3.91.7.24 クラス符号

クラス符号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 24/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011001)							
2	従属パラメータ長							
3	クラス符号							

図3-81-7. 24/NTT-Q763-1 クラス符号従属パラメータフィールド

a) 従属パラメータ名

クラス符号 (00011001) が設定される。

b) 従属パラメータ長

従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

c) クラス符号

00000001 手即

00001000 列車公衆

00001001 一般単数案内

その他 予備

### 3.91.7.25 NSP設定情報

NSP設定情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 25/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011010)							
2	従属パラメータ長							
3	NSP情報							
6 4								

図3-81-7. 25/NTT-Q763-1 NSP設定情報従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
NSP設定情報(00011010)が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。
- c) NSP情報

NSPアクセスサービスにおいて、NSP特有の情報を設定する。尚、後位ノードにて既にNSP設定情報が設定されている信号を中継する場合は、自ノードで作成したNSP情報を既に設定されているNSP情報の後ろへ追加設定する。サービス毎のNSP設定情報例を図3-81-7. 25A/NTT-Q763-1に示す。



図3-81-7. 25A/NTT-Q763-1 NSP情報の設定例

### 3.91.7.26 番号変換履歴

番号変換履歴従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 26/NTT-Q763-1で示される。

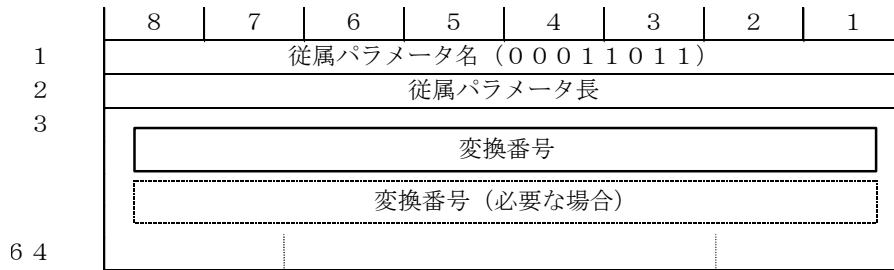


図3-81-7. 26/NTT-Q763-1 番号変換履歴従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
番号変換履歴(00011011)が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。
- c) 変換番号

着番号が変換された場合に設定する。また、1コールにおいて複数回の番号変換を行う場合は、番号変換毎に変換番号を後ろへ追加設定する。

### 3.91.7.27 IAM情報

IAM情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 27/NTT-Q763-1で示される。

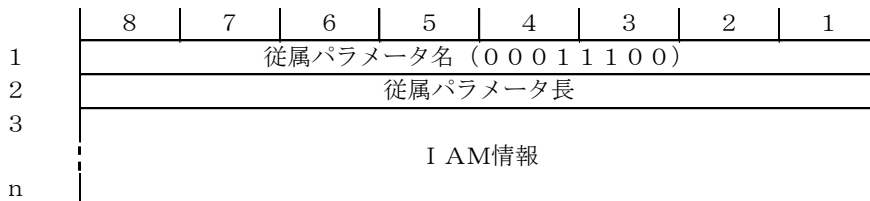


図3-81-7. 27/NTT-Q763-1 IAM情報従属パラメータフィールド

IAM情報パラメータフィールドのフォーマットはIAM信号のフォーマットとコーディング規定に準ず



ることとする。(但し、メッセージ種別についての設定は行わない。)

### 3.91.7.28 網特有ロケーション番号

網特有ロケーション番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 28/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011101)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/偶	番号種別表示						
4	予備	番号計画表示			表示識別		網検証識別	
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
:								
n	フィルタ (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-7. 28/NTT-Q763-1 網特有ロケーション番号従属パラメータフィールド

次のコードが網特有ロケーション番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

a) 奇数/偶数表示

3.9 a) 参照

b) 番号種別表示

0000000	予備
0000001	留保 (加入者番号)
0000010	留保 (不定)
0000011	国内番号
0000100	留保 (国際番号)
0000101	予備
1111111	

c) 番号計画表示

000	予備
001	ISDN (電話) 番号計画 (E. 164 (E. 163))
010	予備
011	留保 (データ番号計画 (X. 121))
100	留保 (TELEX番号計画 (F. 69))
101	留保 (私設番号計画)
110	国内用のため留保
111	予備

d) 表示識別

00	留保 (表示可)
01	表示不可
10	留保 (アドレス無効)
11	予備

e) 網検証識別

00	留保
01	留保 (ユーザ投入、網検証あり、成功)
10	留保
11	網投入

f) アドレス情報

3.9 e) 参照

g) フィルタ

3.9 f) 参照

### 3.91.7.29 回線優先クラス

回線優先クラス従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 29/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011110)							
2	従属パラメータ長							
3	回線優先クラス							

図3-81-7. 29/NTT-Q763-1 回線優先クラス従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
回線優先クラス (00011110) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表わす。

次のコードが回線優先クラス従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 回線優先クラス
 

00000000	予備
00000001	最優先
00000010	優先
00000011	一般
00000100	110番
00000101	119番
その他	予備

### 3.91.7.30 着ユーザ付加サービス情報

着ユーザ付加サービス情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 30/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00011111)							
2	従属パラメータ長							
3	H	G	F	E	D	C	B	A
4	P	O	N	M	L	K	J	I

図3-81-7. 30/NTT-Q763-1 着ユーザ付加サービス情報従属パラメータフィールド

次のコードが着ユーザ付加サービス情報従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- 緊急通報呼保留・再呼出し契約表示
- ビットA
  - 0 契約なし
  - 1 契約あり
- ビットB~P：予備

### 3.91.7.31 網特有汎用通知識別子

網特有汎用通知識別子従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 31/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00100000)							
2	従属パラメータ長							
3	拡張	通知識別子						

図3-81-7. 31/NTT-Q763-1 網特有汎用通知識別子従属パラメータフィールド

次のコードが網特有汎用通知識別子従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- a) 拡張
  - 0 次オクテットに続く
  - 1 最終オクテット
- b) 通知識別子
 

0 0 0 0 0 0 0	予備
0 0 0 0 0 0 1	発信者
0 0 0 0 0 1 0	発信者
0 0 0 0 0 1 1	応答信
0 0 0 0 1 0 0	切断信
0 0 0 0 1 0 1	予備
1 1 1 1 1 1 1	

3.91.7.32 ポータビリティ番号

ポータビリティ番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.32/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00100001)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/偶	番号種別表示						
4	INN表示	番号計画表示			ACM 送信済表示	スリップ表示		通知判定表示
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
:								
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-7.32/NTT-Q763-1 ポータビリティ番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
ポータビリティ番号 (00100001) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードがポータビリティ番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示  
3.91.7.12 c) 参照
- d) 番号種別表示  
3.91.7.12 d) 参照
- e) 網内番号表示 (INN表示)  
3.91.7.12 e) 参照
- f) 番号計画表示  
3.91.7.12 f) 参照
- g) ACM送信済表示
  - 0 ACM送信なし
  - 1 ACM送信済
- h) スリップ表示
  - 00 スリップなし
  - 01 第一スリップ呼
  - 10 第二スリップ呼
  - 11 予備
- i) 通知判定表示  
3.91.7.12 g) 参照
- j) アドレス情報  
3.91.7.12 h) 参照
- k) フィラー  
3.91.7.12 i) 参照

### 3.91.7.33 隣接網形態識別

隣接網形態識別従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.33/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00100010)							
2	従属パラメータ長							
3	隣接網形態識別表示							

図3-81-7.33/NTT-Q763-1 隣接網形態識別従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
隣接網形態識別 (00100010) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表わす。

次のコードが隣接網形態識別従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 隣接網形態識別表示
 

00000000	予備
00000001	予備
00000010	PHS事業者網
00000011	移動体網
00000100	国際網
00000101	地域網
00000110	中継網
00000111	総合通信事業者網
その他	予備

### 3.91.7.34 網特有事業者情報

網特有事業者情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.34/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00100011)							
2	従属パラメータ長							
3	事業者情報種別							
4								
5	事業者情報							
	⋮							
	事業者情報種別							
n	事業者情報							

図3-81-7.34/NTT-Q763-1 網特有事業者情報従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
網特有事業者情報 (00100011) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表わす。

次のコードが網特有事業者情報従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 事業者情報種別
- |          |              |
|----------|--------------|
| 00000000 | 予備           |
| 00000001 | 隣接事業者コード     |
| 00000010 | 隣接POI-MAC    |
| 00000011 | 経由情報         |
| 00000100 | 隣接事業者識別コード   |
| 00000101 | 隣接POI-料金区域情報 |
| その他      | 予備           |
- d) 事業者情報長  
事業者情報のオクテット長を2進数で表わす。
- e) 事業者情報

1. 事業者情報種別が00000001：隣接事業者コードの場合

	8	7	6	5	4	3	2	1
5	奇/偶		予備					
6	第2情報				第1情報			
:	事業者コード							
n	フィラー (必要な場合)				第N情報			

図3-81-7. 34A/NTT-Q763-1 事業者情報種別が隣接事業者コードの場合の事業者情報フィールド

(1) 奇数/偶数表示

- 0 事業者コード情報の桁数が偶数
- 1 事業者コード情報の桁数が奇数

(2) 事業者コード情報

- |      |       |
|------|-------|
| 0000 | ディジット |
| 0001 | ディジット |
| 0010 | ディジット |
| 0011 | ディジット |
| 0100 | ディジット |
| 0101 | ディジット |
| 0110 | ディジット |
| 0111 | ディジット |
| 1000 | ディジット |
| 1001 | ディジット |
| その他  | 予備    |

(3) フィラー

事業者コード情報の桁数が奇数桁の場合、フィラーコード“0000”が最後のアドレス情報の後に挿入される。

2. 事業者情報種別が00000010：隣接POI-MACの場合

	8	7	6	5	4	3	2	1
5	POI-MAC							(LSB)
6	予備						(MSB)	

図3-81-7. 34B/NTT-Q763-1 事業者情報種別が隣接POI-MACの場合の事業者情報フィールド

(1) POI-MAC

隣接POI-MACが10ビットのバイナリで表現される。

3.事業者情報種別が0000011：経路情報の場合

	8	7	6	5	4	3	2	1
5	予備						経路IGS情報	

図3-81-7. 34C/NTT-Q763-1 事業者情報種別が経路情報の場合の事業者情報フィールド

(1) 経路IGS情報

- 00 予備
- 01 GC-IGS経路
- 10 ZC-IGS経路
- 11 予備

4.事業者情報種別が00000100：隣接事業者識別コードの場合

	8	7	6	5	4	3	2	1
5	奇/偶	予備						
6	第2数字				第1数字			
:	隣接事業者識別コード							
n	フィラー (必要な場合)				第N数字			

図3-81-7. 34D/NTT-Q763-1 事業者情報種別が隣接事業者識別コードの場合の事業者情報フィールド

(1) 奇数/偶数表示

- 0 隣接事業者識別コードの桁数が偶数
- 1 隣接事業者識別コードの桁数が奇数

(2) 隣接事業者識別コード

- 0000 デイジッ
- 0001 デイジッ
- 0010 デイジッ
- 0011 デイジッ
- 0100 デイジッ
- 0101 デイジッ
- 0110 デイジッ
- 0111 デイジッ
- 1000 デイジッ
- 1001 デイジッ
- その他 予備

(3) フィラー

隣接事業者識別コードの桁数が奇数桁の場合、フィラーコード“0000”が最後の隣接事業者識別コードの後に挿入される。

5.事業者情報種別が00000101：隣接POI-料金区域情報の場合

	8	7	6	5	4	3	2	1
5	奇/偶	予備						
6	第2数字				第1数字			
:	隣接POI-料金区域情報							
n	フィラー (必要な場合)				第N数字			

図3-81-7. 34E/NTT-Q763-1 事業者情報種別が隣接POI-料金区域情報の場合の事業者情報フィールド

(1) 奇数/偶数表示

- 0 隣接POI-料金区域情報の桁数が偶数
- 1 隣接POI-料金区域情報の桁数が奇数

(2) 隣接POI-料金区域情報

- 0 0 0 0 デイジッ
- 0 0 0 1 デイジッ
- 0 0 1 0 デイジッ
- 0 0 1 1 デイジッ
- 0 1 0 0 デイジッ
- 0 1 0 1 デイジッ
- 0 1 1 0 デイジッ
- 0 1 1 1 デイジッ
- 1 0 0 0 デイジッ
- 1 0 0 1 デイジッ
- その他 予備

(3) フィラー

隣接POI-料金区域情報の桁数が奇数桁の場合、フィラーコード“0000”が最後の隣接POI-料金区域情報の後に挿入される。

注) 「事業者情報種別」以降の3~nオクテットは繰り返し設定されることがある。  
 なお、この場合のコード順序は特に規定しない。

3.91.7.35 料金算定着番号

料金算定着番号従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7. 35/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	従属パラメータ名 (00100100)							
2	従属パラメータ長							
3	奇/偶	番号種別表示						
4	予備	番号計画表示				予備		
5	第2アドレス情報				第1アドレス情報			
:								
n	フィラー (必要な場合)				第Nアドレス情報			

図3-81-7. 35/NTT-Q763-1 料金算定着番号従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
 料金算定着番号 (00100100) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
 従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。

次のコードが料金算定着番号従属パラメータの内容部のフィールドで使用される。

- c) 奇数/偶数表示  
 3.9 a) 参照

- d) 番号種別表示  
3.9 b) 参照
- e) 番号計画表示  
3.9 d) 参照
- f) アドレス情報  
3.9 e) 参照
- g) フィラー  
3.9 f) 参照

3.91.7.36 オペレータサービス特有情報

オペレータサービス特有情報従属パラメータのフォーマットは、図3-81-7.36/NTT-Q763-1で示される。

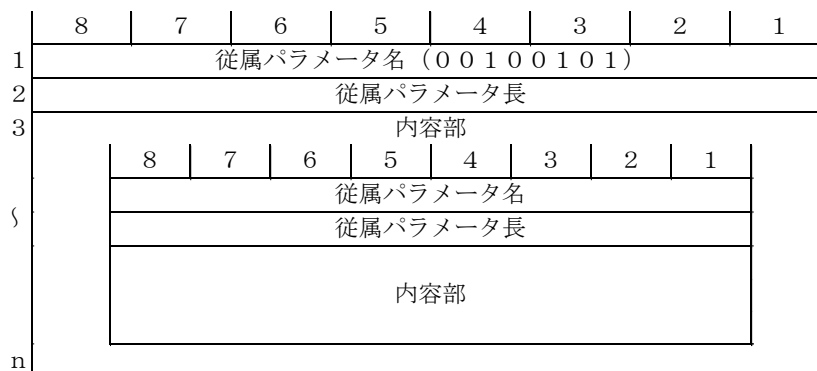


図3-81-7.36/NTT-Q763-1 オペレータサービス特有情報従属パラメータフィールド

- a) 従属パラメータ名  
オペレータサービス特有情報 (00100101) が設定される。
- b) 従属パラメータ長  
従属パラメータの内容部のオクテット長を2進数で表す。
- c) 内容部  
この内容部には、以下のオペレータサービス特有情報の従属パラメータが設定される。転送元のコミュニケータの対応状況により、複数の従属パラメータが設定される場合がある。

(1) 転送呼用クラスコード

- a) 従属パラメータ名  
転送呼用クラスコード：00000000
- b) 内容部

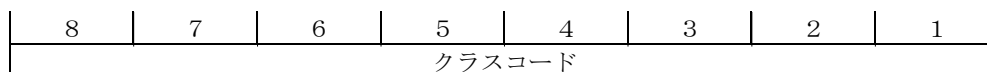


図3-81-7.36A/NTT-Q763-1 従属パラメータが転送呼用クラスコードの場合の内容部フィールド

- 00000000 : 予備
- 00000001 : 手即
- 00000010 : 自動車一般
- 00000011 : 自動車公衆
- 00000100 : 航空機一般
- 00000101 : 航空機公衆
- 00000110 : 船舶一般
- 00000111 : 船舶公衆
- 00001000 : 列車公衆



00001001 : 一般単数案内  
 00001010 : 一般複数案内  
 00001011 : 店頭公衆  
 00001100 : 街頭公衆  
 00001101 : ISM 一般単数案内  
 00001110 : ISM 一般複数案内  
 00001111 : ISM 手即  
 00010000 : ISM 店頭公衆  
 00010001 : ISM 街頭公衆  
 00010010 : クレジット104  
 00010011 : PHS  
 00010100 : ピンク  
 00010101 : NCC 0  
 00010110 : NCC 1  
 00010111 : NCC 2  
 00011000 : NCC 3  
 00011001 : NCC 4  
 00011010 : NCC 5  
 00011011 : NCC 6  
 00011100 : NCC 7  
 00011101 : NCC 8  
 00011110 : NCC 9  
 00011111 : NCC 10  
 00100000 : NCC 11  
 00100001 : NCC 12  
 00100010 : NCC 13  
 00100011 : NCC 14  
 00100100 : NCC 15  
 00100101 : NCC 16  
 00100110 : NCC 17  
 00100111 : NCC 18  
 00101000 : NCC 19  
 00101001 : NCC 20  
 その他 : 予備

(2) サービスタイプ

- a) 従属パラメータ名  
     サービスタイプ : 00000010  
 b) 内容部



図3-81-7. 36B/NTT-Q763-1 従属パラメータがサービスタイプの場合の内容部フィールド

00000000 : サービスタイプ設定無し  
 00000001 : DSA  
 00000010 : 非常緊急通話  
 00000011 : 番号案内接続 (現行)  
 00000100 : 番号案内接続 (新設)  
 00000101 : 自動コレクト  
 00000110 : 手動コレクト (自動コレクトアシスト)  
 00000111 : 手動コレクト  
 00001000 : 手動クレジット  
 00001001 : 列車着信接続  
 00001010 : オペレータ発信呼  
 その他 : 予備

(3) 番号案内情報

- a) 従属パラメータ名  
番号案内情報 : 00000011
- b) 番号案内回数: 番号案内した回数を2進数で設定
- c) ビットF  
0:表示なし(課金)  
1:ふれあい案内表示あり(非課金)
- d) ビットG,H  
予備

8	7	6	5	4	3	2	1
予備		F	案内回数				

図3-81-7. 36C/NTT-Q763-1 従属パラメータが番号案内情報の場合の内容部フィールド

(4) 無料通話表示

- a) 従属パラメータ名  
無料通話表示 : 00000100
- b) ビットA  
0:表示なし(課金)  
1:無料通話表示あり(非課金)
- c) その他  
予備

8	7	6	5	4	3	2	1
予備							A

図3-81-7. 36D/NTT-Q763-1 従属パラメータが無料通話表示の場合の内容部フィールド

(5) 転送元コミュニケータID

- a) 従属パラメータ名  
転送元コミュニケータID : 00000101
- b) 内容部

8	7	6	5	4	3	2	1
転送元コミュニケータID(第2アドレス)				転送元コミュニケータID(第1アドレス)			
転送元コミュニケータID(第4アドレス)				転送元コミュニケータID(第3アドレス)			
転送元コミュニケータID(第6アドレス)				転送元コミュニケータID(第5アドレス)			

図3-81-7. 36E/NTT-Q763-1 従属パラメータが転送元コミュニケータIDの場合の内容部フィールド

- 4ビット×6桁でコーディングされる。
- 0000:ディジット0
  - 0001:ディジット1
  - |
  - 1001:ディジット9
  - その他:予備

(6) アシスト理由

- a) 従属パラメータ名  
アシスト理由: 00000110
- b) 内容部

8	7	6	5	4	3	2	1
アシスト理由							

図3-81-7. 36F/NTT-Q763-1 従属パラメータがアシスト理由の場合の内容部フィールド

0 0 0 0 0 0 0 0		0 0	留保
0 0 0 1 0 0 0 0			
0 0 0 1 0 0 0 0		0 0	OP 1B 信号受信なし
0 0 0 1 0 0 0 0		0 0	着番入力エラー
0 0 0 1 0 0 0 0		0 0	着側確認エラー
0 0 0 1 0 1 0 0		0 1	発信者からのアシスト要
0 0 0 1 0 1 0 0		0 1	発信者氏名録音エラー
0 0 0 1 0 1 0 0		0 1	着側クラス規制
0 0 0 1 0 1 0 0		0 1	留保
0 0 0 1 1 0 0 0		0 0	着側無応答
0 0 0 1 1 0 0 0		0 0	着側音声認識エラー
0 0 0 1 1 0 0 0		0 0	着側PB受信エラー
その他			: 予備

3.91.7.37 削除

3.91.9 呼情報

呼情報パラメータのフォーマットは、図3-81-8/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	呼情報							
n								

図3-81-8/NTT-Q763-1 呼情報パラメータフィールド

呼情報パラメータフィールドのフォーマットは、ISUPでは規定しない。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 3.96 リダイレクション能力（国内用） 【技別4に準拠する】
- 3.97 リダイレクション回数（国内用） 【技別4に準拠する】
- 3.99 リダイレクション順方向情報（国内用） 【技別4に準拠する】
- 3.99.3 リダイレクション実行表示 【技別4に準拠する】
- 3.99.4 リダイレクション起動理由 【技別4に準拠する】
- 3.100 リダイレクション逆方向情報（国内用） 【技別4に準拠する】
- 3.100.3 リダイレクション起動理由 【技別4に準拠する】
- 3.102 網機能種別

▼網機能種別パラメータフィールドのフォーマット例は、図3-73/NTT-Q763-1で示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
H	G	F	E	D	C	B	A

図3-73/NTT-Q763-1 網機能種別パラメータフィールド

次のコードが網機能種別パラメータフィールドのサブフィールドで使用される。

- NCC契約種別
- ビット A
- 0 IDを送出しない
- 1 IDを送出する

着信呼び出し制御表示

- ビット B
- 0 鳴動着信
- 1 無鳴動着信

ユーザ・ユーザ情報提供表示

- ビット C
- 0 ユーザ・ユーザ情報提供サービス要求に対しサービス提供可
- 1 ユーザ・ユーザ情報提供サービス要求に対しサービス提供不可

着側接続判定表示

- ビット D
- 0 判定時接続不可
- 1 判定時接続可

迂回ルート表示

- ビット E
- 0 迂回ルートでない
- 1 迂回ルート

迂回回数表示

- ビット GF
- 00 迂回なし
- 01 1回
- 10 予備
- 11 予備

事業者間相互接続表示

- ビット H
- 0 事業者間相互接続なし
- 1 事業者間相互接続あり ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.103 料金区域情報 【技別4に準拠する】

#### 3.103.1 ISDNユーザ表示

▼ISDNユーザ表示パラメータのフォーマットは、図3-74.1/NTT-Q763-1で示される。

8	7	6	5	4	3	2	1
H	G	F	E	D	C	B	A

図3-74.1/NTT-Q763-1 ISDNユーザ表示パラメータフィールド

ISDNユーザ表示

- ビットA
- 0 予備
- 1 S点非ISDN

ビットB-H：予備

(注) 本パラメータはPBXと端末間（S点）のインタフェースがQ.931でないときに、その情報を局間で伝達するために用いる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.104 課金情報

課金情報パラメータフィールドのフォーマットを、図3-98/NTT-Q763-1に示す。

図3-98/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

フィールド構成は、課金情報種別パラメータの値がNTT-Q763-1で規定されている以外の場合は、網毎に規定する。

(1) 課金情報種別パラメータ値が11111110（課金レート転送）の場合 【技別4に準拠する】

(2) 課金情報種別パラメータ値が00000011（応用課金レート転送）の場合 【技別4に準拠する】

図3-99d/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

- a) 拡張表示 【技別4に準拠する】
- b) 信号要素種別 【技別4に準拠する】
- c) 起動ID 【技別4に準拠する】
- d) オペレーションクラス 【技別4に準拠する】
- e) オペレーション種別 【技別4に準拠する】
- f) 課金者種別
  - 000 発信者課金
  - ▼001 着信者課金▲
  - その他 予備

【技別4では▼▲の規定をしていない】

- g) 料金収集方法 【技別4に準拠する】
- h) 料金/レート表示 【技別4に準拠する】
- i) 料金/レート情報 【技別4に準拠する】

(3) 課金情報種別パラメータ値が▼00000000又は▲00000001の場合

【技別4では▼▲の規定が異なる】

課金情報パラメータフィールドのフォーマットを、図3-99D/NTT-Q763-1に示す。

図3-99D/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

- a) 課金表示 【技別4に準拠する】
- b) 課金情報表示 【技別4に準拠する】

(4) 課金情報種別パラメータ値が00000010の場合

課金情報パラメータフィールドのフォーマットを、図3-99F/NTT-Q763-1に示す。

図3-99F/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

- a) 拡張表示 【技別4に準拠する】
- b) 信号要素種別 【技別4に準拠する】
- c) 起動ID 【技別4に準拠する】
- d) オペレーションクラス 【技別4に準拠する】
- e) オペレーション種別 【技別4に準拠する】
- f) 課金者種別
  - 000 発信者課金
  - ▼001 着信者課金 ▲
  - その他 予備

【技別4では▼▲の規定をしていない】

- g) 料金収集方法 【技別4に準拠する】
- h) 料金/レート表示
  - 00000000 予備

- 0 0 0 0 0 0 0 1 (初期)一括登算度数+「秒/10円」
- 0 0 0 0 0 0 1 0 料金/レート情報なし
- 0 0 0 0 0 0 1 1 通信料MB I+情報料レート「秒/10円」+情報料非課金時間
- 0 0 0 0 0 1 0 0 通信料MB I+情報料課金度数+情報料非課金時間
- 0 0 0 0 0 1 0 1 通信料MB I
- 0 0 0 0 0 1 1 0 (初期)一括登算度数+「秒/10円」(一般+公衆)
- ▼ 0 0 0 0 0 1 1 1 情報料課金度数
- 0 0 0 0 1 0 0 0 単位料金+(初期)一括登算度数+「秒/単位料金」▲
- その他 予備

【技別4では▼▲の規定をしていない】

i) 料金/レート情報

- ①料金レート表示が00000001の場合 【技別4に準拠する】
- ②料金レート表示が00000011の場合 【技別4に準拠する】
- ③料金レート表示が00000100の場合 【技別4に準拠する】
- ④料金レート表示が00000101の場合 【技別4に準拠する】
- ⑤料金レート表示が00000110の場合 【技別4に準拠する】

▼ ⑥料金レート表示が00000111の場合

	8	7	6	5	4	3	2	1	
2 a	登算度数をIA5で表す								M
2 b	(10M+N)								N

図3-99L/NTT-Q763-1 課金パラメータフィールド

⑦料金レート表示が00001000の場合

	8	7	6	5	4	3	2	1	
	単位料金								
1	(初期)一括登算度数をIA5で表す								M
2	(10M+N)								N
3	昼間課金間隔(秒)をIA5で表す ((100A+10B+C)/2)秒/単位料金								A
									B
									C
	夜間課金間隔(秒)をIA5で表す ((100D+10E+F)/2)秒/単位料金								D
									E
									F
	深夜1課金間隔(秒)をIA5で表す ((100G+10H+I)/2)秒/単位料金								G
									H
									I
	深夜2課金間隔(秒)をIA5で表す ((100J+10K+L)/2)秒/単位料金								J
									K
n									L

図3-99M/NTT-Q763-1 課金パラメータフィールド

i) 単位料金

単位料金を2進数で表す。▲

【技別4では▼▲の規定をしていない】

(5) 削除

(6) 削除

3.105 課金情報種別

課金情報種別パラメータフィールドのフィールドを、図3-100/NTT-Q763-1に示す。

図3-100/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

次のコードが課金情報種別パラメータフィールドで使用される。

00000000 ▼KDD・国際自即公衆▲

【技別4とは▼▲の規定が異なる】

00000001 国際自即公衆

00000010 柔軟課金

00000011 応用課金レート転送

00000100	}	網固有情報
§		
10000000		

10000001	}	予備
§		
11111101		
11111110		課金レート転送
11111111		予備

- 3.106 契約者番号 【技別4に準拠する】
- 3.107 移動通信用エンド情報転送 【規定しない】
- 3.108 移動通信用呼番号 【規定しない】
- 3.109 PHS 端末識別番号 【規定しない】
- 3.110 発信者番号非通知理由 【技別4に準拠する】
- 3.111 国内用リダイレクション理由 【規定しない】

▼3.111.1 試験情報転送

試験情報転送パラメータのフォーマットは、図3-81-9/NTT-Q763-1で示される。

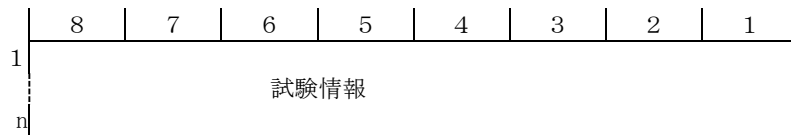


図3-81-9/NTT-Q763-1 試験情報転送パラメータフィールド

試験情報転送パラメータフィールドのフォーマットは、ISUPでは規定しない。

3.111.2 リダイレクション理由

リダイレクション理由パラメータのフォーマットは、図3-81-10/NTT-Q763-1で示される。

	8	7	6	5	4	3	2	1
1	H	G	F	E	D	C	B	A

図3-81-10/NTT-Q763-1 リダイレクション理由パラメータフィールド

リダイレクション理由

ビットGFEDCBA  
 0000000 予備  
 0000001 } 予備  
 1111011 }  
 1111100 災害対策用全国利用型伝言ダイヤル  
 1111101 予備  
 1111110 番号ポータビリティ  
 1111111 予備

ビットH：予備 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 3.112 付加ユーザ種別

付加ユーザ種別パラメータのフォーマットを、図3-107/NTT-Q763-1で示す。

図3-107/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

付加ユーザ種別パラメータフィールドには、付加ユーザ種別を任意に組み合わせて設定する。

次のコードが付加ユーザ種別パラメータフィールドで使用される。

a) 付加ユーザ種別名

00000000 予備  
 ▼00000001 NTT長距離付加ユーザ種別1  
 00000010 NTT長距離付加ユーザ種別2 ▲

【技別4では▼▲の規定が異なる】

00000011 } 網固有情報として留保  
 |  
 10000000 }  
 10000001 } 予備  
 |  
 11111010 }  
 11111011 移動系付加ユーザ種別3  
 11111100 移動系付加ユーザ種別2  
 11111101 移動系付加ユーザ種別1  
 11111110 固定系付加ユーザ種別1  
 11111111 予備

b) 固定系付加ユーザ種別1：付加的なユーザ種別情報を設定 【技別4に準拠する】

c) 移動系付加ユーザ種別1：サービスに関する情報を設定 【技別4に準拠する】

d) 移動系付加ユーザ種別2：通信方式に関する情報を設定 【技別4に準拠する】

e) 移動系付加ユーザ種別3：料金方式に関する情報を設定 【技別4に準拠する】

▼ f) NTT長距離付加ユーザ種別1：認証に関する情報を設定

00000000 予備  
 00000001 非契約  
 00000010 } 予備  
 |  
 11111111 }



g) NTT長距離付加ユーザ種別2：サービスに関する情報を設定

```

0 0 0 0 0 0 0 0 予備
0 0 0 0 0 0 0 1 予備
0 0 0 0 0 0 1 0 メンバーズネットサービス
0 0 0 0 0 0 1 1 }
      |             } 予備
      1 1 1 1 1 1 1 } ▲
  
```

【技別4では▼▲を規定していない】

- 3.113 課金情報遅延 【技別4に準拠する】
- 3.114 事業者情報転送 【技別4に準拠する】
- 3.115 輻輳制御済み通知情報

▼輻輳制御済み通知情報パラメータフィールドのフォーマットを図3-110/JT-Q763-1に示す。

8	7	6	5	4	3	2	1
拡張/1	予備		輻輳制御対象外桁数				

図3-110/NTT-Q763-1 輻輳制御済み通知情報パラメータフィールド

以下のコードが輻輳制御済み通知情報パラメータフィールドで使用される。

a) 輻輳制御対象外桁数

輻輳制御を実施した番号情報に対する輻輳制御対象外桁数を2進数で表す。

b) 拡張表示

0 次オクテットに続く

1 最終オクテット ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 3.116 発測地速度情報 【規定しない】
  - 3.116.1 水平速度 【規定しない】
  - 3.116.2 水平垂直速度 【規定しない】
  - 3.116.3 誤差を含む水平速度 【規定しない】
  - 3.116.4 誤差を含む水平垂直速度 【規定しない】
- 3.117 緊急通報呼表示 【技別4に準拠する】

#### 4. ISDNユーザ部メッセージとコード

この章では ISDN ユーザ部メッセージのフォーマットとコーディングを規定している。各々のメッセージに対し、関連するパラメータのリストを表形式で示す。

- パラメータの内容のフォーマットとコードを規定している参照すべき章
- パラメータのタイプ、表中に次のタイプが使用される。
  - F=固定長必須パラメータ
  - V=可変長必須パラメータ
  - O=可変長または固定長のオプション・パラメータ
- パラメータ長、
  - 表中の値は次のものを含む。

- タイプFのパラメータに対しては、パラメータ内容の長さ（オクテット単位）
- タイプVのパラメータに対しては、長さ表示とパラメータ内容を合わせた長さ（オクテット単位）。最小長と最大長を示す。
- タイプOのパラメータに対しては、パラメータ名、長さ表示とパラメータ内容を合わせた長さ（オクテット単位）。可変長パラメータに対しては、最小長と最大長を示す。
- T T C 規定の値については括弧内に示す。

各々のメッセージ種別に対し、タイプFパラメータとタイプVパラメータのポインタは次の表に規定する順に従って送出しなければならない。

ルーチングラベルと回線番号フィールドは、必要ならばメッセージ種別の前に転送され、表には示されていない。パラメータ名、可変長必須フィールドとオプション部のポインタおよび長さ表示は、図1-3/NTT-Q763-1に示すようにメッセージの中に含まれるが、表4-1～4-34/NTT-Q763-1には明示されない。

表4-1/NTT-Q763-1  
メッセージ種別：アドレス完了（ACM）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
逆方向呼表示	3.5	F	2
オプション逆方向呼表示	3.37	O	3
理由表示	3.12	O	4～36
▼呼番号	3.8	O	7▲
ユーザ・ユーザ表示	3.60	O	3
▼ユーザ・ユーザ情報	3.61	O	3～131（注）▲
アクセス転送	3.3	O	3～82
▼サービス活性化	3.49	O	3～16▲
課金情報	3.104	O	3～36
課金情報種別	3.105	O	3
料金区域情報	3.103	O	3～6
▼網機能種別	3.102	O	3
エンド情報転送 （従属パラメータ）	3.91.6	O	3～128
CUG接続制御	3.91.7.6		3
網特有事業者情報	3.91.7.34		5～64
NSP設定情報	3.91.7.25		3～64
グローバル情報 （従属パラメータ）	3.91.5	O	3～128
第2網機能種別	3.91.7.7		4▲
付加ユーザ種別	3.112	O	4～18
課金情報遅延	3.113	O	3～4
事業者情報転送	3.114	O	3～99
▼呼情報	3.91.9	O	3～128▲
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

▼（注）35オクテットまでのみを提供する網がある。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

表 4-2 / NTT-Q 7 6 3-1

メッセージ種別：応答 (ANM)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
メッセージ種別	2.1	F	1
逆方向呼表示	3.5	O	4
オプション逆方向呼表示	3.37	O	3
▼呼番号	3.8	O	7▲
ユーザ・ユーザ情報	3.61	O	3~131 (注1)
アクセス転送	3.3	O	3~82
汎用番号 (注2)	3.26	O	5~15
▼網機能種別	3.102	O	3▲
料金区域情報	3.103	O	3~6
▼ISDN ユーザ表示	3.103.1	O	3
試験呼情報	3.91.3	O	3~128
試験情報転送	3.111.1	O	3~96
エンド情報転送 (従属パラメータ)	3.91.6	O	3~128
NSP設定情報	3.91.7.25		3~64
番号変換履歴	3.91.7.26		3~64
着ユーザ付加サービス情報	3.91.7.30		4
グローバル情報 (従属パラメータ)	3.91.5	O	3~128
第1衛星チャネル表示	3.91.7.8		7~30
第2衛星チャネル表示	3.91.7.9		7~30
着信拒否遭遇呼	3.91.7.21		3
第2網機能種別	3.91.7.7		4
呼情報	3.91.9	O	3~128▲
付加ユーザ種別	3.112	O	4~18
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

(注1) 35オクテットまでのみを提供する網がある。

(注2) このパラメータは最大10回繰り返されることがある。

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-3/NTT-Q763-1  
メッセージ種別：呼経過（CPG）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
イベント情報	3.21	F	1
理由表示	3.12	O	4～36
▼呼番号	3.8	O	7▲
逆方向呼表示	3.5	O	4
アクセス転送	3.3	O	3～82
汎用番号（注1）	3.26	O	5～15
ユーザ・ユーザ表示	3.60	O	3
ユーザ・ユーザ情報	3.61	O	3～131（注2）
料金区域情報	3.103	O	3～6
▼ISDN ユーザ表示	3.103.1	O	3
試験呼情報	3.91.3	O	3～128
試験情報転送	3.111.1	O	3～96
エンド情報転送 （従属パラメータ）	3.91.6	O	3～128
NSP設定情報	3.91.7.25		3～64
番号変換履歴	3.91.7.26		3～64
着ユーザ付加サービス情報	3.91.7.30		4
網特有汎用通知識別子	3.91.7.31		3～4
CUG接続制御	3.91.7.6		3
網特有事業者情報	3.91.7.34		5～64
グローバル情報 （従属パラメータ）	3.91.5	O	3～128
第1衛星チャネル表示	3.91.7.8		7～30
第2衛星チャネル表示	3.91.7.9		7～30
着信拒否遭遇呼	3.91.7.21		3
第2網機能種別	3.91.7.7		4
呼情報	3.91.9	O	3～128▲
付加ユーザ種別	3.112	O	4～18
オプション逆方向呼表示	3.37	O	3
サービス活性化	3.49	O	3～16
▼課金情報	3.104	O	3～36
課金情報種別	3.105	O	8
網機能種別	3.102	O	3～4▲
課金情報遅延	3.113	O	8
事業者情報転送	3.114	O	3～99
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

（注1）このパラメータは最大10回繰り返されることもある。

(注2) 35オクテットまでのみを提供する網がある。

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-4/NTT-Q763-1【技別4に準拠する】

メッセージ種別：回線群状態応答 (CQR)

表4-5/NTT-Q763-1【技別4に準拠する】

メッセージ種別：回線群リセット確認 (GRA)

表4-6/NTT-Q763-1【規定しない】

メッセージ種別：コンフュージョン (CFN)

表4-7/NTT-Q763-1【規定しない】

メッセージ種別：接続 (CON)

表4-8/NTT-Q763-1

メッセージ種別：導通試験 (COT)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
▼メッセージ種別	2.1	F	1
導通表示	3.18	F	1▲

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-12/NTT-Q763-1

メッセージ種別：アドレス (I AM)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
メッセージ種別	2.1	F	1
持続特性表示	3.35	F	1
順方向呼表示	3.23	F	2
発ユーザ種別	3.11	F	1
通信路要求表示	3.54	F	1
着番号	3.9	V	4~16
中継網選択 (国内用)	3.53	O	4~7
▼呼番号	3.8	O	7▲
発番号	3.10	O	4~14
発信者番号非通知理由	3.110	O	3
汎用ディジット (国内用) (注)	3.24	O	4~15
汎用番号 (注)	3.26	O	5~15
オプション順方向呼表示	3.38	O	3
▼閉域接続インタロックコード	3.15	O	6▲
転送元番号	3.44	O	4~12
着信転送情報	3.45	O	3~4
▼接続要求	3.17	O	7~9▲
第一着番号	3.39	O	4~12
ユーザ・ユーザ情報	3.61	O	3~131
アクセス転送	3.3	O	3~82
ユーザサービス情報	3.57	O	4~13
▼ユーザ・ユーザ表示	3.60	O	3
リモートオペレーション	3.48	O	8~64▲
サービス活性化	3.49	O	3~16
▼マルチスロット表示	3.91.2	O	4~7
ISDNユーザ表示	3.103.1	O	3▲
料金区域情報	3.103	O	3~6
▼網機能種別	3.102	O	3▲
契約者番号	3.106	O	3~12
▼試験呼情報	3.91.3	O	3~128
付加情報転送	3.91.1	O	3~146
エンド情報転送 (従属パラメータ)	3.91.6	O	3~128
機能レベル表示	3.91.7.1		3
CUG接続制御	3.91.7.6		3
通信中発信呼表示	3.91.7.10		3
発ユーザ番号	3.91.7.11		4~12
着ユーザ番号	3.91.7.12		4~14

オプション転送情報	3.91.7.13		3
転送元ユーザ番号	3.91.7.14		4～12
着信指示用音源種別	3.91.7.15		3～5
第1着ユーザ番号	3.91.7.20		4～14
隣接網形態種別	3.91.7.33		3
クラス符号	3.91.7.24		3
オペレータサービス特有情報	3.91.7.36		3～17
グローバル情報 (従属パラメータ)	3.91.5	○	3～128
第2網機能種別	3.91.7.7		4
第1衛星チャンネル表示	3.91.7.8		7～30
第2衛星チャンネル表示	3.91.7.9		7～30
閉番号区域内呼表示	3.91.7.16		3
回線優先クラス	3.91.7.29		3
網特有ロケーション番号	3.91.7.28		5～14
ポータビリティ番号	3.91.7.32		4～14
リダイレクション理由	3.111.2	○	3
試験情報転送	3.111.1	○	3～96▲
付加ユーザ種別	3.112	○	4～18
事業者情報転送	3.114	○	3～99
リダイレクション能力(国内用)	3.96	○	3
リダイレクション回数(国内用)	3.97	○	3
相関id	3.70	○	4～15
SCFid	3.71	○	3～22
▼輻輳制御済み通知情報	3.115	○	3▲
着IN番号	3.73	○	4～17
第一着IN番号	3.87	○	4～17
リダイレクション順方向情報 (国内用)	3.99	○	5～15
緊急通報呼表示	3.117	○	3
着ディレクトリ番号(国内用)	3.86	○	5～17
オプションパラメータ終了表示	3.20	○	1

(注) このパラメータは最大10回繰り返されることがある。

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-13/NTT-Q763-1

メッセージ種別：切断(REL)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ(オクテット)
メッセージ種別	2.1	F	1
理由表示	3.12	V	3～35



▼逆方向呼表示	3.5	○	4▲
転送先番号	3.46	○	5～14
▼信号局コード（国内用）（注1）	3.50	○	4～5▲
ユーザ・ユーザ情報	3.61	○	3～131
▼マルチスロット表示	3.91.2	○	4～7
網機能種別（注X）	3.102	○	3
料金区域情報	3.103	○	3～6
保守運用情報	3.91.4	○	3
試験呼情報	3.91.3	○	3～128
エンド情報転送 （従属パラメータ）	3.91.6	○	3～128
CUG接続制御	3.91.7.6		3
着ユーザ番号	3.91.7.12		4～14
ガイダンス通知拒否表示	3.91.7.23		4
網特有事業者情報	3.91.7.34		5～64
グローバル情報 （従属パラメータ）	3.91.5	○	3～242
網状態	3.91.7.17		6～16
詳細理由	3.91.7.18		3～16
I AM情報	3.91.7.27		33～240
ポータビリティ番号	3.91.7.32		4～14▲
サービス活性化	3.49	○	3～16
着番号（注▼Y▲）	3.9	V	4～13
着IN番号	3.73	○	4～17
▼リダイレクション理由	3.111.2	○	3
試験情報転送	3.111.1	○	3～96
リモートオペレーション	3.48	○	8～64
呼情報	3.91.9	○	3～128▲
リダイレクション逆方向情報 （国内用）	3.100	○	5
事業者情報転送	3.114	○	3～99
リダイレクション回数（国内用）	3.97	○	3
オプションパラメータ終了表示	3.20	○	1

▼（注1）国内用のみ

（注X） 関門局（IGS、SZC）が、他事業者網内で生成されたRELを中継する時に当社／他事業者切り分けのため本パラメータを設定する。 ▲

（注▼Y▲） サービス活性化パラメータのフィーチャーコードが「リルーチング要求」の場合に、本パラメータが設定される。

【技別4では▼▲を規定していない】

メッセージ種別：復旧完了（RLC）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
▼理由表示	3.12	O	5～?
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1▲

【技別4では▼▲を規定していない】

▼表4-16/NTT-Q763-1

メッセージ種別：ユーザ・ユーザ情報（USR）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
ユーザ・ユーザ情報	3.61	V	2～130
アクセス転送	3.3	O	3～?
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-18/NTT-Q763-1

メッセージ種別：中断（SUS）

再開（RES）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
中断/再開表示	3.52	F	1
▼網機能種別	3.102	O	3
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1▲

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-19/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

メッセージ種別：閉塞（BLO）

閉塞確認（BLA）

回線リセット（RSC）

閉塞解除（UBL）

閉塞解除確認（UBA）

表4-20/NTT-Q763-1

メッセージ種別：回線群閉塞（CGB）

回線群閉塞確認（CGBA）

回線群閉塞解除（CGU）

回線群閉塞解除確認 (CGUA)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
▼メッセージ種別	2.1	F	1
回線群管理メッセージ種別表示	3.13	F	1
範囲と状態	3.43	V	3～34▲

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-21/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

メッセージ種別：回線群リセット (GRS)

回線群状態要求 (CQM)

▼表4-23/NTT-Q763-1

メッセージ種別：パスアロング (PAM)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
メッセージ種別	2.1	F	1
メッセージ種別	} NTT-Q764-1の節3で規定されるコネクションのエンドポイントでのみ関係する表21～49のメッセージ		
固定長必須部			
可変長必須部			
オプション部			

表4-25/NTT-Q763-1

メッセージ種別：ファシリティ (FAC)

パラメータ	参照節	タイプ	長さ (オクテット)
メッセージ種別	2.1	F	1
サービス活性化	3.49	O	3～16
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-29/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

メッセージ種別：分割 (SGM)

表4-30/NTT-Q763-1 【規定しない】

メッセージ種別：ループ抑止 (LOP)

表4-31/NTT-Q763-1 【規定しない】

メッセージ種別：アプリケーション転送（APM）

表4-32/NTT-Q763-1【規定しない】

メッセージ種別：先行切断情報（PRI）

表4-34/NTT-Q763-1

メッセージ種別：課金（CHG）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
メッセージ種別	2.1	F	1
▼網機能種別	3.102	O	3▲
課金情報種別	3.105	F	1
課金情報	3.104	V	3～35
▼エンド情報転送 （従属パラメータ）	3.91.6	O	3～128
機能レベル表示	3.91.7.1		3
NSP設定情報	3.91.7.25		3～64
着番号	3.9	O	5～17▲
料金区域情報	3.103	O	3～6
付加ユーザ種別	3.112	O	4～18
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-34-1/NTT-Q763-1

メッセージ種別：経過表示（PRG）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
▼メッセージ種別	2.1	F	1
理由表示	3.12	O	4～36
イベント情報	3.21	O	3
エンド情報転送	3.91.6	O	3～128
グローバル情報	3.91.5	O	3～128
オプションパラメータ終了表示	3.20	O	1▲

【技別4では▼▲を規定していない】

表4-34-2/NTT-Q763-1

メッセージ種別：呼出中（ALT）

パラメータ	参照節	タイプ	長さ（オクテット）
▼メッセージ種別	2.1	F	1
イベント情報	3.21	O	3

呼番号	3.8	○	7
アクセス転送	3.3	○	3～82
逆方向表示	3.5	○	4
ユーザ・ユーザ情報	3.61	○	3～13
ISDNユーザ表示	3.103.1	○	3
エンド情報転送	3.91.6	○	3～128
グローバル情報	3.91.5	○	3～128
オプションパラメータ終了表示	3.20	○	1▲

【技別4では▼▲を規定していない】

付属資料A

認識不可パラメータ値の処理の表【規定しない】

付属資料B

ISUPメッセージのプライオリティ

付表B. 1/NTT-Q763-1 【技別4に準拠する】

付録I (NTT-Q763-1)

事業者情報転送パラメータの構成例【技別4に準拠する】

## NTT-Q764-1 信号手順

### 1. 概説

#### 1.1 本標準の範囲

本約款は当社との相互接続におけるISDN接続の呼設定と呼解放に関する基本的なISDNユーザ部の信号手順について規定する。

本約款の2章に記述した手順は、基本呼に関連するものである（すなわち付加サービスを含まない）。▼エンド・エンド信号コネクションについての手順は、本仕様の付録に示されている。付加サービス及び網機能を含む呼の場合の付加的な要求条件は、Q. 730に規定されている。ISDNユーザ一部の状態遷移図（SDL図）は、本仕様の付録Bに示されている。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 1.2 参考文献 【技別4に準拠する】

#### 1.3 定義 【技別4に準拠する】

#### 1.4 略語 【技別4に準拠する】

### 2. 基本呼制御と信号手順

付属資料Bの付図1/NTT-Q764-1から付図4/NTT-Q764-1は、以下に記述したISDN呼設定シーケンスを表している。

#### 2.1 完了の呼設定

##### 2.1.1 順方向アドレス信号制御—一括転送制御

###### 2.1.1.1 発交換機で必要な動作

- a) 回線選択 【技別4に準拠する】
- b) アドレス情報送信シーケンス 【技別4に準拠する】
- c) アドレスメッセージ

アドレスメッセージは着交換機へのルーチング及び着ユーザへの接続のために必要な全情報を含んでいる。

アドレスメッセージが、MTP転送の上限である272オクテットを越える場合は、分割メッセージ（SGM）を使用し、分割される。（節2.1.12参照）

アドレスメッセージはすべて、プロトコル制御表示（順方向呼表示パラメータ）と通信路要求表示パラメータを含む。

発交換機は、プロトコル制御表示とISUP1リンク希望表示内の各パラメータを設定し、以下を表示する。

- ▼ (i) 使用可能なエンド・エンド転送法の種別（付録I参照）▲  
【技別4では▼▲を規定していない】
- (ii) No. 7信号方式の利用可否
- (iii) ISDNユーザ部の利用可否
- ▼ (iii.1)（着ユーザが呼出される以前の要求に対する）付加的な情報の使用可否▲  
【技別4では▼▲を規定していない】
- (iv) 必要な網信号機能（例：ISUP1リンクを希望し必須）

ISUP1リンク希望表示は、要求されたベアラサービス、および付加サービスに従って設定される。実際の設定は、サービスに対する要求条件に応じ、個々のケースで異なることもある。原則として、ISUPがサービス上絶対必要である場合は、表示を「ISUP1リンクを希望し必須である」に設定し、サービスがオプションであるがISUPが望ましい場合は「ISUP1リンクを希望するが必須ではない」に設定し、それ以外の場合は「ISUP1リンクを希望しない」に設定する。アドレスメッセージ内の1つ以上のパラメータによって要求される内最も厳しい条件に基づいて表示を、「ISUP1リンクを希望し必須」、「ISUP1リンクを希望するが必須ではない」、「ISUP1リンクを希望しない」のどれかに設定する。

▼さらに、要求されたサービスの提供にエンド・エンド信号情報転送が必須となる場合は、本表示は、常に「希望し必須である」に設定されるべきである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

接続特性表示は、選択された出回線の特性に基づき適切に設定される。

通信路要求表示は、3.1kHz オーディオのような要求されたコネクションタイプを含む。

また、発交換機はアドレスメッセージに次に示す情報も含めうる。

- ▼ (i) 着交換機が、エンド・エンドコネクションを設定できるようにするための（発交換機の信号局番号を含む）呼番号（付録I参照）▲  
【技別4では▼▲を規定していない】
- (ii) 発番号。（要求される前に着側に転送する場合）
- ▼ (iii) SCCP接続要求パラメータ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- (iv)付加サービス及び網ユーティリティに関連したその他の情報  
アドレスメッセージにはアクセス転送パラメータを含むことができる。

▼c.1) アドレスメッセージに含まれなかった情報の転送

アドレスメッセージ (I AM) の中に呼設定ユーザファシリティ情報を含めることの対案として、中継交換機で参照されない情報は、発交換機から着交換機までエンド・エンドに転送される (付録I参照)。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- d) パスの接続 【技別4に準拠する】  
e) 網プロテクション・タイマ 【技別4に準拠する】

2.1.1.2 中継交換機の動作

a) 回線選択

中継交換機はアドレスメッセージを受信すると、呼のルート選択を行うため、着番号と他のルーチング情報 (節2.1.1.1a項) を分析する。中継交換機が通路要求表示に示されているコネクショントイプを用いて呼をルーチングできる場合には空きの中継交換回線を捕捉し、後位交換機へアドレスメッセージを送信する。

▼網内で中継交換機が、通路要求表示パラメータで指定された種類のコネクショントイプのみを用いた呼のルーチングを行えない場合は、その交換機は可能であれば伝達能力情報を含んだユーザサービス情報を検査してもよい。この場合、新規コネクショントイプが適用されるのであれば、通路要求表示パラメータは新規コネクショントイプに修正される。

網間接続呼については、閉門交換機は、ユーザによって要求されたサービスに従って通路要求表示パラメータが設定されていることを保証しなければならない (勧告E.172参照)。さらに明確に言えば、本パラメータ (通路要求表示) は、国際網では変更なく転送される。

エコー制御回路または接続特性の表示の情報が、低機能の信号方式を用いているため前位交換機から受信されない場合、これらの情報表示は、確かな知識がない限り、設定されていないもの (なし) とみなされる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

b) アドレスメッセージのパラメータ

前位交換機から受信した信号情報を、出ルートで使用される機能に基づいて中継交換機が修正を行うことがある。

▼変更される信号情報は、接続特性表示エンド・エンド法表示である。着番号の最上位のディジットは、訂正されるか削除されるかもしれない (2.1.1.1 b)参照)。使用されるエンド・エンド法の変更も、パラメータを変更する (付録I参照)。アクセス転送パラメータやユーザサービス情報など、その他の信号情報はトランスベアレントに転送される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- c) パスの接続 【技別4に準拠する】  
d) アドレスメッセージの分割 【技別4に準拠する】

2.1.1.6 着交換機の動作

a) 着ユーザの選択

アドレスメッセージを受信すると、着交換機はその呼をどのユーザへ接続するべきかを決定するため、着番号を分析する。交換機は、着加入者線の状態を検査し、またその接続が許容されるか否かを検証するために各種の検査を行う。

これらの検査項目には、整合性の一致検査 (たとえば付加サービスに関する検査) を含んでいる。

接続が許可された場合、着交換機はユーザ網インタフェースプロトコルに従って着ユーザを起動する。▼もし接続を構成する回線の内の1つ以上が、導通試験をする場合は、ユーザの起動は導通試験良好表示を受信するまで待たされる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

b) アドレスメッセージの分割 【技別4に準拠する】

2.1.3 発番号 【技別4に準拠する】

2.1.4 アドレス完了メッセージ 【技別4に準拠する】

2.1.4.1 着交換機の動作

i) 着交換機が全部の着番号を受信したと判断すると、直ちに着交換機からアドレス完了メッセージが返送される。

▼導通試験が必要な場合は、導通試験正常性終了表示を受けるまで、着交換機はアドレス完了メッセージの送出を待ち合わせる。(勧告Q.724 [15]7章参照) ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

アドレス完了メッセージは以下の条件において着交換機から返送される。

1) 【技別4に準拠する】

2) 着側の加入者線インタフェースがISDNの場合には、以下の条件が適用される。

a) 完全なアドレスを受信したという表示または、着交換機が完全な着番号を受信したと判断する前に、着ISDN加入者線インタフェース側より状態表示が受信されない場合には、アドレス完了メッセージに含まれる表示は次のように設定される。

—着ユーザの状態=表示なし

(注1) この場合、着ユーザ呼出中の表示は呼経過メッセージ▼または呼出メッセージ((注2)参照)▲により転送される(節2.1.5参照)。

【技別4では▼▲を規定していない】

▼(注2) 呼出メッセージは、第1版(61年度版)サポートのためのオプションである▲

【技別4では▼▲を規定していない】

b) 【技別4に準拠する】

2.1.4.2 中継交換機の動作 【技別4に準拠する】

2.1.4.6 発交換機の動作

a) 【技別4に準拠する】

▼a.1) 着側ユーザ状態表示が「加入者空」に設定されたアドレス完了メッセージ(ACM)の受信において、可能ならば、発ユーザに呼出表示が送信される。I S D Nアクセス表示が非 I S D Nに設定されているアドレス完了メッセージ(ACM)を受信すると発ユーザにこれを通知する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

b) アドレス完了メッセージを受信すると、アドレス完了待ちタイマ(T7)を停止する。

2.1.4.7 着交換機におけるパス接続及び応答待表示の送出 【技別4に準拠する】

2.1.4.8 相互接続がある場合のアドレス完了メッセージの返送 【技別4に準拠する】

2.1.4.9 アクセス配達表示 【規定しない】

2.1.5 呼経過メッセージ(基本呼)

呼設定中に発側加入者に伝えるべき何らかの事象が発生した時は、アドレス完了メッセージの送信後のみ(注1)、呼経過メッセージ

▼または呼出中メッセージまたは経過表示メッセージ((注2)参照)▲をバックワードに返送することで通知する。

【技別4では▼▲を規定していない】

もし、呼経過メッセージがメッセージ転送部の転送における272オクテットの制限を越えるならば、分割メッセージの使用により、これを分割する。節2.1.12を参照のこと。

注1) 付加サービス等においては、アドレス完了メッセージの送信以前に呼経過メッセージがバックワードに転送されることがある。この場合の発交換機での動作は節2.1.5.3に記述される。

▼注2) 呼出中メッセージ、経過表示メッセージは第1版(61年度版)サポートのためのオプションである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.5.1 着交換機で必要な動作

アドレス完了メッセージが送信済みであり、引続き下記状況が発生すると、着交換機から呼経過メッセージ

▼または呼出中メッセージまたは経過表示メッセージ((注)参照)▲が送出される。この場合、

【技別4では▼▲を規定していない】

－着側で呼出が行われたという表示が受信された時。

この時は、呼経過メッセージのイベント表示には、「呼出中」が設定される。

▼または呼出中メッセージのイベント表示には呼出中または呼出中(呼出音あり)または呼出中(呼出音なし)が設定される((注)参照)。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

－経過表示が着ユーザから受信された時。

この時は、呼経過メッセージのイベント表示には、「経過表示」が設定される。

着ユーザから受信した表示に「経過識別子」が含まれている場合は、これを呼経過メッセージ内のアクセス転送パラメータ(公衆網内をそのまま転送される)によって転送する。

呼接続に失敗し、アドレス完了メッセージの返送前にトーンやアナウンスを返送する必要がある場合については、節2.2.4を参照のこと。

▼注) 呼出中メッセージ、経過表示メッセージは第1版(61年度版)サポートのためのオプションである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.5.2 中継交換機で必要な動作

中継交換機では、呼経過メッセージ

▼または呼出中メッセージまたは経過表示メッセージ((注)参照)▲を受信すると、これを前位に転送する。

【技別4では▼▲を規定していない】

▼注) 呼出中メッセージ、経過表示メッセージは第1版(61年度版)サポートのためのオプションである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.5.3 発交換機で必要な動作

発交換機で呼経過メッセージを受信すると、状態変化なしで、適切な表示を発ユーザに送信する。受信した呼経過メッセージがアクセス転送パラメータを持つ場合、その内容は変更されることなく、発ユーザに送信する。

但し、発交換機のアドレス完了メッセージ受信以前にインチャネル情報利用可能を示す呼経過メッセージを受



信した場合には、アドレス完了待ちタイマ（T7）を停止する。

▼受信した呼経過メッセージ（CPG）が、アクセス転送パラメータを含む場合は、その内容は変更されることがなく発ユーザへ送出される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.5.4 インバンド情報送信局での動作 【技別4に準拠する】

2.1.7 応答メッセージ 【技別4に準拠する】

2.1.7.1 着交換機で必要な動作 【技別4に準拠する】

2.1.7.2 中継交換機で必要な動作 【技別4に準拠する】

2.1.7.6 発交換機で必要な動作 【技別4に準拠する】

2.1.7.7 自動ユーザからの応答の返送 【技別4に準拠する】

▼2.1.7.8 課金情報を伴う応答メッセージ（ANM）

着交換機あるいは後位網から受信した応答メッセージ（ANM）は、課金情報を転送する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.8 導通試験

▼アドレスメッセージ（IAM）が、固有の異常表示を持ったデジタル回線に関して導通試験の要求を含んで受信された場合は、以下の動作が取られる。

a) 導通試験要求を無視する。

注) このような要求の受信は、管理上のエラー又は信号エラーの発生のような異常な状態によってのみ起こりうる。

6. 前位側で導通試験が実施された場合は（IAMに導通試験実施の表示を設定する）、デジタル回線のため導通試験が不要な場合でも前位局から導通試験メッセージ（COT）を受信すると、これを後位局に送出する。

7. アドレス完了メッセージ（ACM）は、導通試験メッセージ（COT）受信後返送する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.9 課金 【技別4に準拠する】

▼2.1.9.1 基本呼の課金制御

課金は、通常、課金の制御交換機が網から応答メッセージ（ANM）を受け取ったときに開始される。

運営体は、オプションとして国内呼、かつ／もしくは国際呼に対して、応答メッセージ（ANM）の受信に先だって課金を開始できる。

2.1.9.2 課金メッセージ（CHG）（国内使用）

課金交換機が特定の呼に対して、課金レートを決定する機能を持たないときは、課金情報を適当な呼制御メッセージ、それが無い場合には課金メッセージ（CHG）に含めて呼設定時に受信される。

また、課金レート情報は、呼設定の間に受信され、その後、会話／データフェーズ中に次の課金メッセージ（CHG）が受信されることがある（通信中にもとの課金レートを変更することが必要な場合）。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.1.11 中継網選択（国内使用） 【技別4に準拠する】

2.1.12 簡易分割 【技別4に準拠する】

▼2.1.13 相互接続点での特殊手順

2.1.13.1 相互接続交換機でのパス接続

一般に相互接続点でのパス接続は、呼設定フェーズのできるかぎり早い時点で行なわれるべきである。パス接続の実際の時期は、相互接続信号方式により変わる、例えば、インバンド信号又はアウトバンド信号のいずれかが使用されているか、あるいは、導通試験手順が適用されているか否かで異なる。

他の信号方式との相互接続の場合、パス接続について次の規則を適用する。

No. 7→No. 7 他信号→No. 7	アドレスメッセージ（IAM）送信前にパス接続を行う。
No. 7→他信号	パルス終了信号（ST）の送信の後でパス接続する。

導通試験が出側回線で行なわれ、すぐにパス接続が行なわれたときには、発ユーザの上り下りパスは一時的にループになることがある（パス接続の時点から入側回線のループ切断の時点まで）。

この問題は、勧告Q.724、節7.3で与えられるオプションの1回通知の導通試験手順を使用することで解決できる。

2.1.13.2 着ユーザの呼出

相互接続する状況で、相互接続点の前位のコネクションに含まれる1つ以上の回線で導通試験が必要な場合には、そのような回線の導通試験の正常性が保証されるまで、着ユーザに呼設定を送出しないように適切な手段がとられる必要がある。

相互接続の状況とは次のものがある。

a) No. 7信号方式→非No. 7信号方式

b) 国際No. 7 信号方式→導通試験を実施しない国内No. 7 信号方式

a) の場合、国内番号の最終ディジットは、(相互接続の) 中継交換機またはDD I (ダイレクトダイヤルイン接続) では着交換機で保留されなければならない。また、非DD I の場合の着ユーザの呼出は、着交換機で待たされる。

b) の場合、国内番号の最終ディジットは、国際入接続中継交換機、または、国内網の中継交換機またはDD I の場合着交換機で保留される。または、非DD I の場合、着ユーザに対するコネクションの設定は、着交換機で待たされる。

#### 2.1.14 交換機正常性検査

デジタル交換機に対しては、ITU-T Q.504にある要求条件が満たされる。他の交換機の場合には、運営体は呼毎あるいは統計的手法によって交換機内のパスの正常性の信頼度を保証する。どちらの方法でも、異常な伝送品質でコネクションが設定されるの確率が長期的にみて平均0.00001以下でなければならない。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.2 不完了呼設定 【技別4に準拠する】

##### 2.2.1 切断メッセージを生成し、送信する交換機の動作 【技別4に準拠する】

##### 2.2.2 中継交換機の動作 【技別4に準拠する】

##### 2.2.3 制御交換機の動作

切断メッセージを前位または後位交換機から受信すると、接続パスの解放を開始する。

更に可能であれば、以下のいずれかの処理を行う。

a) 発ユーザに接続不可の表示(インチャネルまたはアウトチャネルの)を返送する(節2.2.4参照)。

c) 切断メッセージを前位または後位交換機に送信することで復旧手順を開始する(節2.2.1参照)。

上記a)の場合、インチャネル情報が理由表示パラメータとともに供給される旨の表示を、呼経過メッセージまたはアドレス完了メッセージ▼または経過表示メッセージ(注)参照▲にて送信する。

理由表示値は、制御交換機により適用されるインチャネルトーンまたはアナウンスと同様な方法で呼設定の失敗の理由を反映すべきである(節2.2.4参照)。

制御交換機で回線再選択の準備ができると、復旧完了メッセージを前位または後位交換機に送信する。

▼注) 経過表示メッセージは第1版(61年度版)サポートのためのオプションである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.2.4 トーン及びアナウンス

トーン及びアナウンスが適用できるかどうかは、通信路の要求表示に基づき決定される。トーン及びアナウンスは次の通信路の要求の時、適用可能である。

—音声

—3.1kHz オーディオ

呼設定に失敗し、制御交換機の後位にある交換機から発ユーザにインバンドトーンまたはアナウンスを返送する必要がない場合、この交換機は切断メッセージを制御交換機に送信する。理由表示値は制御交換機により適用されるインバンドトーンまたはアナウンスの場合と同様な方法で呼設定の失敗の理由を反映すべきである。

呼設定に失敗し、交換機または着ユーザから発ユーザにインチャネルトーンまたはアナウンスを返送しなければならない場合、その交換機または着ユーザはインチャネルトーンまたはアナウンスを送信パスに接続する。インチャネルトーンまたはアナウンスを提供する交換機においてタイムアウトが発生した場合、交換機は前位交換機に理由表示番号31(その他の正常)の切断メッセージを送信する。

前位交換機にアドレス完了メッセージを返送済の時は、インチャネルトーン情報が理由表示パラメータとともに与えられている旨を示す呼経過メッセージ▼または経過表示メッセージ▲を前位交換機に返送する(節2.1.5参照)。理由表示値はインチャネルトーンまたはアナウンスに適用されたと同様な方法で呼失敗の理由を反映すべきである。

前位交換機にアドレス完了メッセージが返送されていない時は、理由表示パラメータとオプション逆方向呼表示パラメータ内に設定された「インチャネル情報」表示を持つアドレス完了メッセージを発交換機に返送する。

▼または適当な理由表示パラメータを含む経過表示メッセージを返送する。▲

理由表示値はインチャネルトーンまたはアナウンスに適用されたと同様な方法で呼設定の失敗の理由を反映すべきである。

特別なトーンまたはアナウンスが、ある交換機にのみ認識されるかまたは理由表示値が規定されていないイベントのために適用されなければならない場合、理由表示パラメータはアドレス完了メッセージにも呼経過メッセージにも含まれない。応答メッセージはこの場合、返送されてはならない。

前位交換機にとって、理由表示パラメータがアドレス完了メッセージまたは呼経過メッセージ▼または経過表示メッセージ▲に含まれることは呼設定の不完了を意味する。相互接続が起き、インチャネルトーンまたはアナウンスが相互接続点以遠の交換機から返送される場合、理由表示パラメータは設定が不完了に終わる呼には含まれない。

ビジートーンまたは空番号トーキは理由表示を設定した切断メッセージの返送で発側交換機から返送される。

▼注) 経過表示メッセージは第1版(61年度版)サポートのためのオプションである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

2.3 正常の呼解放 【技別4に準拠する】

2.3.1 発ユーザにより起動された切断 【技別4に準拠する】

2.3.2 着ユーザ起動の切断 【技別4に準拠する】

2.3.3 網起動の切断 【技別4に準拠する】

2.3.4 アドレスメッセージ内情報の保存と廃棄

呼接続に係わる各交換機は呼設定の間、送信した（発交換機の場合）、または受信した（中継または着交換機の場合）アドレスメッセージ情報を保存する。

保存する情報はアドレスメッセージ中の全てのパラメータを含み、そして、もし、アドレスメッセージが分割されているならば、以降の分割メッセージ中の全てのパラメータを含む。

呼設定の間にパラメータ値が変わるならば、アドレスメッセージ情報の内容は更新される。

アドレスメッセージ情報は、以下の場合にメモリから廃棄される。

- a) 発交換機において、アドレス完了メッセージが受信され、発ユーザが新たな呼設定を必要とする付加サービスを要求していない時。

▼発ユーザが付加サービスに契約している時の情報の廃棄については、J T-Q 7 3 X [17] で規定する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- b) 中継交換機でアドレス完了メッセージが受信された時。

- c) 着交換機でアドレス完了メッセージが送出され、着ユーザが新規の呼設定を必要とする付加サービスに加入していない時。

▼着ユーザが付加サービスに契約している時の情報の廃棄についてはJ T-Q 7 3 X [17] で規定する。

▲

【技別4では▼▲を規定していない】

また、呼が既に切断され、かつ自動再試行が行われない場合も、情報は廃棄される。

2.3.5 先行切断情報転送【規定しない】

2.4 中断／再開

2.4.1 中断

中断メッセージは呼を解放しないで通信の一時的な中断を指示する。このメッセージは通話中／データ転送中のみ受け付けられる。

中断メッセージは、相互接続ノードからの終話表示またはアナログ着ユーザからのオンフック状態に応じて網が生成する。

▼2.4.1.1 発ユーザ起動の中断

中断メッセージ（SUS）は、発ユーザからの中断要求に応じて生成される。

- a) 発交換機の動作

発ユーザから中断要求を受信すると、発交換機は次位交換機に中断メッセージ（SUS）を送出する。

- b) 中継交換機の動作

前位交換機より中断メッセージを受信すると、中継交換機は、直ちに次位交換機に中断メッセージ（SUS）を送出する。

- c) 着交換機の動作

前位交換機より中断メッセージ（SUS）を受信すると、着交換機は、相手ユーザが中断が要求されたことを着ユーザに通知する。

- d) 中断制御交換機の動作

ユーザからの中断要求又は中断メッセージ（SUS）を受信すると、制御交換機は、再開要求又は再開メッセージ（RES）をタイマT2以内に受信することを保証するため、タイマT2を開始する。タイマT2が満了した場合、節2.4.3章の手順が適用される。

2.4.1.2 着ユーザ起動の中断

発交換機と着交換機での機能を入れ替えるだけで、節2.4.1.1の手順が適用される。

2.4.1.3 網起動の中断

中断メッセージ（SUS）は、相互接続ノードが終話表示またはアナログ着ユーザからの切断要求（on hook condition）の受信に応じて網により生成される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- a) 着交換機または相互接続交換機の動作 【技別4に準拠する】

- b) 中継交換機の動作 【技別4に準拠する】

- c) 制御交換機の動作 【技別4に準拠する】

2.4.2 再開 【技別4に準拠する】

2.4.3 ▼タイマT2またはタイマT6のタイムアウト▲

【技別4では▼▲の規定が異なる】

▼再接続要求または、再開メッセージが、規定時間内T 2またはT 6以内に受信されない場合、タイマを開始した交換機は、節 2.3.3の切断手順を起動する。▲

【技別4では▼▲の規定が異なる】

## ▼2.7 エコー制御手順

### 2.7.1 概説

エコー制御手順は、呼毎に、エコー制御回路の挿入の要求及び能力について交換機間に情報を転送するのに使用される。

本手順は、呼がエコー制御が必要なコネクシオンにルーチングされるべき時に起動される。本手順は、発交換機又は中継交換機で起動される。

#### 2.7.2.1 順方向

##### 2.7.2.1.1 発交換機での動作

発交換機が、エコー制御が出回線に対して必要であることを決定するのに十分な情報を持っている場合、以下の動作をとる。

- － 出エコー制御回路を可能とする。かつ、
- － アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドのエコー制御回路表示が設定される。

##### 2.7.2.1.2 中継交換機での動作

中継交換機が、出回線に対しエコー制御が必要であることを決定するのに十分な情報を持っている場合、以下に示す動作のいずれかをとることができる。

a) アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドが、エコー制御回路を既に挿入していることを示している場合、

- － アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドは変更しない。
- － 入エコー制御回路が留保される。
- － どの出エコー制御回路も機能させない

b) アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドが、エコー制御回路を既に挿入していることを示していない場合、

- － 出エコー制御回路を可能とする。
- － アドレス信号 (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドのエコー制御回路表示が設定される。

中継交換機が、出回線に対しエコー制御が必要とされないことを決定するのに十分な情報を持っている場合、以下に示す動作のいずれかをとることができる。

a) アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドが、エコー制御回路を既に挿入していることを示している場合、

- － アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドは変更しない。
- － 入エコー制御回路が留保される。

b) アドレスメッセージ (I AM) の接続特性表示パラメータフィールドが、エコー制御回路を既に挿入していることを示していない場合、

- － 付加的な動作はとられない

##### 2.7.2.1.3 着交換機での動作

節 2.7.2.2.1を参照のこと。

#### 2.7.2.2 逆方向

##### 2.7.2.2.1 着交換機での動作

a) 接続特性パラメータフィールドで「出エコー制御回路挿入済」の表示を含んだアドレスメッセージ (I AM) の受信により、以下の動作がとられる。

- － 入エコー制御回路を可能とする。
- － 最初の逆方向メッセージ (即ち、アドレス完了メッセージ (ACM)、応答メッセージ (ANM)) の逆方向呼表示パラメータフィールドのエコー制御回路表示が設定される。

着交換機が、入エコー制御回路を含むことが不可能な場合、最初の逆方向メッセージ内の逆方向呼表示パラメータの接続特性フィールドのエコー制御回路表示は設定されずに前位交換機に転送される。

## 2.7.2.2.2 中継交換機での動作

エコー制御表示を含んだアドレスメッセージ (IAM) に応答した最初の逆方向メッセージ (即ち、アドレス完了メッセージ (ACM)、応答メッセージ (ANM)) の受信により、以下に示す動作のいずれかをとることができる。

逆方向呼表示パラメータフィールドが、入エコー制御回路がまだ挿入されていないことを示している場合、

- 留保されている入エコー制御回路を挿入する。かつ、
- 逆方向呼表示パラメータのエコー制御回路表示が設定される。

逆方向呼表示パラメータフィールドが、入エコー制御回路が既に挿入されていることを示している場合、

- 留保されている入エコー制御回路を解放する。
- 逆方向メッセージの逆方向呼表示パラメータフィールドは変更しない。

## 2.7.2.2.3 発交換機での動作

— 付加的な動作はとられない。 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

## 2.8 網機能

### 2.8.1 自動再試行 【技別4に準拠する】

### 2.8.2 回線▼および回線群▲の閉塞と閉塞解除

回線の閉塞 (閉塞解除) メッセージ▼および回線群閉塞 (回線群閉塞解除) メッセージ▲は、通話路装置または保守システムが、回線の障害時にまたは試験実施時に、相手局にて回線にトラヒックを加えないようにする (トラヒックを戻す) ために設けられている。

ISDNユーザ部で制御される回線は両方向運用の機能を有するため、閉塞メッセージ▼または回線群閉塞メッセージ▲は、両方の交換機から送出することができる。1つの閉塞メッセージ▲または回線群閉塞メッセージ▲を受信すると、閉塞解除メッセージ▼または適当な回線群閉塞解除メッセージ▲をそれぞれ受信するまで、当該回線に対して試験呼以外の呼を疎通しない。しかし試験呼については拒否せずに処理する。ただし、伝送路故障時の閉塞状態においては、試験呼も拒否される。また、閉塞メッセージ▼もしくは回線群閉塞メッセージ▲を送出した交換機からの出接試験呼も処理する。非試験アドレスメッセージは異常状態とする [節2.8.2.3xivを参照]。閉塞、閉塞解除▼、また回線群閉塞、回線群閉塞解除▲の各メッセージに対しては、それぞれ閉塞確認、閉塞解除確認▼、また適当な回線群閉塞確認、回線群閉塞解除確認▲の各メッセージを用いて常に確認手順が取られる。これらの確認メッセージは、閉塞または閉塞解除の適切な動作がとられるまでは送出されない。切断メッセージを受信しても閉塞メッセージを解除し、障害の可能性のある回線を運用に供するようにすべきではない。閉塞回線▼または回線群▲は、一方の交換機では閉塞解除確認メッセージ▼または適当な回線群閉塞解除メッセージ▲を送出した時点で、他方の交換機では閉塞解除確認メッセージ▼または適当な回線群閉塞解除メッセージ▲を受信した時点で運用に戻される。

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.8.2.1 閉塞メッセージ受信時のその他の動作 【技別4に準拠する】

#### 2.8.2.2 回線群閉塞及び閉塞解除メッセージ

▼ 以下に示す回線群閉塞メッセージ (CGB) (回線群閉塞解除メッセージ (CGU)) 及び対応する確認メッセージが提供される。

- 保守オリエンテッド回線群閉塞 (閉塞解除) メッセージ (CGB (CGU))
- ハードウェアオリエンテッド回線群閉塞 (閉塞解除) メッセージ (CGB (CGU))

閉塞 (閉塞解除) されるべき回線は、状態フィールドに表示される。

1つの回線群閉塞 (閉塞解除) メッセージ (CGB (CGU)) で閉塞 (解除) されるべき回線の最大数は、32に制限される。

受信された回線群閉塞 (閉塞解除) 確認メッセージ (CGBA (CGUA)) が適当な確認とみなされるためには先に送信した回線群閉塞 (閉塞解除) メッセージ (CGB (CGU)) の回線番号、回線群管理メッセージ種別表示、及び範囲フィールド (NTT-Q763-1参照) のパラメータ値が一致しなければならない。

回線が、回線交換ベアラとしてISDNユーザ部により使用されることができるとき、その回線は、ISDNユーザ部により制御される。同期のため使用されるデジタルパスのタイムスロット (例、2048kbit/sデジタルパスのタイムスロット0) 又は信号チャネルとして使用されるデジタルパスのタイムスロットは、その制御がISDNユーザ部により割り当てられる回線ではない。

回線群閉塞、閉塞解除 (閉塞確認、解除確認) メッセージ (CGB、CGU (CGBA、CGUA)) の範囲フィールドでカバーされる回線番号値のいくつかは、ある回線に割り当てられなくてよい。その場合、対応する状態フィールドの状態ビットは「0」に設定される。これは、「1」に設定されている状態ビットに関連する回線番号値に

対しては許されない。これらの回線番号値は、ISDNユーザ部によって制御されている回線に常に割り当てられなければならない。特に、信号のラベルに示される回線番号値は1つの回線に割り当てられなければならない。

保守オリエンテッド回線群閉塞（閉塞解除）手順は、閉塞（閉塞解除）手順と同じ閉塞状態を設定（解除）する。これは、保守オリエンテッド回線群閉塞メッセージ（CGB）によって設定される又は回線群リセット確認メッセージ（GRA）の状態フィールドに保守目的のため閉塞されたとして表示される閉塞状態が、閉塞解除メッセージ（UBL）によって解除されることができるとを意味する。同様に、閉塞メッセージ（BLO）によって設定される閉塞状態は、保守オリエンテッド回線群閉塞解除メッセージ（CGU）によって解除可能である。

保守オリエンテッド回線群閉塞メッセージ（CGB）、回線群リセット確認メッセージ（GRA）の状態ビット又は閉塞信号によって設定される保守閉塞状態は、ハードウェアオリエンテッド回線群閉塞解除メッセージ（CGU）によって解放されることはできない。

閉塞（閉塞解除）されるべき回線の範囲は、範囲フィールドに表示される。これらの閉塞（閉塞解除）されるべき範囲の回線群は、状態フィールドに表示される。同様の規定が確認にも適用される。

保守目的で閉塞された回線群に対して、節 2.8.2.1 で記述されるのと同様の状態が適用され、同様の動作がとられなければならない。

処理中の呼又は呼設定の呼によって捕捉され、ハードウェア故障により閉塞された回線に対しては、以下の動作がとられる。

- 全ての接続される回線は、適切なメッセージによって解放されなければならない。
- 当該回線は、他の交換機からの切断メッセージなしで「空、ハードウェア閉塞」状態に設定される。

回線がある呼に捕捉されていても、対応する回線群閉塞（閉塞解除）確認メッセージ（CGBA（CGUA））の転送を遅らせることはない。

ハードウェア閉塞状態は、ハードウェアオリエンテッド回線群閉塞解除メッセージ（CGU）によってのみ解除される。

回線群閉塞状態の全ての場合に、保守システムは、回線の両端で通知されるべきである。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.8.2.3 閉塞▼及び回線群閉塞▲の異常手順

【技別4では▼▲を規定していない】

回線群閉塞／閉塞解除手順にて発生する異常状態に対処するため、次の手順を設ける。

- ▼i) 回線群閉塞メッセージ（CGB）が、相手側閉塞回線に対して受信された場合、それらの回線群に対する閉塞確認表示は、応答として送信される回線群閉塞確認メッセージ（CGBA）の状態フィールドで与えられる。
- ii) 回線群閉塞解除メッセージ（CGU）が、相手側閉塞状態にない回線に対して受信された場合、それらの回線に対する閉塞解除確認表示は、応答として送信される回線群閉塞解除確認メッセージ（CGUA）の状態フィールドで与えられる。
- iii) 回線群閉塞（閉塞解除）メッセージ（CGB（CGU））を受信した交換機は、回線に対する閉塞（閉塞解除）表示が受信した回線群閉塞（閉塞解除）メッセージ（CGB（CGU））の状態フィールドで与えられていても、それぞれの回線番号に対し、適切な閉塞（閉塞解除）確認表示を与えることが不可能である場合（例、これらの回線番号が、受信交換機である回線に割り当てられていない場合）、これらの回線番号に対する閉塞（閉塞解除）確認表示は、応答として送信される回線群閉塞（閉塞解除）確認メッセージ（CGBA（CGUA））の状態フィールドに与えられない。
- iv) 回線群閉塞メッセージ（CGB）への応答としての回線群閉塞確認メッセージ（CGBA）が、状態フィールドの中に、先に送信された回線群閉塞メッセージ（CGB）により閉塞されるべき回線に対して非閉塞確認表示を含んで受信された場合、回線群閉塞メッセージ（CGB）が当該回線群に対して繰り返される（節 2.9.4 参照）。同様の規定が閉塞解除手順にも適用される。
- v) 回線群閉塞メッセージ（CGB）への応答としての回線群閉塞確認メッセージ（CGBA）が、状態フィールドの中に、先に送信された回線群閉塞メッセージ（CGB）により閉塞されるべきでなく、かつ、自局閉塞もされていない回線に対して閉塞確認表示を含んで受信された場合、回線群閉塞解除メッセージ（CGU）が、当該回線に対して送信される。
- vi) 回線群閉塞解除メッセージ（CGU）への応答としての回線群閉塞解除確認メッセージ（CGUA）が、状態

フィールドの中に、先に送信された回線群閉塞解除メッセージ（CGU）により閉塞解除されるべきでなく、かつ、自局閉塞のままにしておかなければならない回線に対して閉塞解除確認表示を含んで受信された場合、回線群閉塞メッセージ（CGB）が、当該回線に対して送信される。

vii) どの回線群閉塞メッセージ（CGB）に対しても期待される確認でない回線群閉塞確認メッセージ（CGBA）が受信された場合、

- － 自局閉塞状態にある全ての回線に関しては、受信された回線群閉塞確認メッセージ（CGBA）は廃棄される。
- － 一部又は全てが自局閉塞状態にない回線群に関しては、関連する回線に対して回線群閉塞解除メッセージ（CGU）が送信される。

viii) どの回線群閉塞解除メッセージ（CGU）に対しても期待される確認でない回線群閉塞解除確認メッセージ（CGUA）が受信された場合、

- － どの回線も自局閉塞状態にない場合は、回線群閉塞解除確認メッセージ（CGUA）は廃棄される。
- － 一部又は全てが自局閉塞状態にある回線群に関しては、関連する回線群に対して回線群閉塞メッセージ（CGB）が送信される。

ix) 回線群閉塞（閉塞解除）メッセージ（CGB（CGU））又は回線群閉塞（閉塞解除）確認メッセージ（CGBA（CGUA））が32回線以上の状態変更を照会する場合、受信交換機は本メッセージを廃棄する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

x) 【技別4に準拠する】

xi) 【技別4に準拠する】

xii) 【技別4に準拠する】

xiii) 【技別4に準拠する】

xiv) 【技別4に準拠する】

xv) 【規定しない】

### 2.8.3 回線群状態要求

2.8.3.1 概要 【技別4に準拠する】

#### 2.8.3.2 回線状態の解釈

回線状態要求手順のために状態が定義されており、これらは下記3つの主要な範疇に分類される。

1. 未実装及び過渡状態
2. 呼処理状態
3. 保守閉塞状態

未実装及び過渡状態の2状態は他の状態とオーバーラップすることはない。

呼処理状態には、下記が含まれる。

1. 空
2. 入回線として使用中
3. 出回線として使用中

保守閉塞状態には、下記が含まれる。

1. 非閉塞
2. 相手局閉塞
3. 自局閉塞
4. 両局閉塞

▼回線問合せ手順のために、大別して以下に示す4つに分類される状態がある。

1. 未実装及び過渡状態
2. 呼処理状態
3. 保守閉塞状態
4. ハードウェア閉塞状態

「未実装」と「過渡」の2つの状態は、他の状態と重複しない。

呼処理状態は、以下の状態を含む。

1. 空
2. 入側回線として使用中
3. 出側回線として使用中

保守閉塞状態は、以下の状態を含む。

1. 非閉塞
2. 相手局閉塞
3. 自局閉塞
4. 両局閉塞

ハードウェア閉塞状態は、以下の状態を含む。

1. 非閉塞
2. 相手局閉塞
3. 自局閉塞
4. 両局閉塞 ▲

【技別4では▼▲を規定していない】

ISDNユーザ部にとって使用できない回線は、「未実装」である。この回線では呼処理または保守作業を実施することはできない。これは独立な状態であって他の状態とオーバーラップすることはない。

「過渡状態」は、呼処理または保守動作における過渡的状态を示している。

呼処理では、以下の場合、過渡状態となる。

- a) アドレスメッセージを送出した後で、最初の逆方向メッセージを待っている時▼（中断呼を、回線群状態要求の観点から過渡状態とすべきか否かは、更に考察の必要がある。）▲
- b) 切断メッセージを送出した後で、復旧完了メッセージを待っている時、

過渡的保守状態は、交換機が▼（群）▲閉塞／閉塞解除メッセージを送出した後で、相手交換機から適切な▼（群）▲閉塞／閉塞解除確認メッセージを待っている時をいう。

また回線（群）リセットメッセージが確認される迄の間は、その回線状態は過渡状態にある。

「空」状態は、実装されており、話中ではない回線の呼処理状態をいう。「入回線として使用中」または「出回線として使用中」は、安定した呼処理状態である。

▼ハードウェア又は▲保守の「相手局閉塞」状態とは、相手交換機が閉塞を起動した旨、交換機がマークした状態をいう。保守閉塞状態は「空」、「入回線として使用中」または「出回線として使用中」の各状態と共存することができる。▼ハードウェア閉塞状態は、ハードウェア閉塞が要求された段階で直ちに呼を切断する為、「空」呼処理状態とのみ共存することができる。▲

▼ハードウェアまたは▲保守の「自局閉塞」状態は、自局交換機が相手交換機に対して閉塞を起動し、適切な確認を受信した旨マークした状態をいう。保守閉塞状態は「空」、「入回線として使用中」または「出回線として使用中」の各状態と共存することができる。▼ハードウェア閉塞状態は、ハードウェア閉塞が要求された段階で直ちに呼を切断する為、「空」呼処理状態とのみ共存することができる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

回線群状態要求手順を開始するには、送出側交換機は、状態要求対象回線をルーチングラベルおよび範囲フィールドに表示した回線群状態要求メッセージを送出する。

受信交換機は、回線群状態要求メッセージを処理し、対象の回線状態を回線状態表示に設定した回線群状態応答メッセージを返送する。

- 2.8.3.2A 回線状態の解釈 【規定しない】
- 2.8.3.3A 検査手順 【技別4に準拠する】
- 2.8.3.3A.1 呼処理状態に誤りがある場合の措置 【技別4に準拠する】
- 2.8.3.3A.2 保守状態において誤りがあった場合の措置 【技別4に準拠する】
- 2.9 異常状態
- 2.9.1 二重捕捉 【技別4に準拠する】
- 2.9.1.1 制御不可の時間 【技別4に準拠する】
- 2.9.1.2 二重捕捉の検出 【技別4に準拠する】
- 2.9.1.3 防止動作

二重捕捉の発生を小さくするためにいくつかの回線選択法が考えられる。次に2つの方法を示す。

それぞれの方法の適用領域および2つの方法がうまく相互接続できるかどうかについては今後検討が必要である。

▼回線選択の他の方法もこれら2つの方法のいずれかが他端で適用されたときに同程度の二重捕捉の防止効果があるならば適用できる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

－方法1

両方向運用回線群のそれぞれの交換機で回線の選択順位を逆にする。



## －方法2

両方向運用回線群を制御している交換機は、制御権を有する回線群に対して優先権を持つ（節 2.9.1.4 参照）。この回線群については最も早く解放された回線が選択される（ファーストイン、ファーストアウト）。また、両方向運用回線群を制御している交換機は制御権を有していない回線群に対して非優先権を持つ。この非優先回線群については、優先権を持つすべての回線が使用中なら最も遅く解放された非優先回線が選択される（ラストイン、ファーストアウト）。

呼制御の点から両方向回線群はサブグループに分割される。

▼No.7 信号方式が長い伝搬時間を有する信号リンクを使用する場合には防止動作を取る必要がある。▲

なお、当社網の各交換機では、方法2を適用する。

【技別4では▼▲を規定していない】

### 2.9.1.4 二重捕捉の検出時に取るべき動作

各交換機は、両方向運用の回線群の半分について制御権を有することになる。

二重捕捉を検出すると、回線の制御権を有する交換機によって処理される呼は続行して処理され、受信したアドレスメッセージは無視される。このアドレスメッセージが分割メッセージにより分割されていた場合、その第2セグメント（分割メッセージ）も無視される。

これらの条件下では制御交換機によって処理される呼は完了される。制御権を有しない交換機によって処理される呼は中止され、回線は解放される。切断メッセージは送出されない。非制御交換機は同一または代替ルートに対して自動再試行を行なう。

制御交換機は以下のように決定される。

a) 各交換機は両方向運用回線群の半分の回線について制御権を有する。

両方向運用の2重捕捉を解決するため、大きい信号局コードを有する交換機は偶数番号を持つ全回線（回線番号）に対して制御権を有し、もう一方の交換機は奇数の回線に対して制御権を有する。

▼制御権の指定は保守システム制御のためにも使用できる。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 2.9.2 交換機間デジタル回線の伝送警告処理 【技別4に準拠する】

### 2.9.3 回線および回線群のリセット 【技別4に準拠する】

#### 2.9.3.1 回線リセットメッセージ 【技別4に準拠する】

#### 2.9.3.2 回線群リセットメッセージ

多数の回線または全回線がメモリ破壊により影響を受けた場合、新しい呼に対してそれらを使用可能にするため回線群リセットメッセージを使用する必要がある。

回線群リセットメッセージでリセットされる回線の最大数は、12に制限される。

回線群リセットメッセージを受信するとメモリ破壊の影響を受けない交換機は次の動作を行う。

なお、回線群リセットメッセージを送信する場合は、回線番号の若番からシーケンシャルに制御を行う。（回線群リセット確認メッセージ受信後に次の回線群リセットメッセージを送信する）

a) 【技別4に準拠する】

b) ▼以前にハードウェア障害に基づいた回線群閉塞メッセージ（CGB）を送信している場合は、適切な回線群閉塞メッセージ（CGB）を送信する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

c) 使用可能な回線の状態表示ビット▼又は、ハードウェア障害のために閉塞されている回線の状態表示ビット▲を“0”に設定し、また保守の目的で閉塞された全回線の状態表示ビットを“1”に設定された回線群リセット確認メッセージで応答する。

【技別4では▼▲を規定していない】

d) 以前に当該回線群の中の1つ以上の回線に対して閉塞メッセージ▼または回線群閉塞メッセージ▲を受信している場合には、閉塞状態を解除し当該回線を使用可にする。

【技別4では▼▲を規定していない】

e) 【技別4に準拠する】

f) 【技別4に準拠する】

影響を受けた交換機は受信した▼回線群閉塞メッセージ、▲回線群リセット確認メッセージにもとづいてメモリ内容を再構成する。▼交換機は受信した回線群閉塞メッセージに対しては正常時と同様な手順で応答する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

回線群リセットメッセージに対する確認信号が10秒（T22）以前に受信されない場合には、回線群リセットメッセージは再送される必要がある。確認メッセージが回線群リセットメッセージの最初の送出時から1分（T23）以内に受信されない場合には、保守システムに通報する必要がある。しかし、回線群リセットメッセージの送出は保守介入があるまで1分（T23）間隔で続行する必要がある。

正しい確認メッセージは、範囲情報とルーチングラベル中に示される回線番号について、回線群リセットメッセージに一致している必要がある。回線群リセットメッセージと回線群リセット確認メッセージの両方のルーチングラベル中の回線番号は、ISDNユーザ部が制御している回線に属している必要がある。

回線群リセットメッセージと回線群リセット確認メッセージの範囲で示される回線番号は、ISDNユーザ部が制御している回線に属さない場合がある。

### 2.9.3.3 異常回線群リセットメッセージ手順 【技別4に準拠する】

### 2.9.4 閉塞／閉塞解除手順の誤り

交換機は閉塞（閉塞解除）メッセージ▼または回線群閉塞（回線群閉塞解除）メッセージ▲に対する応答として適切な確認メッセージを4～15秒（T12、T14）以内に受信できなかった場合には閉塞（閉塞解除）メッセージ▼または回線群閉塞（回線群閉塞解除）メッセージ▲を再送する（節2.8.2参照）。

最初の閉塞（閉塞解除）メッセージ▼または回線群閉塞（回線群閉塞解除）メッセージ▲送出後1分（T13、T15）以内に確認が受信されない場合には保守警報を出す必要がある。閉塞（閉塞解除）メッセージ▼または回線群閉塞（回線群閉塞解除）メッセージ▲は保守介入および当該通信回線が運用から外される（または、運用に戻る）まで1分間隔で送出し続けなければならない。

【技別4では▼▲を規定していない】

### 2.9.5 不合理信号情報の受信 【技別4に準拠する】

#### 2.9.5.1 予期しないメッセージの処理 【技別4に準拠する】

#### 2.9.5.2 認識不可信号情報メッセージとパラメータ受信時の一般的要求

通常、交換機は、隣接交換機が適用している信号方式もしくはそのバージョンを認識している。しかし、交換機が認識不可情報、即ち識別不可能なメッセージ、パラメータ種別やパラメータ値を受信する場合がある。これは通常、網内の他交換機で使用される信号方式の拡充に起因されることが典型的である。認識不可とインプリメントしていない機能の区別はしない。

認識不可情報受信時の手順では、以下を用いる。

一切断メッセージ

一復旧完了メッセージ

手順は以下の仮定に基づく

▼i) 完全に発ローカル交換機と着ローカル交換機間で提供されるファシリティに対するメッセージは、Q.764-1、付録Iで規定されているエンド-エンド法の一つを利用する。すなわち、そのようなファシリティは、中継交換機によりサポートされていない▲

【技別4では▼▲を規定していない】

iv) 【技別4に準拠する】

v) 【技別4に準拠する】

vi) 【技別4に準拠する】

これらのメッセージの受信でとられる動作は呼の状態及び影響を受けるサービスに起因する。

▼認識付加情報を示す理由表示を含んだ復旧完了メッセージの受信に対する動作は通常の手順として行ってよい。

▲

【技別4では▼▲を規定していない】

### 2.9.5.3 認識不可メッセージ又はパラメータの処理

#### 2.9.5.3.1 認識不可メッセージ 【技別4に準拠する】

#### 2.9.5.3.2 認識不可パラメータ

交換機が、認識不可パラメータを受信し、検出した場合、その呼が継続できるか否かによって採られる動作が違ってくる。

その呼が処理可能でなければ、切断メッセージが送信される。

呼が継続可能であれば、その呼は処理され、メッセージは前位（後位）交換機に送信される。認識不可パラメータ自身は、中継交換機では中継され、エンド交換機及び閉門交換機では廃棄される。

▼認識不可パラメータを含む切断メッセージ（REL）が受信された場合、詳細フィールドにパラメータ名コードを持つ理由表示「未定義又は未提供パラメーター転送」を含む復旧完了メッセージ（RLC）が返送される。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

#### 2.9.5.3.3 認識不可パラメータ値

認識可能なパラメータであるが、その内容を認識できないパラメータを受信し検出した交換機は、以下に規定される動作を行う。

a) 【技別4に準拠する】

b) 認識不可オプションパラメータ値

交換機が、認識不可オプションパラメータ値を受信し、検出した場合、その呼が継続可能かどうかによって採られる動作は違ってくる。

その呼が継続可能であれば、認識不可オプションパラメータ値は、保証されない。

その呼が継続不可能な場合は、▼詳細情報フィールドにそのパラメータ名コードを持つ理由表示「未定義又は未提供パラメーター廃棄」を含む▲切断メッセージが返送される。

認識不可オプションパラメータ値を含んだ切断メッセージを受信した場合は、▼詳細情報フィールドにそのパラメータ名コードを持つ理由表示「未定義又は未提供パラメーター転送」を含む▲復旧完了メッセージが返送される。

【技別4では▼▲を規定していない】

表X／NTT-Q764-1 認識される最低限の信号

アドレス完了
応答
閉塞
閉塞確認
呼経過
▼回線群閉塞
回線群閉塞確認▲
回線群リセット
回線群リセット確認
▼回線群閉塞解除
回線群閉塞解除確認▲
アドレス
切断
復旧完了
回線リセット
再開
分割
中断
閉塞解除
閉塞解除確認
▼呼出中
経過表示▲

【技別4では▼▲を規定していない】

- 2.9.5.4 認識不可情報送信を通知する応答の処理手順 【規定しない】
- 2.9.5.5 不合理的情報処理に対する手順 【規定しない】
- 2.9.6 復旧完了メッセージの受信不可—タイマT1及びT5 【技別4に準拠する】
- 2.9.8 他の失敗状態
- 2.9.8.1 切断メッセージに対して切断不可の場合
- ▼交換機が、切断メッセージ（REL）に回答して回線を空状態に戻せないときには、回線をサービスからはずし、保守システムに警報を送出し、閉塞メッセージ（BLO）を送出する。
- 閉塞確認メッセージ（BLA）を受信すると、復旧完了メッセージ（RLC）が、切断メッセージ（REL）の確認として送出される。▲
- 【技別4では▼▲を規定していない】
- 2.9.8.2 呼失敗【技別4に準拠する】
- 2.9.8.3 異常切断条件【技別4に準拠する】
- 節2.3で規定されている正常切断の条件が満たされない場合でも次に示す条件で呼は切断される。
- a) ▼国際出接続交換機または国内の▲制御交換機
- 【技別4では▼▲を規定していない】
- 交換機は次の動作を行う。
- 最終のアドレスメッセージ送出後20～30秒以内にアドレス及びルーチング情報の正常解放の条件に合わない場合には全装置とコネクションを解放する。
- c) 中継交換機
- ▼交換機は、以下に示す場合にはコネクションと全装置を解放し、切断メッセージを返送する。
- アドレスメッセージ受信後10～15秒以内に（導通試験実施の場合）導通試験メッセージを受信しないとき。または、
- 最終のアドレスメッセージ送出後20～30秒後以内に、節2.3に規定されているアドレスメッセージ情報の正常開放の条件に合わないとき。▲
- 【技別4では▼▲を規定していない】
- 切断メッセージの手順は、節2.2.2に詳述されている。
- ▼2.9.8.4 エンド・エンド転送においてメッセージが紛失した場合には、適用な動作が使用されているエンド・エンド方式のタイプに従ってとられる。
- 2.9.8.5 SCCPが関連する呼については、（呼設定に関連する）呼監視タイマの満了の場合は、SCCPに誤り状態が通知される。▲
- 【技別4では▼▲を規定していない】
- 2.11 自動輻輳制御 【規定しない】
- 2.15 信号長オーバーメッセージ 【技別4に準拠する】
- ▼2.16 ユーザ・ユーザ情報の転送
- 2.16.1 ユーザ・ユーザ情報の転送に対する要求条件
- Q.730を参照。▲
- 【技別4では▼▲を規定していない】

2.20 発測地位置手順 【規定しない】

付属資料A (NTT-Q764-1)

ISDNユーザ部のタイマ

付表A/NTT-Q764-1に、ISDNユーザ部のタイマ値の一覧を示す。

▼付表A/NTT-Q764-1 ISDNユーザ部のタイマ (1/2)

記号	タイムアウト値(注)	起動条件	正常停止条件	タイムアウト時	関連章
T1	4～10 秒	切断メッセージ送 出時	復旧完了メッセー ジ受信	切断メッセージの再送、 及びタイマT1起動	2.9.6 2.2 2.3
T2	3分	制御交換機が中断 メッセージ(ユーザ 起動)を受信時	制御交換機が再開メ ッセージ(ユーザ起 動)を受信	切断手順の起動	JT-Q733. 4 [26]
T5	1分	最初の切断メッセ ージを送出時	復旧完了メッセー ジを受信	回線リセットメッセー ジの送付、回線 保守システムへの通知、回線 をサービス状態からはず し、タイマT1を停止、タイ マT17を起動。	2.9.6
T6	2～4 秒	制御交換機が中断 メッセージ(網起 動)を受信	再開メッセージ(網起 動)又は切断メッセー ジを受信	切断手順の起動	2.4.1 2.4.2 2.4.3
T7	20～30 秒	最後のアドレスメ ッセージの送付時	通常のアドレス及びル ーティング情報を廃棄可能 な状態となった時	関連全装置、コネクショ ンの解放(切断メッセ ージ送付)	2.1.1 2.1.2 2.1.4 2.9.8.3
T12	4～5 秒	閉塞メッセージの 送付時	閉塞確認メッセー ジを受信時	閉塞メッセージの再送、 タイマT12起動。	2.9.4
T13	1分	閉塞メッセージの 最初の送付時	閉塞確認メッセー ジを受信時	閉塞メッセー ジの再送。保 守システムへの通報。タイ マT12停止、タイマT13 起動。	2.9.4
T14	4～15 秒	閉塞解除メッセー ジの送付時	閉塞解除確認メッセ ージを受信時	閉塞解除メッセー ジの再送。T14起動。	2.9.4
T15	1分	閉塞解除メッセー ジの最初の送付時	閉塞解除確認メッセ ージを受信時	閉塞解除メッセー ジの再送、保 守システムへの通報、T14 停止、T15起動。	2.9.4
T16	4～15 秒	タイマT5のタイム アウト時以外の回線リセ ットメッセージの送付時	確認受信時(復旧完 了メッセージ受信時)	回線リセットメッセー ジの再送、T16起動。	2.9.3.1
T17	1分	回線リセットメ ッセージの最初の送 付時	確認受信時	保守システムへの通報、回 線リセットメッセー ジの再送、T16 停止、T17起動。	2.9.3.1

付表A/NTT-Q764-1 ISDNユーザ部のタイマ (2/2)

記号	タイムアウト値(注)	起動条件	正常停止条件	タイムアウト時	関連章
T18	4-15秒	回線群閉塞信号(CGB)送信	回線群閉塞確認信号(CGBA)受信	回線群閉塞信号(CGB)再送及びT18開始	2.9.4
T19	1分	最初の回線群閉塞信号(CGB)の送信	回線群閉塞確認信号(CGBA)受信	回線群閉塞信号(CGB)再送、保守システム警報、T19開始、T18停止	2.9.4
T20	4-15秒	回線群閉塞解除信号(CGU)送信	回線群閉塞解除確認信号(CGUA)の受信	回線群閉塞解除信号(CGU)再送及びT20開始	2.9.4
T21	1分	最初の回線群閉塞解除信号(CGU)の送信	回線群閉塞解除確認信号(CGUA)の受信	回線群閉塞解除信号(CGU)再送及び保守システム警報、T21開始、T20停止	2.9.4
T22	4-15秒	回線群リセット信号(GRS)の送信	その確認の受信	回線群リセット信号(GRS)再送及びT22開始	2.9.3.2
T23	1分	最初の回線群リセット信号(GRS)の送信	その確認の受信	保守システム警報、T23開始、回線群リセット信号(GRS)再送及びT22停止	2.9.3.2
T31	6分以上	SCCPコネクションレスに基づくISDNユーザ部信号コネクションの解放	満了		I7.2 I7.3 I7.4 I7.5
T32	3-5秒	エンド・エンド信号受信	満了		I7.5
T34	2-4秒	分割メッセージの表示がIAM, ACM, CPG, ANMメッセージに含まれて受信された時	分割メッセージの受信	呼処理を続ける。	2.1.12



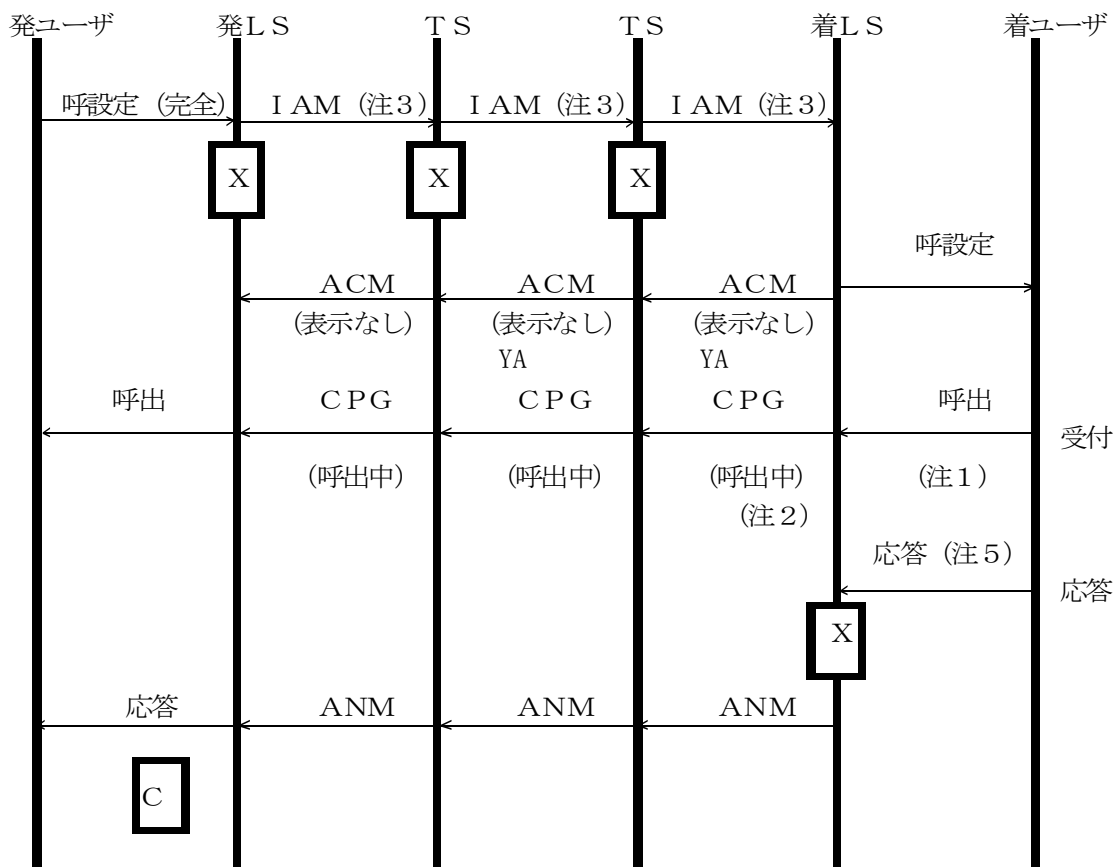
【技別4では▼▲の規定が異なる】

付属資料B (NTT-Q764-1)

基本呼制御信号手順

付図B-1~4/NTT-Q764-1にISDNの呼設定シーケンスを示す。

付図B-1/NTT-Q764-1 通常の完了呼(一括転送)【技別4に準拠する】



IAM アドレスメッセージ  
ACM アドレス完了メッセージ  
CPG 呼経過メッセージ  
ANM 応答メッセージ



両方向通話路接続



課金開始(課金は応答の前に行うこともオプションとして可能)

付図B-1B/NTT-Q764-1 通常の完了呼(一括転送・音声、3.1kHzオーディオ)

(注1) 呼出メッセージ(ALERT)は、自動応答着端末により提供されないかもしれない。この環境下では、応答信号(ANM)は、応答メッセージ(CONN)を受信し、音声パスのスルー接続を完結すると、直ちに送信される。

(注2) ISDN内の音声呼において、着交換機は、加入者が空であると知ると直ちに呼出音を適用する。データ呼には、呼出音は適用されない。

(注3) 導通試験は当社においてはデジタル回線のみであるので使用しない。

(注5) アクセスプロトコル例は、ポイント・ポイント動作に対してのみ示している。 ▲  
【技別4では▼▲を規定していない】

付図B-3/NTT-Q764-1 信号長オーバーメッセージを含む完了呼 【技別4に準拠する】  
付図B-4/NTT-Q764-1 正常の呼解放 【技別4に準拠する】

付属資料F (NTT-Q764-1)  
理由表示値 【技別4に準拠する】

付属資料H (NTT-Q764-1)  
状態遷移図 【技別4に準拠する】

▼付属資料I (NTT-Q764-1)  
エンド・エンド信号

#### I.1 概要

エンド・エンドメッセージは、回線交換接続の「エンド局」に関する情報のみを含む。「エンド局」とは、ローカル交換機及び網の境界の交換機、例. No. 7信号網内の国際関門局、のような信号局である。

I SDNエンド・エンド信号には、2つの方法が使用可能である。

- a : パスアロング法
- b : SCCP (信号接続制御部: Signalling Connection Control Part) 法

方法の選択は、ある程度まで、信号網の大きさと構成による。両方法は、網内に共存することが可能である。パスアロング法とSCCP法は、回線交換接続に対して規定される。

エンド・エンド信号で確立するエンド・エンド信号接続を、この節では、「I SDNユーザ部エンド・エンド信号接続」と呼ぶこととする。

節1.5は、エンド・エンド法とリンクバイリンク法の使用法について説明している。

#### H.3 SCCP法

SCCP法では、I SDNユーザ部は、エンド・エンド信号情報の転送のために、信号接続制御部(SCCP)のサービスを用いる。

##### I.3.1 呼番号 (Call reference)

呼番号は、特定の呼を識別するための回線とは独立な情報である。呼番号は、呼と関連するエンド・エンド信号情報が、接続レスSCCPサービスによって転送される時に必要となる。また、接続オリエンテッドSCCPサービスに対するSCCP接続要求(Connect ion request)がI SDNユーザ部に埋めこまれて転送される場合は、呼番号は省略される。

与えられた呼に対する呼番号は、2つの関連する信号局で独立に割り当てられ、そして、引き続き交換される。呼番号の割当ては、どちら側から開始されてもよい。呼番号は、呼識別番号と呼識別番号を設定した信号局番号から成る。例えば、信号局Aが呼番号の交換を開始した場合は、信号局Aは、呼識別番号CIAを選択し、Aの信号局番号PCAとともに呼識別番号を信号局Bに転送する。その後、信号局Bでは、当該呼に信号局B自身の呼識別番号CIBを割り当て、Bの信号局番号PCBとともに信号局Aに返送する。信号局Aから信号局Bに転送されるエンド・エンドメッセージに関連する引き続き呼は、呼識別番号CIBを含み、着信号局コードPCBを用いて直接ルーチングされる。逆に、信号局Bから信号局Aへ転送されるエンド・エンドメッセージは、呼識別番号CIAを含み、着信号局番号PCAを用いてルーチングされる。

網の境界では、呼番号の結合がなされなければならない。

##### I.3.2 コネクションセクションの結合

I SDNユーザ部エンド・エンド信号接続は、中継されるいくつかのコネクションセクションから成るかもしれない。SCCP中継局で2つのコネクションセクションを結合するために、呼番号の結合は、接続レスSCCPサービスに対してI SDNユーザ部によって実行され、ローカル参照番号の結合は、接続オリエンテッドSCCPサービスに対してSCCPで実行される。

呼番号の結合をI SDNユーザ部により実行されるSCCP中継局は、この節では、「SCCP中継局」と呼ぶ。

##### I.3.3 コネクションレスサービス



コネクションレスサービスに対して、ISDNユーザ部は、適当なサービスのプロトコルクラスの要求とともにSCCPに転送されるべきデータを転送する。相手ISDNユーザ部に対してこのデータを転送、伝達する信号情報は、完全にSCCPによって制御される。転送された情報と呼の対応づけは、この目的のために信号情報の一部として呼番号を転送するISDNユーザ部でなされる。

サービスのプロトコルクラスは、0になると想定される。個々の網は、あらかじめ決定された取り決めに基づいてクラス1を選択してもよい。

#### I.3.4 コネクションオリエンテッドサービス

##### I.3.4.1 ISDNユーザ部メッセージに埋めこまれた接続要求

コネクションオリエンテッドSCCPサービスに基づいたISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの確立を開始する交換機では、ISDNユーザ部は、SCCPに対して、SCCPエンド・エンドコネクションの接続要求に必要な情報を提供することを要求する。その後、この接続要求は、ISDNユーザ部メッセージに埋めこまれて転送される。着交換機では、接続要求はISDNユーザ部によってSCCPに転送される。その後、着交換機のSCCPは、接続要求が発交換機からSCCPによって直接送信されたがごとく動作する。着交換機のSCCPは、ISDNユーザ部に接続要求を表示し、ISDNユーザ部からの応答の受信で、発交換機のSCCPに接続確認メッセージを返送する。発交換機のSCCPは、ISDNユーザ部にエンド・エンドコネクションの設定を確認する。埋めこまれた接続要求の内容は、どの交換機のISDNユーザ部でも検査されない。

##### I.3.4.2 サービスのプロトコルクラス

サービスのプロトコルクラスは、2になると想定される。接続要求がプロトコルクラス3の場合は、ISDNユーザ部コネクション要求パラメータは、SCCP発ローカル参照番号に加え、明白なプロトコルクラス及びクレジット表示を含まなければならない。

##### I.3.4.3 結合のメカニズム

コネクションセクションの結合は、埋めこみ方法との組み合わせにおいて適切でないかもしれないが、網の境界では必要である。この場合、中継局でのISDNユーザ部は、エンド・エンドコネクションセクションの結合が実行されなければならないことを知っているため、ISDNユーザ部のメッセージに埋めこまれて受信された接続要求は、SCCPに転送される。そして、SCCPは、出ISDNユーザ部メッセージに接続要求が含まれるようにするため、新しいコネクションセクションに対するISDNユーザ部に接続要求を供給する。

コネクションセクションの結合が、ISDNユーザ部によって成功のうちに開始された後、中継局を通過するエンド・エンド信号情報は、ISDNユーザ部には転送されない。

##### I.3.4.4 ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの切断

SCCPエンド・エンドコネクションは、NTT-Q714-1に記述されている手順によって切断される。

物理コネクション及びISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションは、おたがいに独立に解放されることができる。

一般的に、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションと物理コネクションの両者は、同時に解放される。しかし、特定のアプリケーションに対しては、物理コネクションが既に解放されたにもかかわらず、SCCPエンド・エンドコネクションを保持することは可能である。

#### I.4 ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの連結

エンド・エンド信号情報の内容が、ISDNユーザ部によって検証される必要があるかもしれない交換機では、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションは連結される。2つのISDNユーザ部信号コネクションの連結は、1つのISDNユーザ部信号コネクションが終端し、それと連合した他のISDNユーザ部信号コネクションが、ISDNユーザ部を通して転送される全てのエンド・エンド信号情報を生成することを意味する。新しいISDNユーザ部信号コネクションは、前のものと違った特性を持つかもしれない。図I.12/NTT-Q764-1参照。

連結が当該呼に対して適正でなく、そのため、サービス要求が満足できなければ、呼は解放されてもよい。さらに、連結しているあるISDNユーザ部信号コネクションが確立することができないか、又は、異常に切断される場合は、当該呼は要求されたサービスがそれなしで完了できなければ、解放されてもよい。

#### I.5 プロトコル制御表示(PCI)の使用法

プロトコル制御表示は、エンド・エンド信号手順に関する制御情報である。それは、順方向呼表示及び逆方向呼表示のそれぞれの中に含まれ、(埋めこまれた接続要求が適当な信号に含まれていなくても、いても)メッセージのエンド・エンド転送に対し、もしあればどのようなエンド・エンド信号法が使用されるべきかを決定するため

に検査されなければならない。

以下の表示が含まれる。

- a. 他エンド局に（エンドエンド）に転送されることができる使用可能情報有。
- b. 2エンド局間でNo. 7信号方式1リンク，ルート上で相互接続無。
- c. パスアロング法使用可
- d. SCCPコネクションオリエンテッドクラス使用可
- e. SCCPコネクションレスクラス使用可
- f. ISDNユーザ部1リンク

## I.7 SCCP法の動作—コネクションレスサービス

### I.7.1 ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの確立の成功

#### I.7.1.1 ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションと物理コネクションの同時確立

物理コネクションと信号コネクションの同時確立の場合、呼の発交換機からのアドレスメッセージ（IAM）は、発交換機の信号局番号と呼識別番号から成る呼番号を含む。呼番号の包含は、暗に信号コネクションの確立が要求されていることを示す。着交換機が、呼番号を含むアドレスメッセージ（IAM）を受信し、信号コネクションが確立可能ならば、着交換機は、最初の逆方向メッセージ（例：アドレス完了メッセージ（ACM））に自局側の呼番号を含んで応答する。

SCCPが終端されるSCCP中継局では、その局での呼番号が信号コネクションに割り当てられ、呼番号の結合が成される。最初の逆方向メッセージが、呼番号を含む場合は、SCCP中継局は、それをその局での呼番号に置き換え、発交換機にその信号を中継する。

発交換機が、コネクションセクションの他方端の交換機から着番号を受信したら、信号コネクションが準備状態にあるとみなされる。エンド・エンド信号情報は、当該コネクション上を転送されることができる。

図 I.2/NTT-Q764-1 に上記の場合の手順を示す。

### I.7.2 信号コネクションの確立の不成功

信号コネクションが、確立不可能な場合、例、PSTNとのインタワーク時、発呼番号を含むアドレスメッセージ（IAM）に対する最初の逆方向メッセージは、呼番号を含まない。

この場合の手順を図 I.4/NTT-Q764-1 に示す。

これらの状況では、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションが、呼のサービス要求を足すことが必須ならば、呼は解放されうる。

これらの場合、呼番号は、節 I.7.4 で示されるタイマ（T31）の間保持される。

### I.7.4 信号コネクションの解放

#### I.7.4.1 物理コネクションと信号コネクションの同時解放

呼が解放された時に、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションは、同時に解放されると考える。ローカル交換機及びSCCP中継局で割りつけられた呼番号は、以下の節 I.7.4.2 で示すタイマT31の間保持される。

この場合の手順を図 I.6/NTT-Q764-1 に示す。

#### I.7.4.2 保持された呼番号

ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションが解放された時、この信号コネクションに対して割り当てられた呼番号は、タイマT31の間保持される。これらの呼番号は、保持期間の間他の信号コネクションに対しては使用されない。T31は、以前に使用された呼番号を持つ信号に誤って対応させる確率を十分に減じるために選択される。オプションとして、呼識別番号は、以前に使用された呼識別番号が、十分な時間の間、再び使用されないためにサイクリック法で、個々の信号コネクションに割り当てられてよい。

保持された呼番号を含んだエンド・エンドメッセージが受信されたらそれは廃棄される。

### I.7.5 エンド・エンドメッセージ転送

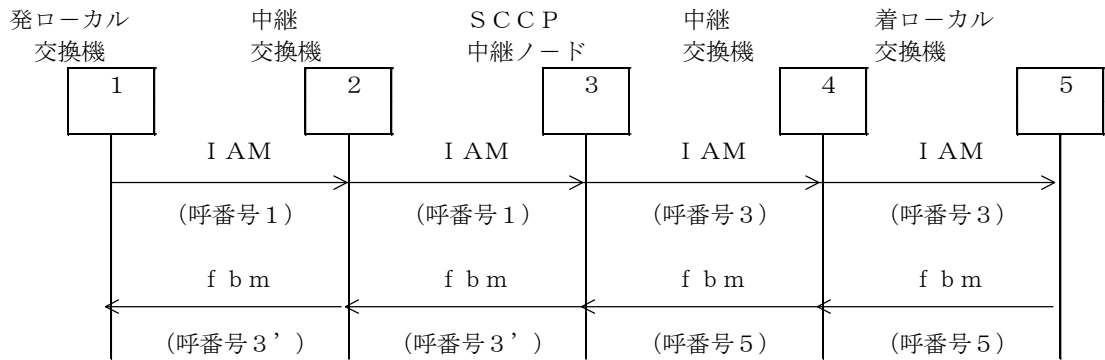
エンド・エンドメッセージは、NTT-Q714-1で定義されている手順に従って、SCCPユニットデータメッセージ（UDT）で転送される。ISDNユーザ部は、この転送に対してNTT-Q711-1で定義されるプリミティブを介してSCCPとインタフェースを持つ。ユニットデータ要求/表示プリミティブは、その

ユーザデータパラメータの中に、メッセージ種別で始まりパラメータで終了する I S D N ユーザ部メッセージを含む。

他のローカル交換機からの I S D N ユーザ部エンド・エンド信号接続の確立要求に対し応答したローカル交換機では、エンド・エンドメッセージは、タイム T 3 2 の間又は最初のエンド・エンドメッセージが他端から受信されるまでは、転送されることができない。T 3 2 は、応答するローカル交換機からのエンド・エンドメッセージが、信号接続の確立要求に対する応答を含む I S D N ユーザ部メッセージの前に、起動ローカル交換機又は S C C P 中継局で受信される確率を十分に減じるように選定される。

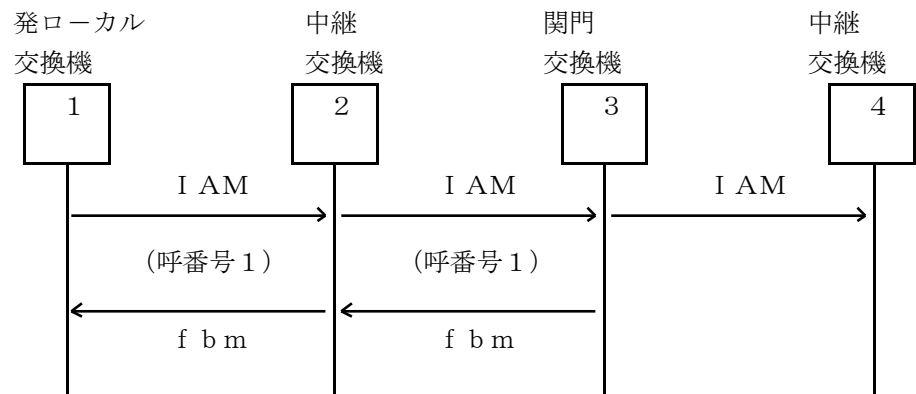
中継交換機が、U D T 中のエンド・エンドメッセージを受信した場合、いずれも可能ならば U D T は次局に転送される。

この場合の手順を図 I . 7 / N T T - Q 7 6 4 - 1 に示す。



f b m : 最初の逆方向メッセージ (例、A C M)  
 呼番号 i : 交換機 i での呼番号 (信号局番号 i + 呼識別番号)  
 注) 呼番号 3 と呼番号 3' は同じでも違ってよい

図 I . 2 / N T T - Q 7 6 4 - 1 物理接続と S C C P 接続レスクラスに基づいた I S D N ユーザ部エンドエンド信号接続の同時確立



f b m : 呼番号を含まない、可能ならエンド・エンド信号接続が確立できないことを意味するいくつかの表示 (例：相互接続) を含む最初の逆方向メッセージ

図 I . 4 / N T T - Q 7 6 4 - 1 I S D N ユーザ部エンド・エンド信号接続、S C C P 接続レスクラスの確立不成功例。P S T N との相互接続

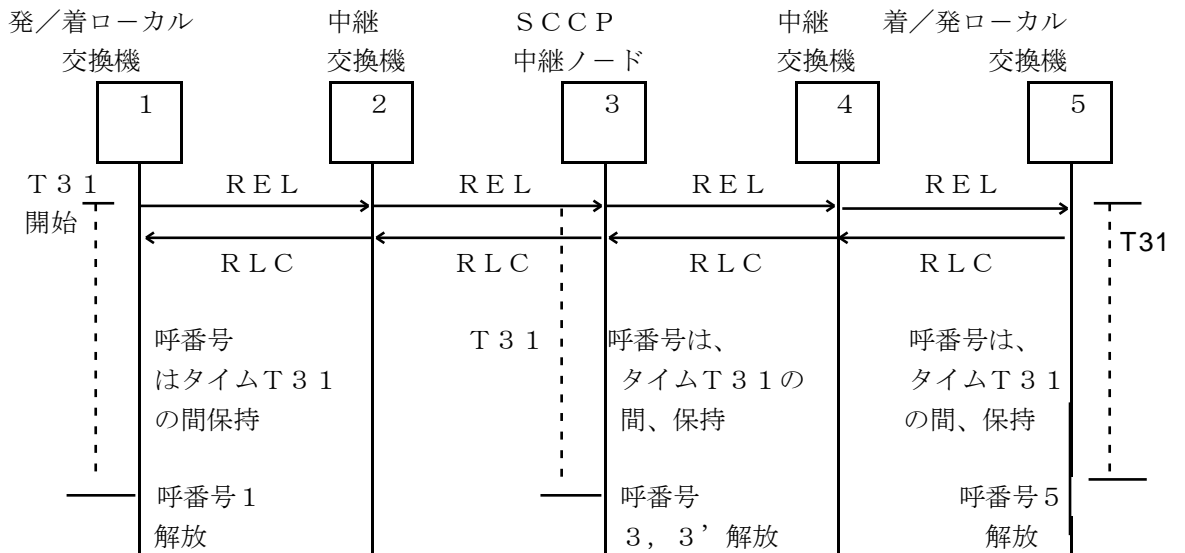


図 I.6/NTT-Q764-1 物理接続とSCCP接続クラスに基づいたISDNユーザ部エンド・エンド信号接続の同時解放

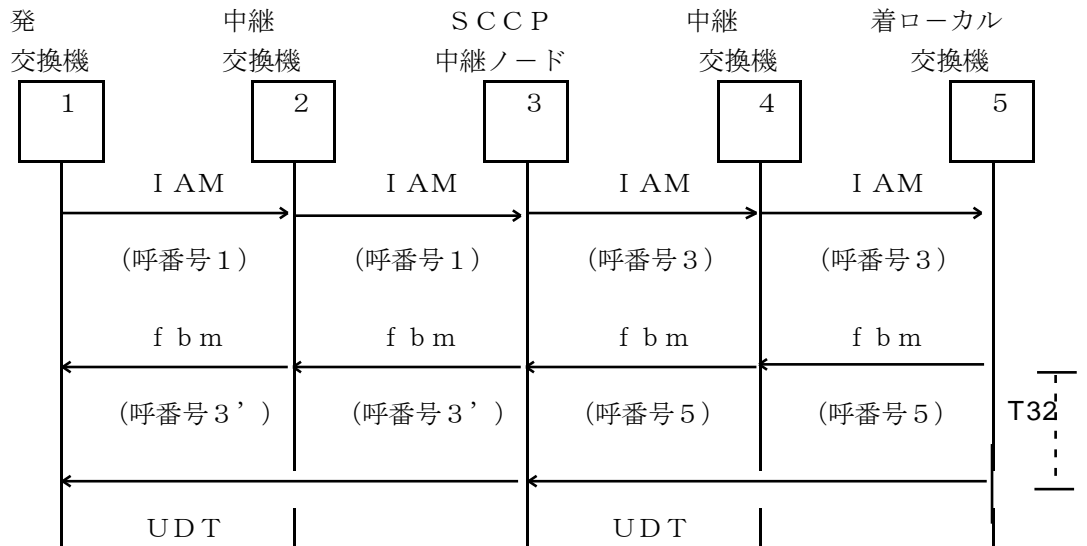


図 I.7/NJT-Q764-1 ISDNユーザ部信号接続確立要求に応答したローカル交換機からのUDTメッセージの転送

### I.8 SCCP法の動作—接続オリエンテッドサービス

アドレスメッセージ (IAM) は、接続要求を埋めこんで転送するのに使用される。規定される手順と図は、接続要求が順方向に送信される場合を示す。

ISDNユーザ部のメッセージに埋めこまれる接続要求に対しては、付加的なインタフェースが使用される。この機能インタフェースは、No. 7 信号方式信号接続制御部 (SCCP) NTT-Q 7 1 1-1 と NTT-Q 7 1 4-1 で規定されている。インタフェース要素は、本仕様の節 I.3.9 にリストされている。

SCCPに関連する手順は、No. 7 信号方式・信号接続制御部 (SCCP) NTT-Q 7 1 4-1 の規定に従う。ここでは説明の目的でのみ記述する。

#### I.8.1 ISDNユーザ部エンド・エンド信号接続の設定の成功

以下に示す動作は、ISDNユーザ部の信号に接続要求を埋めこんで転送するSCCPエンド・エンド接続の設定に対して、発交換機及び着交換機で実行される (本文の番号は、図 I.8/NTT-Q764-1 の番号と対応する)。

1. 発交換機の I S D N ユーザ部は、「要求種別 1」インタフェース要素を使用して、着アドレスに対する接続要求に必要な情報を提供するため、S C C P に要求する。
2. 発交換機の S C C P は、接続要求を生成し、それを「応答」インタフェース要素を使用して I S D N ユーザ部に転送する。
3. 発交換機の I S D N ユーザ部は、I S D N ユーザ部の信号に埋めこまれた接続要求を着交換機の I S D N ユーザ部に送信する。
7. 着交換機の I S D N ユーザ部は、I S D N ユーザ部の信号に埋めこまれた接続要求を受信したら、受信した接続要求を「要求種別 2」インタフェース要素を使用して、S C C P に転送する。
8. 着交換機の S C C P は、「N-接続」指示プリミティブを使用してエンド・エンドコネクションの確立に対する要求を I S D N ユーザ部に通知する。
9. I S D N ユーザ部は、「N-接続」応答プリミティブを使用して要求に応答する。
10. I S D N ユーザ部から「N-接続」応答プリミティブを受信したら、着交換機の S C C P は、逆方向に接続確認メッセージ (C C) を送信する。
12. 接続確認メッセージ信号 (C C) を受信したら、発交換機の S C C P は、「N-接続」確認プリミティブを使用して I S D N ユーザ部に通知する。

S C C P 中継局でない中継交換機では、I S D N ユーザ部メッセージに埋めこまれた接続要求は、I S D N ユーザ部によって変更なく、順方向に転送される。

S C C P 中継局とは、同一のエンド・エンドコネクションに属している 2 つのコネクションセクションが結合される交換機のことである。

以下に示す動作は、2 つのコネクションセクションの結合を行うために、S C C P 中継局で実行される (本文の番号は、図 I . 8 / N T T - Q 7 6 4 - 1 の番号と対応する)。

4. I S D N ユーザ部メッセージに埋めこまれた接続要求を受信したら、S C C P 中継局の I S D N ユーザ部は、応答要求セットとともに「要求種別 2」インタフェース要素を使用して受信した接続要求を S C C P に転送する。
5. 「要求種別 2」インタフェース要素の応答要求は、S C C P 中継局の S C C P に、新しいコネクションセクションに対する接続要求を提供することをもちたす。新しい接続要求は、「応答」インタフェース要素を使用して I S D N ユーザ部に提供される。

注) S C C P は、出ローカル参照番号を割り当てるとともに、入ローカル参照番号と出ローカル参照番号及びそれぞれ対応する信号局番号を結合させる。

6. S C C P 中継局の I S D N ユーザ部は、I S D N ユーザ部メッセージに埋めこみ接続要求を送信する。
11. 接続確認メッセージ (C C) を受信したら、S C C P 中継局の S C C P は、逆方向に接続確認メッセージ (C C) を送信する。

#### I . 8 . 2 S C C P エンド・エンドコネクションの設定の不成功

I S D N ユーザ部エンド・エンド信号コネクションが、中継交換機をこえて設定できない場合、

—例. 相互接続、のため

—この中継交換機の I S D N ユーザ部が、S C C P によって実行される接続要求の拒否を起動。物理コネクションの設定は継続されるかもしれない

I S D N ユーザ部が、アドレスメッセージ (I A M) に埋めこまれた接続要求の拒否を起動する場合は、一般的に以下の動作が実行される (図 I . 9 / N T T - Q 7 6 4 - 1 参照)。

1. 埋めこまれた接続要求を受信したら、I S D N ユーザ部は拒否通知セットとともに「要求種別 2」インタフェース要素を使用して、受信した接続要求を S C C P に転送する。

2. 拒否通知セットとともに「要求種別2」インタフェース要素を受信したら、SCCPは逆方向に接続拒否メッセージ(CREF)を送信する。
3. 接続拒否メッセージ(CREF)を受信したら、発交換機のSCCPは、「N-切断」指示プリミティブを使用してISDNユーザ部に通知する。

SCCP中継局のSCCPが、接続確認メッセージ(CC)の代わりに接続拒否メッセージ(CREF)を受信した場合、入接続コネクションセクションは、逆方向に接続拒否メッセージ(CREF)を送信されることにより、解放される。

着交換機のSCCPが、要求されたエンド・エンドコネクションの設定に失敗した場合は、「要求種別2」インタフェース要素で受信された接続要求を拒否するために、以下の動作が実行される。(図I.10/Q.764-1参照)

1. 着交換機のSCCPは、ISDNユーザ部に「N-切断」指示プリミティブを送信する。
2. 同時に、SCCPは、逆方向に接続拒否メッセージ(CREF)を送信する。

このような状況では、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションが、呼のサービス要求を満足するため必須であれば、呼は解放されうる。

### I.8.3 物理コネクションの設定の不成功

物理コネクションが、中継交換機で設定不可能な場合は、物理コネクションの解放に加え、これまで確立されたISDNユーザ部は、接続要求の拒否を起動する。論理コネクションが中継交換機を越えて設定できない場合と同じ動作が実行される。

物理コネクションが、着交換機で設定できない場合、ISDNユーザ部は、拒否又は、付加サービスしだいで接続要求の確認を起動することが可能である。発加入者による付加サービスの起動を可能とするため、常に接続要求の確認を起動する方が望ましい。

### I.8.4 ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの解放

#### I.8.4.1 物理コネクションとISDNユーザ部信号コネクションの同時解放

ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの解放は、当該呼の解放を開始する交換機から開始される。呼の解放を開始する交換機では、ISDNユーザ部の切断メッセージ(REL)が送信される時に、ISDNユーザ部は、SCCPに切断メッセージ(RLSD)を送信するよう要求する。この切断メッセージ(RLSD)は、ユーザ起動による通常の呼解放であれば、その切断理由パラメータの中に「エンドユーザ起動」の理由表示値を含む。

図I.11/Q.764-1は、この場合の手順を示している。

アプリケーションが、ISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの維持を必要としない場合は、ローカル交換機又は結合を実行する交換機のISDNユーザ部は、ISDNユーザ部が切断メッセージ(REL)を受信しているが、その時点で、SCCPがまだ切断メッセージ(RLSD)を受信していない時は、SCCPにSCCPエンド・エンドコネクションの解放を要求する。(図I.12/Q.764-1参照)

#### I.8.4.2 物理コネクションとISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの非同時解放

物理コネクションとISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの非同時解放の手順は、適切な付加サービスの手順の中で規定されるべきである。

### I.8.5 エンド・エンド信号転送

エンド・エンドメッセージは、NTT-Q714-1で規定されている手順に従って、SCCPのデータメッセージ(DT1/DT2)で転送される。ISDNユーザ部は、この転送のために、NTT-Q711-1に規定されているプリミティブを通してSCCPとインタフェースを持つ。「データ」要求/指示プリミティブは、そのユーザデータパラメータの中に、メッセージ種別コードで始まり、パラメータで終わるISDNユーザ部のメッセージを含む。

## I.9 ISDNユーザ部とSCCPのインタフェース要素 (埋めこまれて転送)

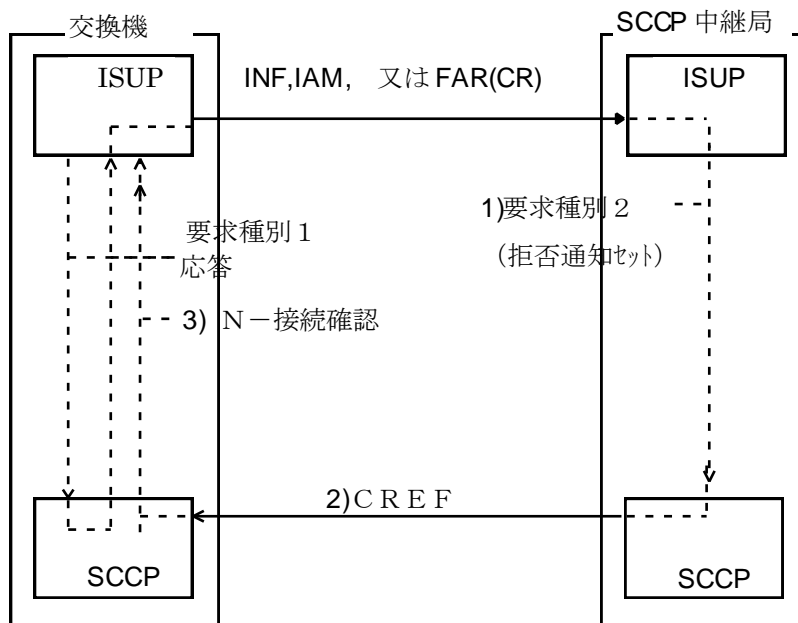
ISDNユーザ部は、NTT-Q711-1に記述されている機能インターフェースを使用してよい。

この機能インターフェースとして、3つのインターフェース要素が規定されている。

- a. 要求種別1
- b. 要求種別2
- c. 応答

これらの3つのインターフェース要素の内容は、NTT-Q764-1の付属資料I、付録に示されている。

図I.8/NTT-Q764-1、図I.9/NTT-Q764-1及び図I.11/NTT-Q764-1は、SCCPコネクションを伴った回線交換コネクションの設定でのインターフェース要素の使用法を示している。



図I.8/NTT-Q764-1 接続要求の埋め込み転送  
(SCCPエンド・エンドコネクションの設定の成功下での動作)

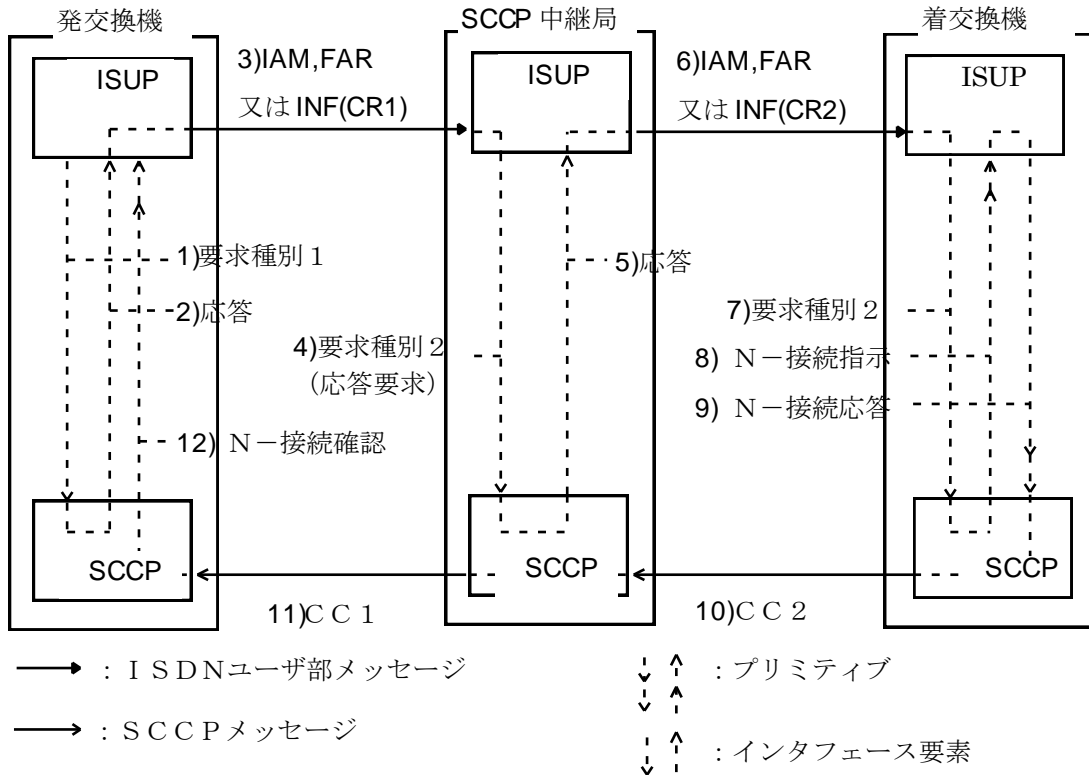


図 I.9/NTT-Q764-1 接続要求の埋め込み転送  
(ISDNユーザ部による接続要求の拒否)

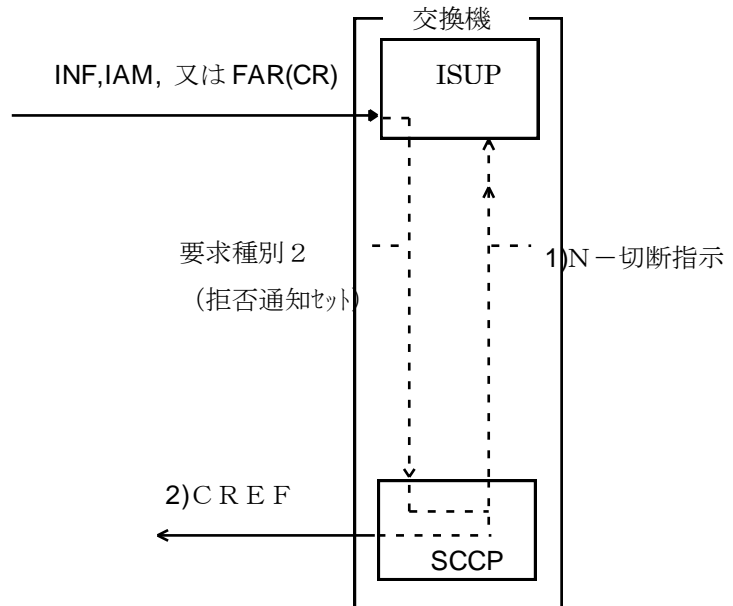


図 I.10/NTT-Q764-1 接続要求の埋め込み転送  
(着交換機での要求されたエンド・エンド接続の設定のSCCPでの失敗)



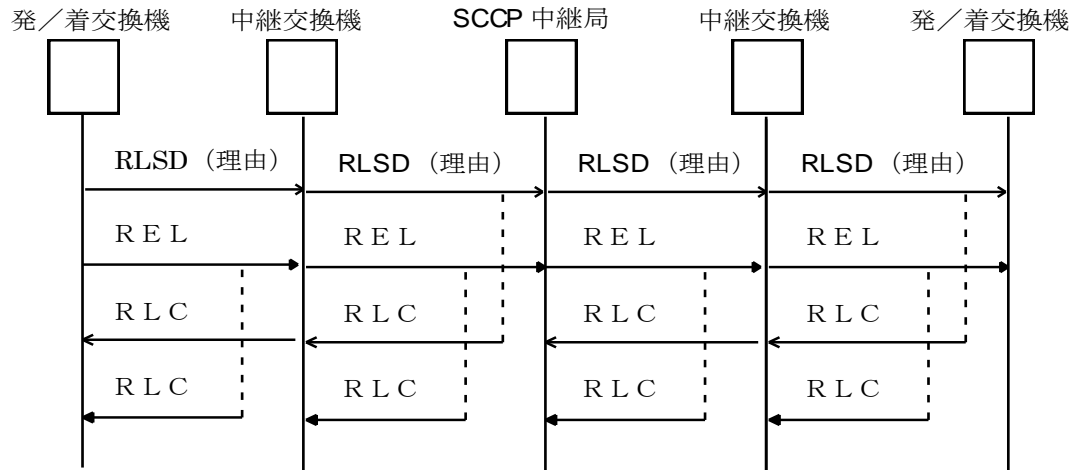


図 I.11/NTT-Q764-1 物理コネクションとSCCPコネクションオリエンテッドクラスに基づいたISDNユーザ部エンド・エンド信号コネクションの同時解放

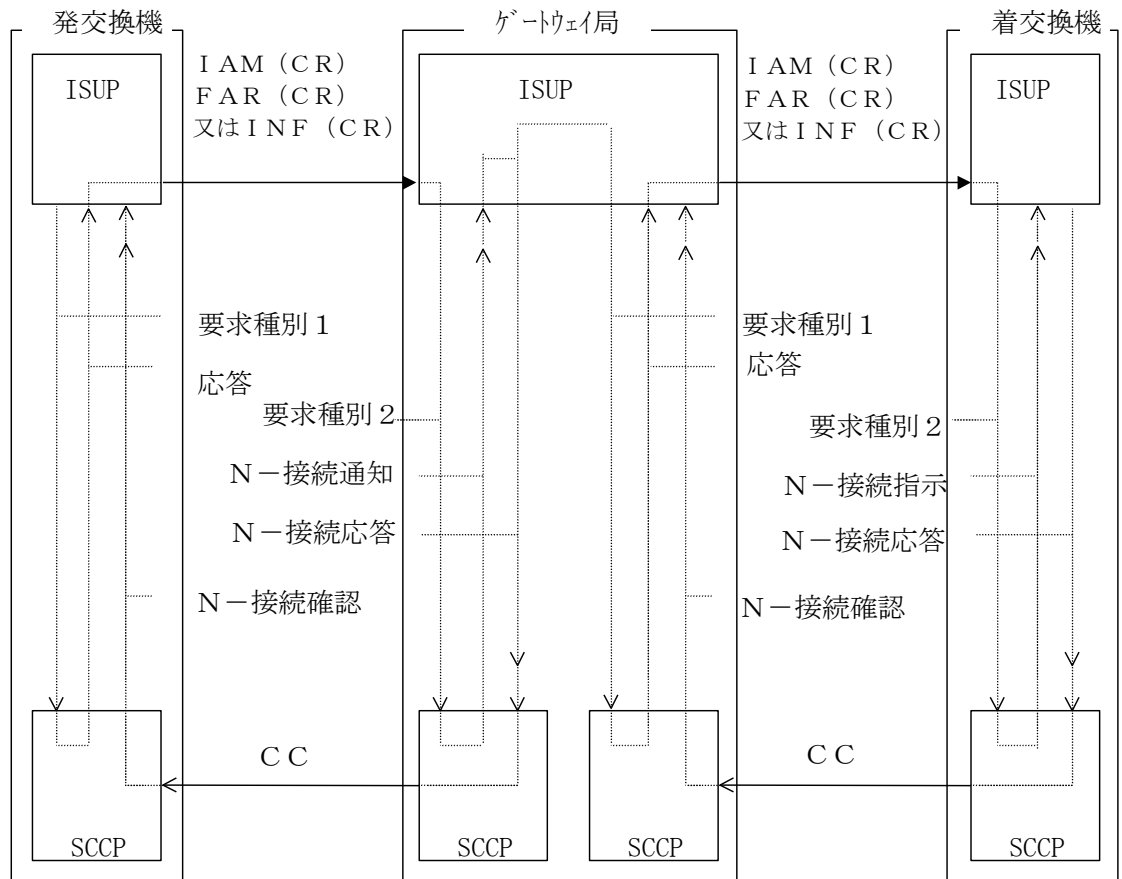


図 I.12/NTT-Q764-1 エンド・エンドコネクションの結合  
(出エンド・エンドコネクションは、入エンド・エンドコネクションと同じタイプであると仮定)

### ISDNユーザ部とSCCP間のインタフェース要素の内容

これらのインタフェース要素は、SCCP NTT-Q. 71×-1 シリーズで規定されている。ここでは、情報として説明する。

#### 1. 要求種別1の内容

要求種別1インタフェース要素は、以下のパラメータを含みうる。

- コネクション識別 1)
- 受信確認選択
- 優先データ選択
- サービス品質パラメータセット

#### 2. 要求種別2の内容

要求種別2インタフェース要素は、以下のパラメータを含みうる。

- プロトコルクラス
- クレジット
- コネクション識別 1)
- 発ローカル参照番号
- 発信号局番号
- 応答要求
- 拒否表示

#### 3. 応答の内容

応答インタフェース要素は、以下のパラメータを含みうる。

- 発ローカル参照番号
- プロトコルクラス
- クレジット
- コネクション識別 1)

注1) 今後の課題である ▲  
【技別4では▼▲を規定していない】

付属資料 a (NTT-Q 764-1)  
事業者間料金精算方式 【技別4に準拠する】

付属資料 b (NTT-Q 764-1)  
輻輳制御に対する二重制御の防止

▼ある情報に対して制御を実施する輻輳制御交換機は、当該輻輳に対して、既に前位の交換機で輻輳制御を受け(通過)した呼か、もしくは制御を受けていない呼(未制御呼)かを識別し、既に制御を受け(通過)した呼に対しては、同一輻輳に対する二重制御を抑止するために、以下の手順を適用する。

#### 1) 輻輳制御交換機

輻輳制御交換機は、もし前位交換機から輻輳制御済み通知情報パラメータを含まないアドレスメッセージを受信した場合、当該輻輳に対する輻輳制御を実施することができる。その場合、アドレスメッセージに輻輳制御済み情報通知パラメータを設定し、後位交換機に送出できる。輻輳制御済み情報通知パラメータの輻輳制御対象外桁数には、着番号パラメータに含まれるアドレス情報(輻輳制御交換機からの発信時は、着番号パラメータに設定するアドレス情報)の全桁数から、制御対象番号の桁数を引いた値が設定される。もし輻輳制御交換機が、前位交換機から輻輳制御済み通知情報パラメータを含むアドレスメッセージを受信してしている場合には以下の動作を行うことができる。

- a) 受信した輻輳制御済み通知情報パラメータに含まれる輻輳制御対象桁数が、当該交換機において実施しようとする輻輳制御の制御対象桁数と合致、もしくは小さい場合、前位交換機において当該輻輳制御が実施された、

もしくは更に厳しい制御を受けていると識別し、輻輳交換機に対する輻輳制御を実施せず、前位交換機から受信した輻輳制御済み通知情報パラメータを透過に後位交換機に送出する。

- b) 受信した輻輳制御済み通知情報パラメータに含まれる輻輳制御対象外桁数が、当該交換機において実施しようとする輻輳制御の制御対象桁数より大きい場合には、輻輳交換機に対して輻輳制御を実施し、輻輳制御済み通知情報パラメータに含まれる輻輳制御対象外桁数を新しい情報に上書きすると共に、後位交換機にアドレスメッセージを送出する。

## 2) 非輻輳制御交換機

輻輳制御を実施する必要がない非輻輳制御交換機は、前位交換機から輻輳制御済み通知情報パラメータを含むアドレスメッセージを受信した場合、後位交換機に対して透過にその情報を中継する。▲

【技別4では▼▲を規定していない】

付属資料c (NTT-Q764-1)

優先接続における固定塗替で選択された事業者名の音声通知手順 【技別4に準拠する】

付属資料d (NTTQ-764-1)

緊急通報呼の発信手順 【技別4に準拠する】